

塔ノ熊麿寺

中津市文化財調査報告 第39集

2006

中津市教育委員会

例 言

1. 平成17年3月1日、三光村は隣接する1市3町1村（中津市・本耶馬溪町・耶馬溪町・山国町・三光村）の合併に伴い、中津市三光となった。本報告書記載の調査は、三光村教育委員会において実施されたものであるため、当時の調査関係者等は、当時のままの名称を使用した。また必要に応じてカッコ書きで、現在の地名等を記載した。
2. 本書は三光村教育委員会が、平成2年度と平成3年度に緊急発掘調査を実施した塔ノ熊廃寺の発掘調査報告書である。
3. 本発掘調査は、大分県教育庁文化課指導のもと平田由美（現 中津市教育委員会）が行った。
4. 遺構実測については調査担当者が行い、遺物実測及びびトレースについては担当者のほか、(有)九州文化財総合研究所、金丸孝子（中津市歴史民俗資料館）、佐藤幸美が行った。
5. 遺構写真撮影は調査担当者が行い、遺物写真撮影は長谷川正美氏（中津市）にお願いした。
6. 出土遺物の整理は、主に三光村教育委員会で行った。
7. 本書の執筆・編集は、平田が行った。

本文目次

第1章 はじめに

1 調査の経過	1
2 位置と環境	2

第2章 調査の内容

第1節 調査の概要	4
第2節 第2次調査	
1 溝状遺構	
1) 3号溝	7
2) 8号溝	39
3) 10号溝	39
2 土坑	
3号土坑	41
3 検出	41
第3節 第3次調査	
1 溝状遺構	
3号溝	42
第4節 まとめ	69

挿 図 目 次

第 1 図	周辺遺跡分布図	3
第 2 図	遺構分布図	5~6
第 3 図	3号溝出土土器実測図	8
第 4 図	3号溝遺物出土状況実測図	9~10
第 5 図	3号溝周辺土層図	9~10
第 6 図	3号溝出土平瓦実測図	(1)	11
第 7 図	"	(2)	12
第 8 図	"	(3)	13
第 9 図	"	(4)	14
第10図	"	(5)	15
第11図	"	(6)	16
第12図	"	(7)	17
第13図	"	(8)	18
第14図	"	(9)	19
第15図	"	(10)	20
第16図	"	(11)	21
第17図	"	(12)	22
第18図	"	(13)	23
第19図	3号溝出土丸瓦実測図	(1)	26
第20図	"	(2)	27
第21図	"	(3)	28
第22図	"	(4)	29
第23図	"	(5)	30
第24図	"	(6)	31
第25図	3号溝出土熨斗瓦実測図	(1)	32
第26図	"	(2)	33
第27図	"	(3)	34
第28図	3号溝出土隅切瓦実測図	35
第29図	3号溝出土軒先丸瓦実測図	(1)	36
第30図	"	(2)	37
第31図	10号溝周辺土層図	39
第32図	8号溝・10号溝出土瓦実測図	40
第33図	3号土坑出土遺物実測図	41
第34図	第2次調査検出瓦実測図	42
第35図	3号溝遺物出土状況実測図	44
第36図	3号溝出土土器実測図	45
第37図	3号溝出土平瓦実測図	(1)	46
第38図	"	(2)	47
第39図	"	(3)	48
第40図	"	(4)	49

第41図	3号溝出土平瓦実測図	(5)	50
第42図	”	(6)	51
第43図	3号溝出土丸瓦実測図	(1)	53
第44図	”	(2)	54
第45図	”	(3)	55
第46図	”	(4)	56
第47図	”	(5)	57
第48図	”	(6)	58
第49図	”	(7)	59
第50図	”	(8)	60
第51図	”	(9)	61
第52図	3号溝出土熨斗瓦実測図	(1)	63
第53図	”	(2)	64
第54図	3号溝出土隅切瓦実測図	(1)	65
第55図	”	(2)	66
第56図	3号溝出土軒先丸瓦実測図	(1)	67
第57図	”	(2)	68
第58図	3号溝出土遺物実測図		68

表 目 次

第1表	3号溝出土平瓦観察表	(1)	24
第2表	”	(2)	25
第3表	3号溝出土丸瓦観察表		31
第4表	3号溝出土熨斗瓦観察表		34
第5表	3号溝出土隅切瓦観察表		36
第6表	3号溝出土軒先丸瓦観察表		38
第7表	8号溝・10号溝出土遺物観察表		38
第8表	3号溝出土平瓦観察表		52
第9表	3号溝出土丸瓦観察表	(1)	61
第10表	”	(2)	62
第11表	3号溝出土熨斗瓦観察表		64
第12表	3号溝出土隅切瓦観察表		64
第13表	3号溝出土軒先丸瓦観察表		65

写真目次

写真図版 1	70
平成3年度 3号溝遺物出土状況・平成2年度 3号溝完掘状況	
平成3年度 3号溝完掘状況	
写真図版 2	71
平成2年度 3号溝遺物出土状況・平成3年度 3号溝遺物出土状況	
平成2年度 8号溝遺物出土状況・平成2年度 10号溝完掘状況	
平成2年度 3号土坑遺物出土状況	
写真図版 3	72
第3図1・第3図2・第3図6・第3図8・第36図5・第36図7	
第36図10・第36図11・第36図14・第36図15・第36図16	
第33図1・第58図1・第58図3・第58図4	
写真図版 4	73
第6図2・第8図7・第37図1・第37図2	
写真図版 5	74
第19図1・第43図1・第45図5・第45図6	
写真図版 6	75
第25図1・第28図2・第28図6・第32図5	
写真図版 7	76
第34図3・第56図8・第57図9	
写真図版 8	77
第30図8・第34図2・第56図4・第56図5	

第1章 はじめに

1. 調査の経過

三光村（中津市三光）では平成元年に村の東側に位置する秣小学校の校舎建替が計画された。平成2年度はグラウンド部分の調査を行いその後新校舎を建設する計画で、平成3年度は旧校舎を取り壊した後調査を行い、グラウンド部分の工事を行う計画であった。一部の調査は平成元年度から行われ、本格的な調査は平成2年の4月から行われた。

平成元年度当時、村教育委員会には、文化財発掘の調査員は配置されておらず、当初は県文化課に調査を依頼した。

調査の関係者は以下のとおりである。

平成2年度

調査主体者	三光村教育委員会
調査責任者	松田一臣（三光村教育長）
調査員	村上久和 吉田寛（大分県文化課） 平田由美（三光村教育委員会）

平成3年度

調査主体者	三光村教育委員会
調査責任者	松田一臣（三光村教育長）
調査員	平田由美（三光村教育委員会）

調査には下記の人々があたった。

平成2年度

中野光男・上永紀代子・清城玉美・酒井キヨノ・佐々木貞子・楠木タカ子
相良スナミ・松本きよ子・松尾初枝・相良ヒデ子・相良トメ子・相良ノブ子
高畑キヨカ・清城公子・楠元強・今永丈夫・高橋キシノ・柿添福へ・舟本英子
川野ヨシ子

平成3年度

中野光男・上永紀代子・清城玉美・佐々木貞子・藤野武志・釘丸雪子
相良スナミ・松尾初枝・相良ヒデ子・相良トメ子・相良ノブ子・稲月智子
高畑キヨカ・川野ヨシ子・長谷川俊夫・長谷川正則・長谷川勝子・辻八千代
御家スミエ・井堀波子・坪根公子

整理作業には下記の人々があたった。

土橋厚子・乙咩里美

2. 位置と環境

中津市は大分県の北端にあって、東西側を福岡県との県境となる山国川が悠々と流れ、周防灘へと注いでいる。また平成17年3月の1市3町1村の合併により、新中津市はその面積をおよそ8倍に増やしている。その為、市の西側では、福岡県の上毛町、豊前市、築上町等に、また北側では、日田市、玖珠町等に、さらに東側は宇佐市に接する広大な面積が、新中津市となった。中津市の現在の人口は約86,500人、世帯数は約35,000戸を数える。

中津市三光は、旧三光村で、村の南側には村のシンボルである標高659mの八面山が所在し、中津平野に向かっていくつもの低い丘陵を形成している。またその裾部は開析谷によって、開かれている。

三光に所在する遺跡は現在までに確認されているだけで、かなりの数にのぼる。それらの遺跡の多くは、八面山からのびる低位丘陵及び山国川、犬丸川をはじめとした川の周辺に広がる平野部とに所在している。これらの遺跡は、開発による破壊を免れているものが多く、三光は遺跡の宝庫である。特に八面山を中心とした地域は、国指定名勝耶馬溪に指定されていることもあり、いまだ昔の様相を今に伝えている。しかし、国道10号線の開通及び大型ショッピングセンターの進出等により、開発の波は確実に押し寄せてきている。

第1図は旧三光村に所在する、遺跡の分布図である。南側には八面山があり、遺跡の多くは八面山を背に、西側から北側、東側の平野部に広がっている。それらの遺跡の多くは集落跡や墓域群である。南側の八面山は古くから信仰の対象として崇められ、多くの宗教関連遺跡が見られる地域である。

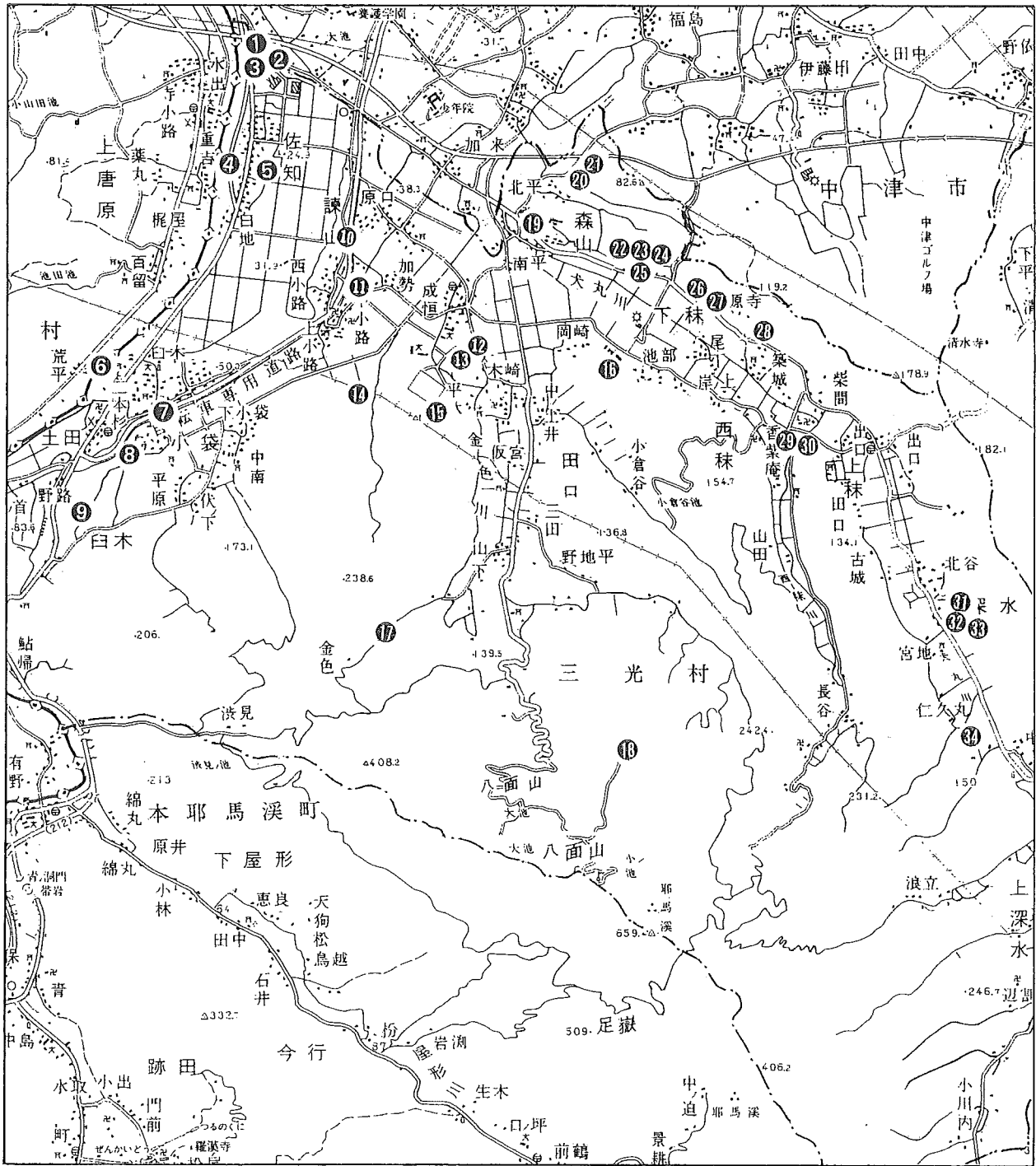
三光の代表的な遺跡としては、山国川の東側河岸段丘上に所在する佐知遺跡がある。平成元年度には佐知バイパスの工事に伴って調査が行われ、縄文時代から古墳時代、古代までの複合遺跡が確認された。また平成4年、10年度には大型ショッピングセンターの建設に伴い調査が行われ、遺跡に隣接する上ノ原横穴墓群に埋葬された人々の、生活したと思われる集落跡を確認することができた。

また旧中津市と接していた丘陵上では、いくつかの古墳群が確認されている。平成2年度に調査が行われた倉迫二ツ塚古墳では、2基の円墳を確認することができた。中でも2号墳は墳丘規模が最大で16mを測り、すでに天井石は取り除かれていたものの、遺物等の保存状態がよく、7世紀初頭の須恵器、玉等を確認することができた。

八面山から北側の田口・成恒地区に向けてのびる丘陵のほぼ先端部分には、4世紀後半から5世紀初頭にかけての祭祀土坑が確認された成恒笹原遺跡が所在する。この遺跡からは300点を超えるミニチュア土器が確認され、遺跡の所在する場所から想定して、八面山に対する何らかの宗教遺跡であることが考えられた。

また、村の東側の西秣・深水地区一帯は、埋蔵文化財の周知遺跡はほとんど見ることはできないが、この地区は石造文化財の宝庫である。長谷の谷をはじめ、深水の丘陵一帯には点々と石造物が所在している。それらの多くは、平成3年の台風19号やその他の天災により、山の木々は倒れ、土砂は流出したりしたため、倒壊したり一部埋まっている場所等もある。

以上のように三光にはさまざまな時代のさまざまな遺跡が所在している。遺跡の多くは良好な状態で保存されているものがほとんどであるが、特に石造文化財等はその所在があやふやなものも多くある。平成8年から12年にかけて旧三光村では特に石造文化財の掘り起こし調査を行ってきたが、その後新たに見つかった石造物もある。今後さらに調査は継続していく予定である。



第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/50,000)

- | | | | | |
|-------------|-----------------|---------------|-------------|-------------|
| 1. 上ノ原横穴墓群 | 8. 外圍遺跡 | 15. 庵ノ尾横穴墓群 | 22. 美濃尾遺跡 | 29. 塔ノ熊窯跡 |
| 2. 上ノ原平原遺跡 | 9. 臼木上ノ原遺跡 | 16. 岡崎遺跡 | 23. 倉迫平古墳 | 30. 塔ノ熊廃寺 |
| 3. 佐知久保畑遺跡 | 10. 諫山遺跡A,B,C地区 | 17. 妙見宮祭祀遺跡 | 24. 倉迫二ツ塚古墳 | 31. スリヤネ城跡 |
| 4. 佐知遺跡 | 11. 諫山糸永遺跡 | 18. 八面山山頂祭祀遺跡 | 25. 野辺田横穴墓群 | 32. 深水邸埋納遺跡 |
| 5. 佐知柿木遺跡 | 12. 瑞雲遺跡 | 19. 洗添横穴墓群 | 26. 三塚古墳 | 33. 下深水小路遺跡 |
| 6. 城の百穴横穴墓群 | 13. 成恒笹原遺跡 | 20. 北平横穴墓群 | 27. 天神原横穴墓群 | 34. 爰迫遺跡 |
| 7. 臼木古墳群 | 14. 鴨山横穴墓群 | 21. 森山遺跡 | 28. 大源寺横穴墓群 | |

第2章 調査の内容

第1節 調査の概要

塔ノ熊廃寺は現中津市三光西株に所在する寺院跡の遺跡である。この遺跡は、八面山からのびる丘陵が犬丸川と接する標高約50mのやや細い丘陵先端部に所在する。

この遺跡の発見の契機となったのは、1987年（昭和62年）2月、この丘陵の東側水田の圃場整備工事中に、水田の表土中に多量の古瓦が出土することが地主によって発見されたことに端を発する。この古瓦の中に新羅系古瓦が含まれていることを地元の古瓦研究者であった故 吉田良介氏によって指摘され、1988年（昭和63年）3月に、大分県文化課によって遺構確認調査が行われた。この調査によって、雨落ち状の溝および地山削り出しの遺構を確認するとともに、瓦器碗、平瓦、軒先丸瓦等を検出した。

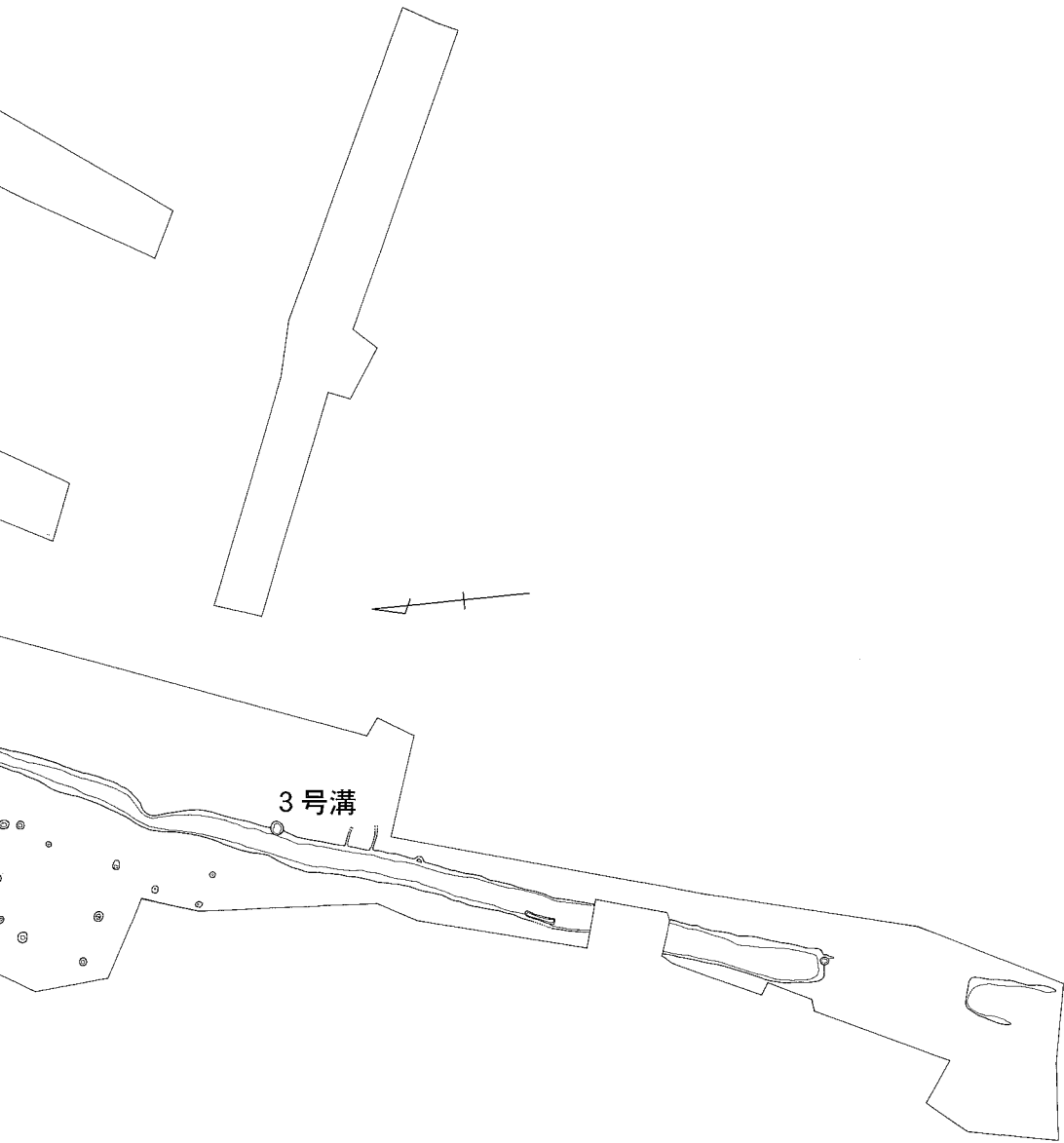
昭和63年に行われた丘陵東側斜面部の調査により、丘陵頂部に遺跡の所在することが想定されたため、平成2年度は、まず新校舎予定地部分全体の表土剥ぎを行った。予定地は当時運動場になっていたが、明治・大正の学校建設時の造成によって大きく削平され、中央部分ではほとんど遺構を確認することはできず、調査区北側中央部に東西にのびる溝を1条確認したのみである。しかし丘陵西側は比較的保存状態がよく土坑を1基、また溝を1条確認することができた。丘陵東側斜面部も保存状態が良く、段造成部分及び南北にのびる東西の区画溝1条を確認した。

平成3年度は旧校舎が建設されていた部分を取り壊し、その後校舎、体育館等の基礎の入っていない部分の調査を行った。結果、平成2年度に確認された丘陵斜面部西側の溝の延長部分が確認され、前年度調査分とあわせて南北長約80mを確認することができた。また確認された溝状遺構の西側には柵列状に、溝に並行するようにピット群が点々と確認された。

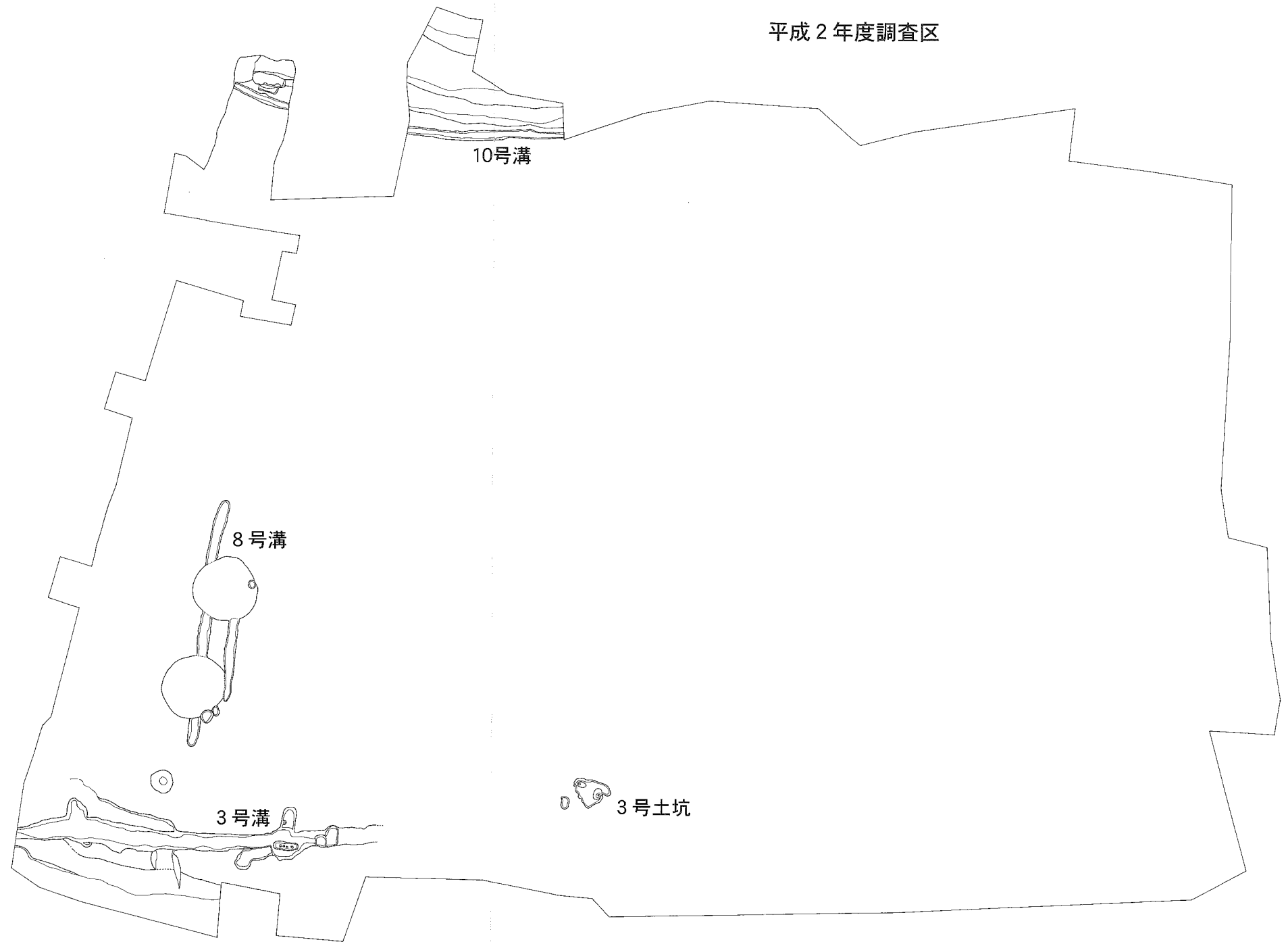
遺跡の範囲であるが、東西の溝がその間43mあり、東西幅については約半町と推定された。しかし東側と西側の溝のレベル差があり、東西幅については疑問も残る。南北に関しては南側部分が一部削平されてはいたが、約1町と推定される。伽藍配置等については中央部分が大きく削平されていたため不明である。

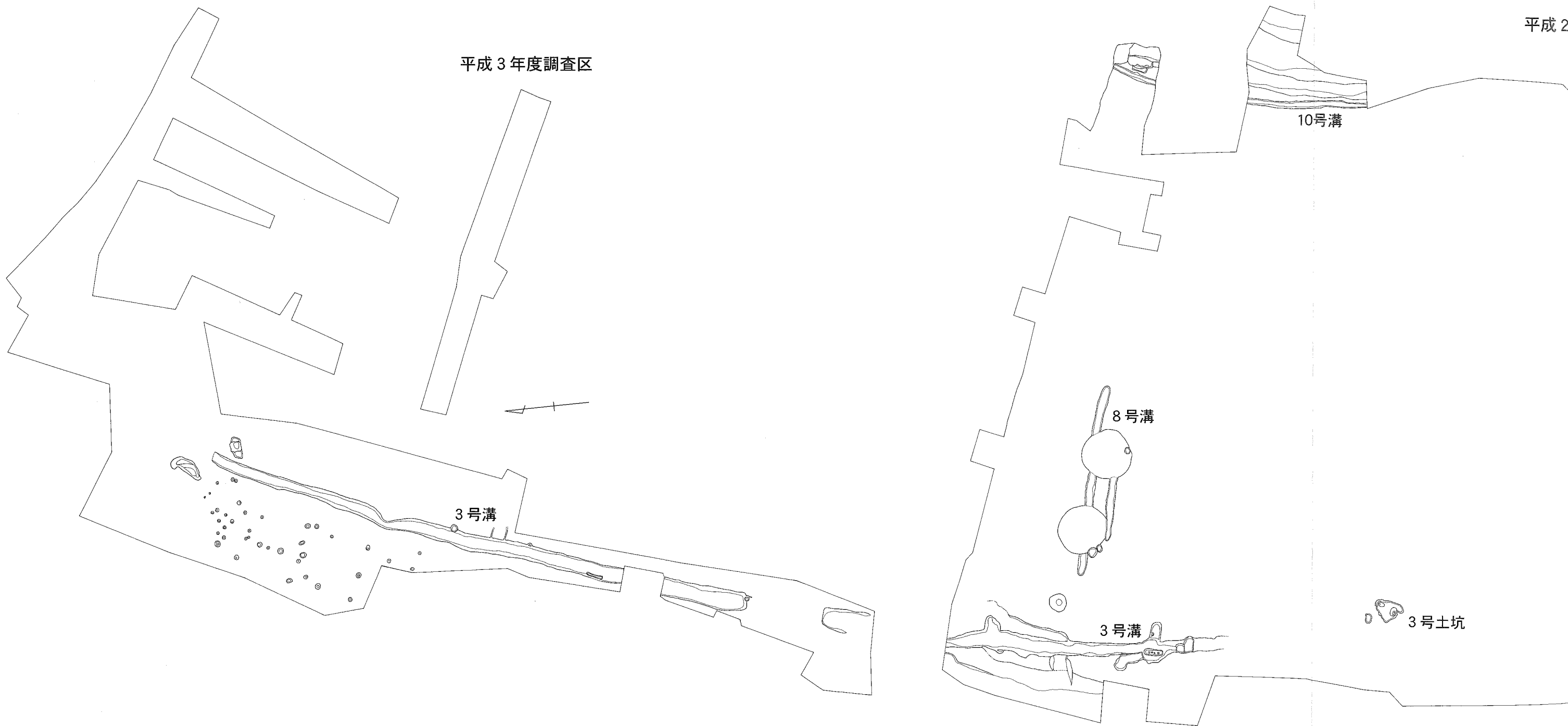
遺構番号については、調査年度は2カ年にわたっているが遺跡としてはつながりを持った同一遺跡であることから、2カ年を通して同じ遺構については（3号溝）同じ番号を使用した。ただし今回報告書を作成するにあたっては、調査年度によりそれぞれの年度に分けて報告を行っている。

平成3年度調査区



平成2年度調査区





第2図 遺構分布図 (S=1/300)

第2節 第2次調査

1 溝状遺構

1) 3号溝

・遺構

この遺構は調査区の西側で検出されたもので、遺構の南側は後世の開発行為などにより、一部確認することができなかった。遺構は、丘陵のほぼ端に南北にのびるように検出されている。確認できた南北長は約20mで、幅約1.0m、深さ0.4mを測る。確認された遺物のほとんどは古瓦で、南側ではほとんど確認することはできなかった。

確認された遺物は、平瓦を中心に丸瓦、鬘斗瓦、隅切瓦、軒先丸瓦である。軒先平瓦については確認することはできなかった。

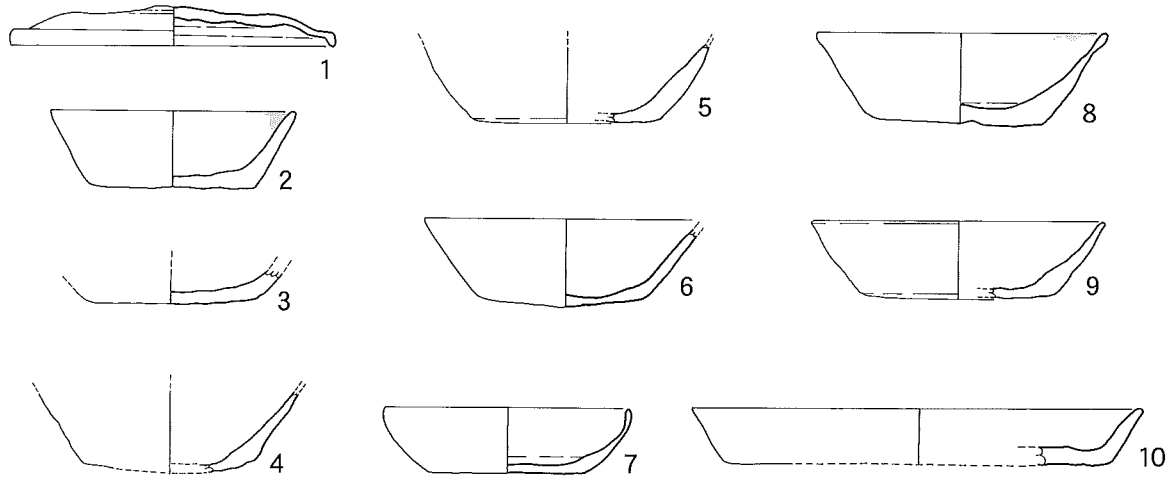
また検出された遺構の北側では、瓦が集中して出土する地点があり、出土した瓦のほとんどはこの北側から確認された。重機による表土剥ぎ作業中、ほぼ完全な形で確認された鬼瓦が出土したのもこの北側の部分である。

検出された遺構の中央よりやや北側の部分を東西に断ち割り、土層の確認を行った。4の暗褐色粘質土は溝状遺構の排土と思われる。5の暗茶褐色粘質土は溝状遺構の廃絶後、堆積した風化土で、遺物の多くはこの層から確認された。6の暗灰褐色粘質土は近代以前の旧地表である。7の赤褐色粘質土と8の赤茶褐色粘質土は、近代の造成土である。9の茶褐色粘質土は近代の旧地表である。12・13はグラウンドの埋土である。14の茶褐色粘質土は、地山の二次堆積土で、15の暗褐色粘質土では、瓦等の遺物を多く確認することができた。

・出土遺物

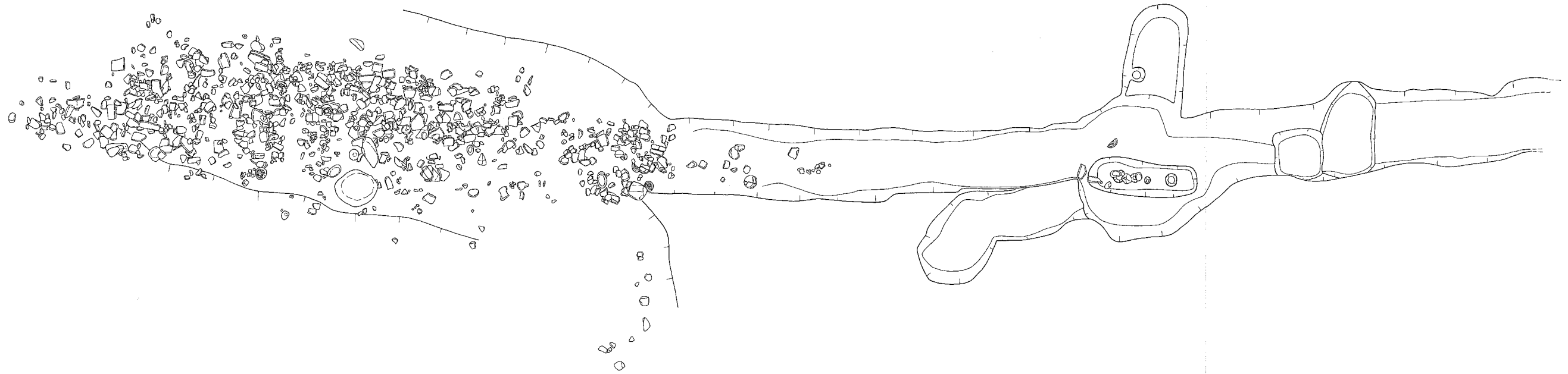
土器

1は須恵器蓋で、色調は、内外面ともに灰色である。胎土は、白色砂粒を含んでいる。焼成は、良好である。内面は、ナデを施している。外面上部はヘラケズリ後ナデを施し、下部は回転ヨコナデを施している。2は土師器杯で、色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は、良好である。内面は、ヨコナデを施している。外面下部は回転ヘラキリ後ナデ、上半部はヨコナデを施している。3は皿で、現存器高1.4cmを測る。色調内面は橙色で、一部にぶい黄橙色、褐灰色、黄灰色、明褐色である。外面はにぶい褐色で、一部橙色、明黄褐色、褐灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は、良好である。内面はナデを施しており、外面はヘラケズリ後ナデを施している。4は杯で、現存器高3.3cmを測る。色調内面は橙色で、一部暗灰色である。外面は橙色で、一部灰白色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は、良好である。内外面ともに器面荒れのため、調整は不明である。5は杯で、現存器高3.15cm、底径7.6cmを測る。色調内面は灰黄褐色で、一部灰褐色、灰色である。外面は橙色で、一部にぶい黄橙色、褐灰色である。胎土は、石英、長石、角閃石、雲母を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデを施しており、底部はヘラケズリのちナデを施している。6は土師器杯で、色調は、内外面ともに明褐色である。胎土は、角閃石、石英を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに器面荒れのため、調整不明である。7は土師器杯で、色調は、内外面ともに淡褐色である。焼成は良好である。内外面ともに器面荒れのため、調整不明である。8は土師器杯で、色調は、内外面ともに暗褐色である。胎土は、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面はヨコナデを施しており、外面下部はヘラキリのちナ

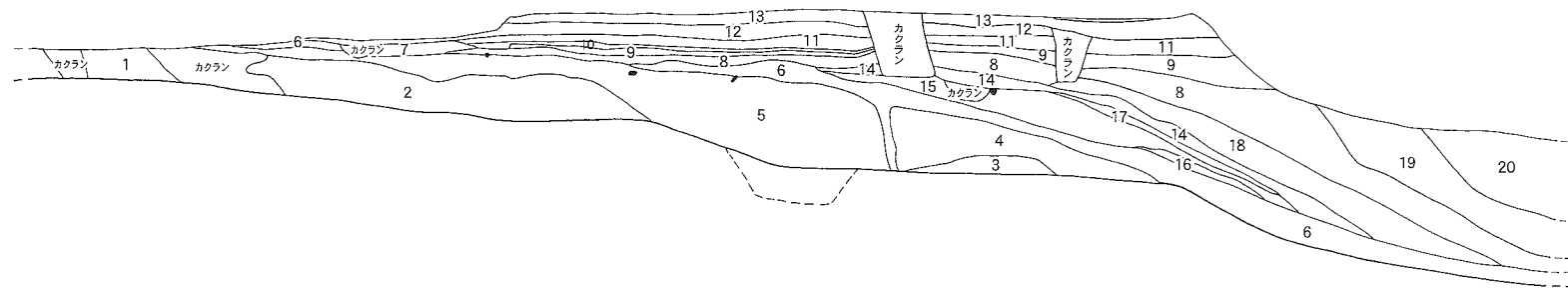


第3図 3号溝出土土器実測図 (S=1/3)

デ、上半部はヨコナデを施している。9は杯で、器高3.1cm、口径11.6cm、底径7.8cmを測る。色調内面は明黄褐色で、一部橙色、明灰黄色、暗灰色である。外面は橙色で、一部黄灰色、にぶい黄橙色である。胎土は、長石、雲母、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデを施しており、底部はヘラケズリのちナデを施している。10は須恵器盤で、色調は、内外面ともに青灰色である。胎土は、角閃石を含んでいる。焼成は、良好である。内外面ともにナデを施している。



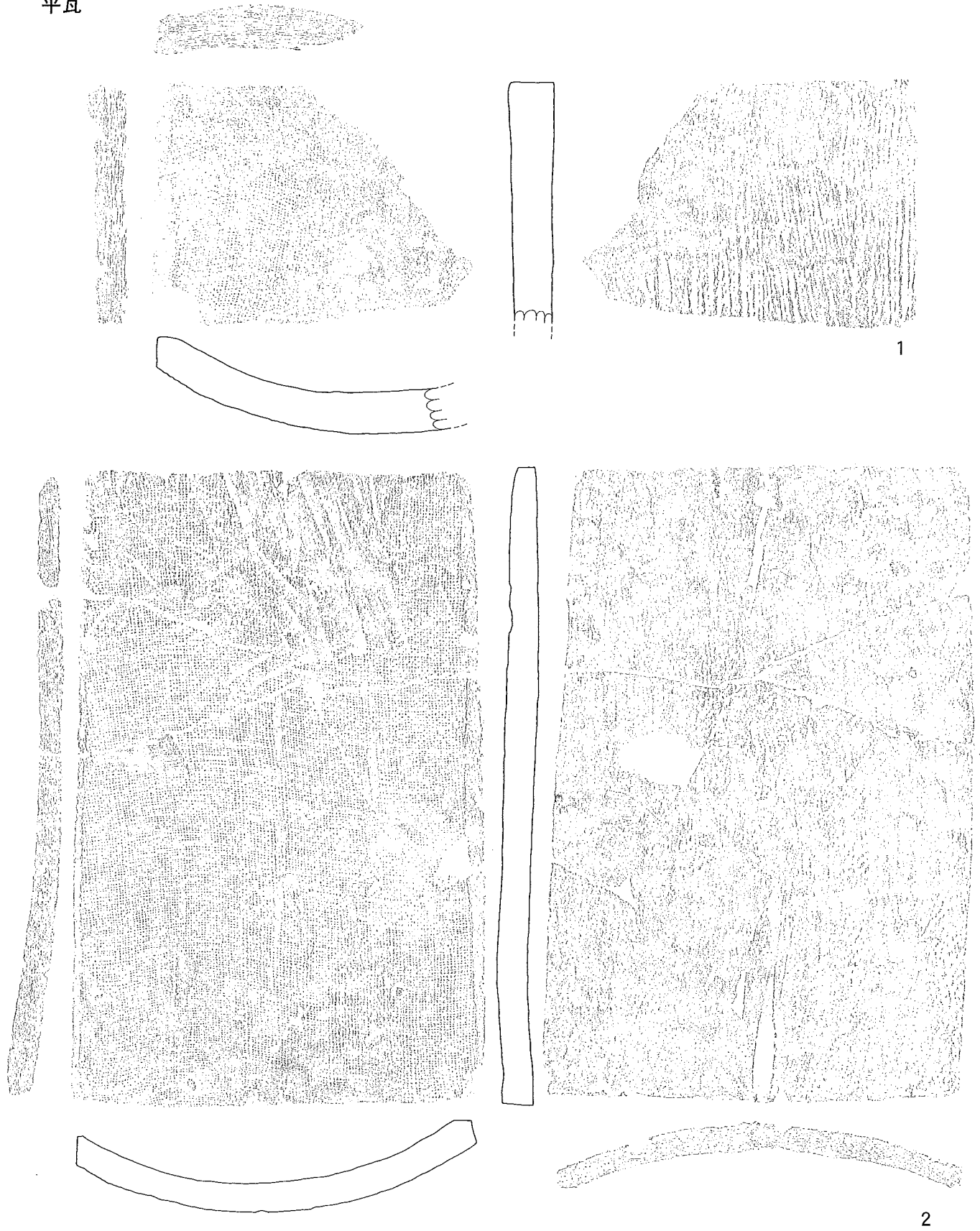
第4図 3号溝遺物出土状況実測図 (S=1/60)



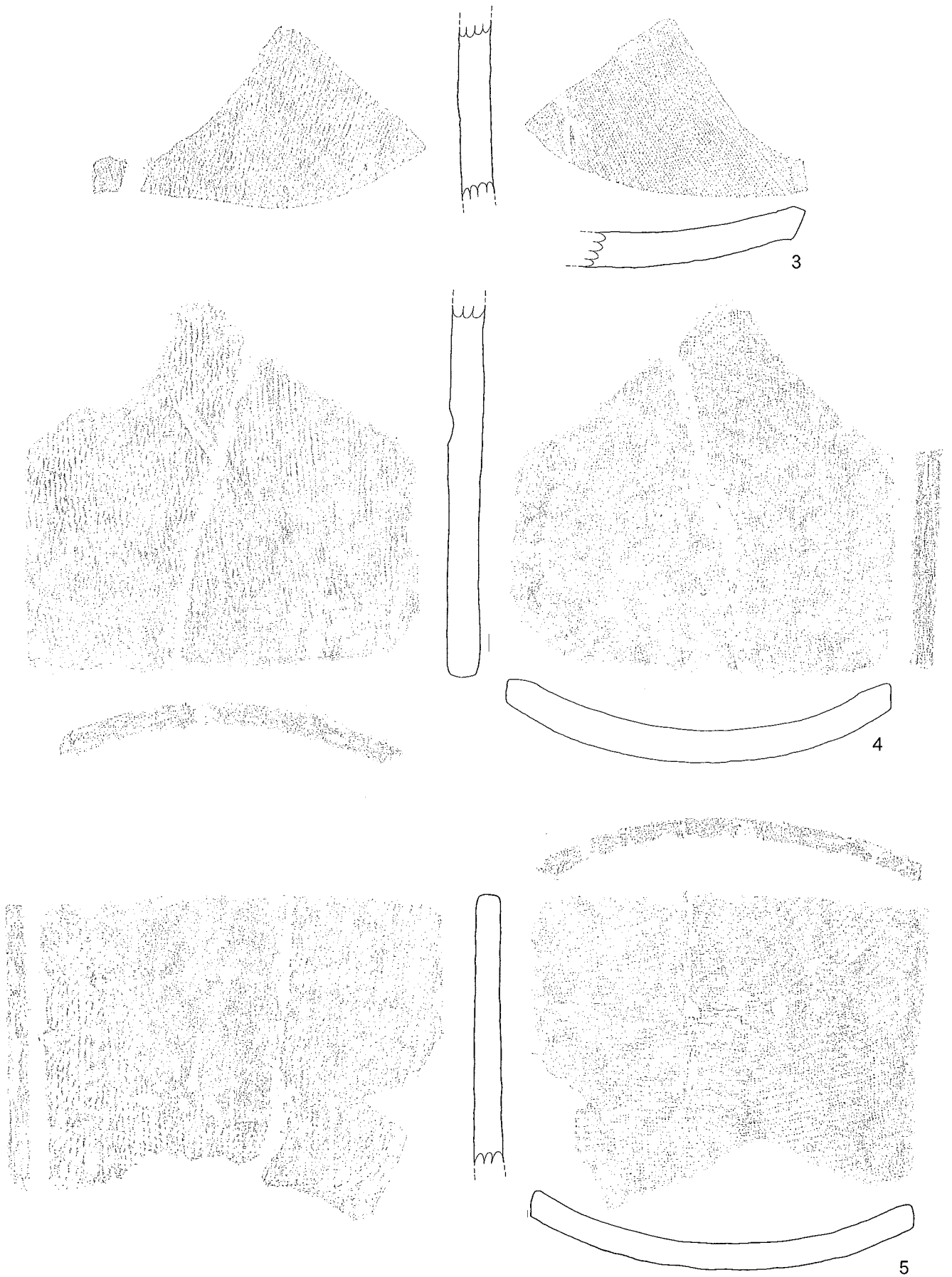
第5図 3号溝周辺土層図

- 1 地山 (風化礫層)
- 2 暗赤褐色粘質土 (地山の二次堆積土)
- 3 地山
- 4 暗褐色粘質土 (地山の二次堆積土)
- 5 暗茶褐色粘質土
- 6 暗灰褐色粘質土 (ややハード)
- 7 赤褐色粘質土
- 8 赤茶褐色粘質土 (地山の二次堆積土)
- 9 茶褐色粘質土 (ややハード)
- 10 茶褐色粘質土
- 11 黄茶褐色粘質土 (ややハード)
- 12 グランド表土
- 13 グランド埋土
- 14 茶褐色粘質土 (地山の二次堆積土)
- 15 暗褐色粘質土 (ややハード)
- 16 赤褐色粘質土
- 17 暗褐色粘質土 (ソフト)
- 18 赤褐色粘質土
- 19 赤褐色粘質土
- 20 茶褐色粘質土

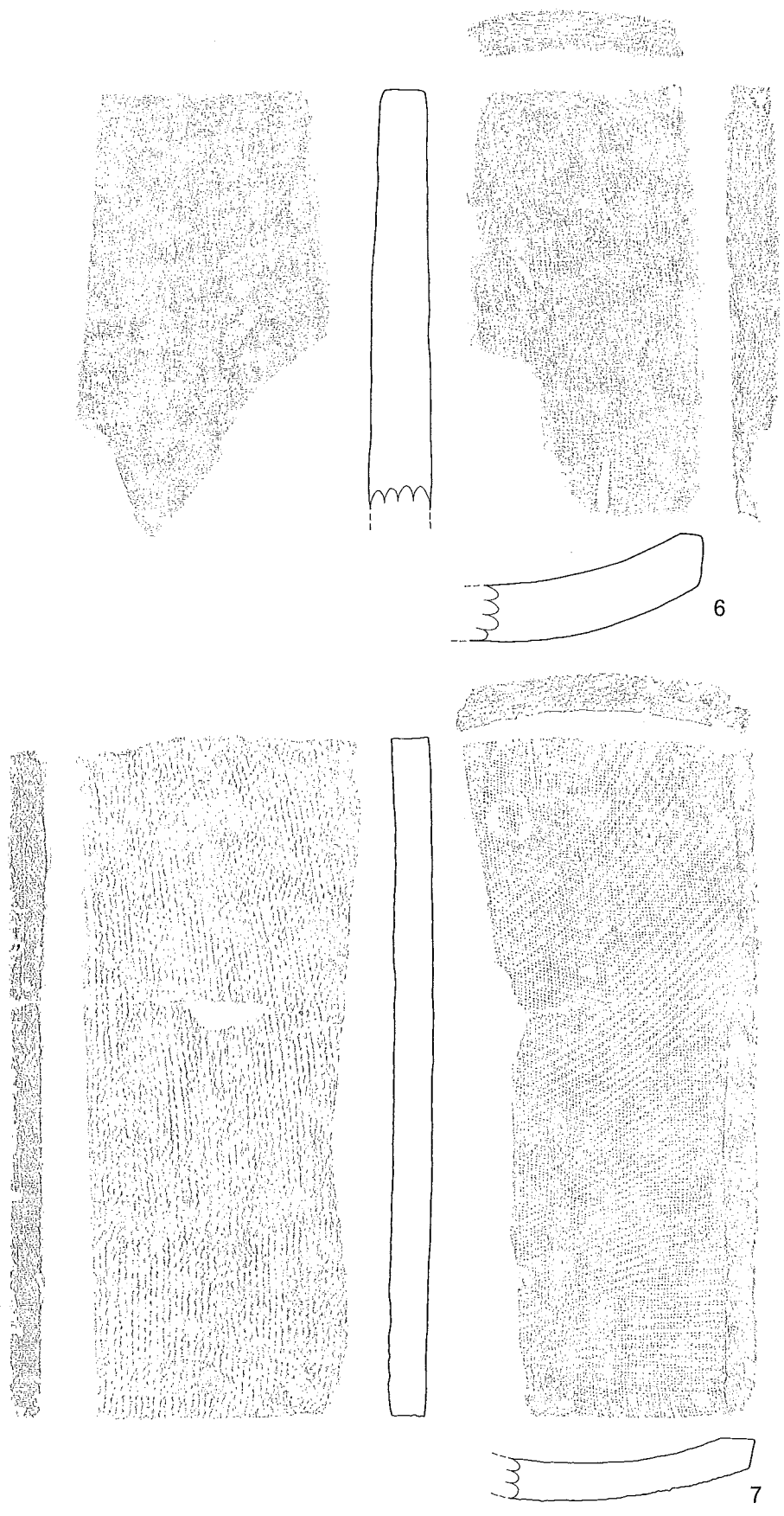
平瓦



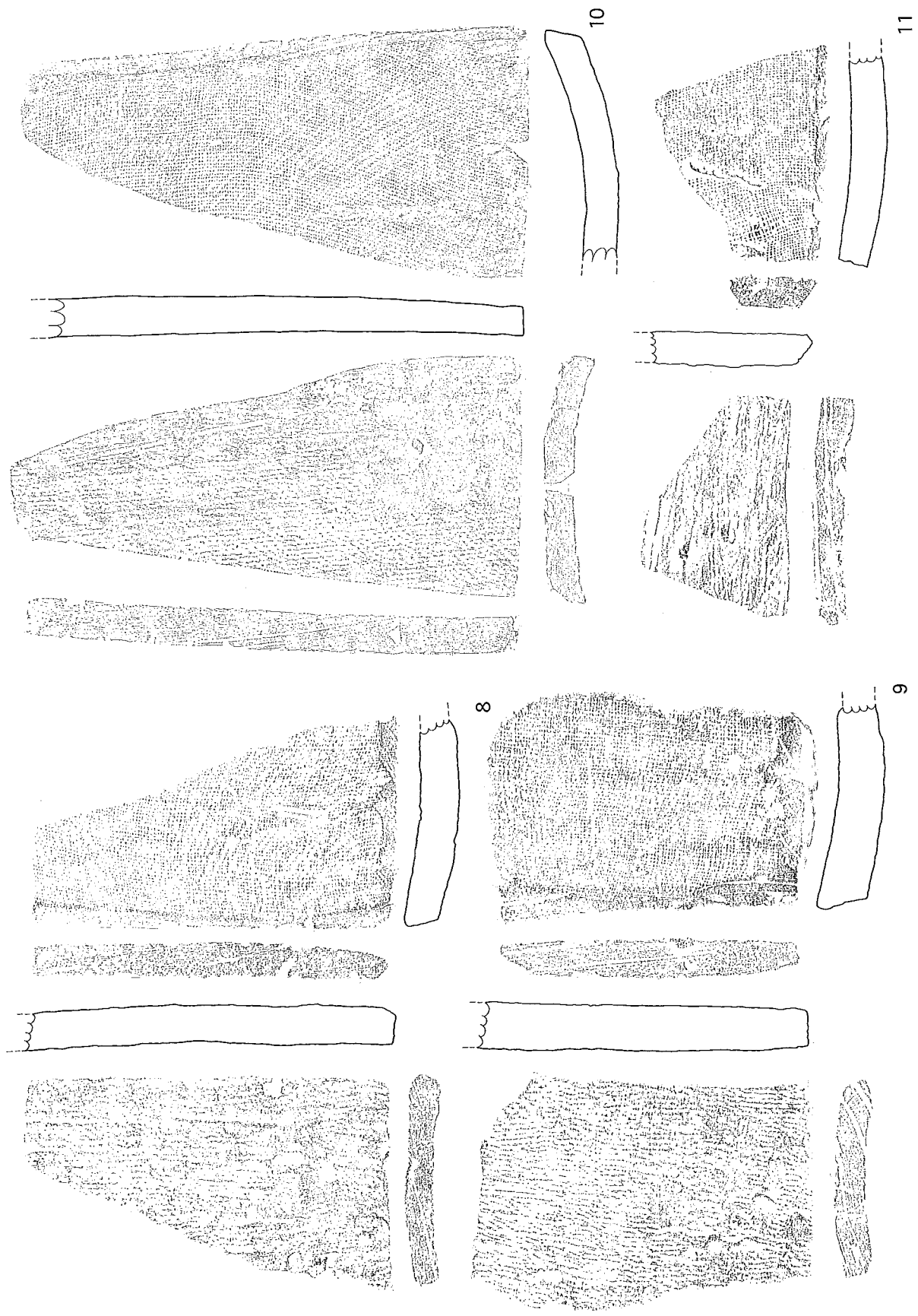
第6图 3号沟出土平瓦实测图(1) (S=1/3)



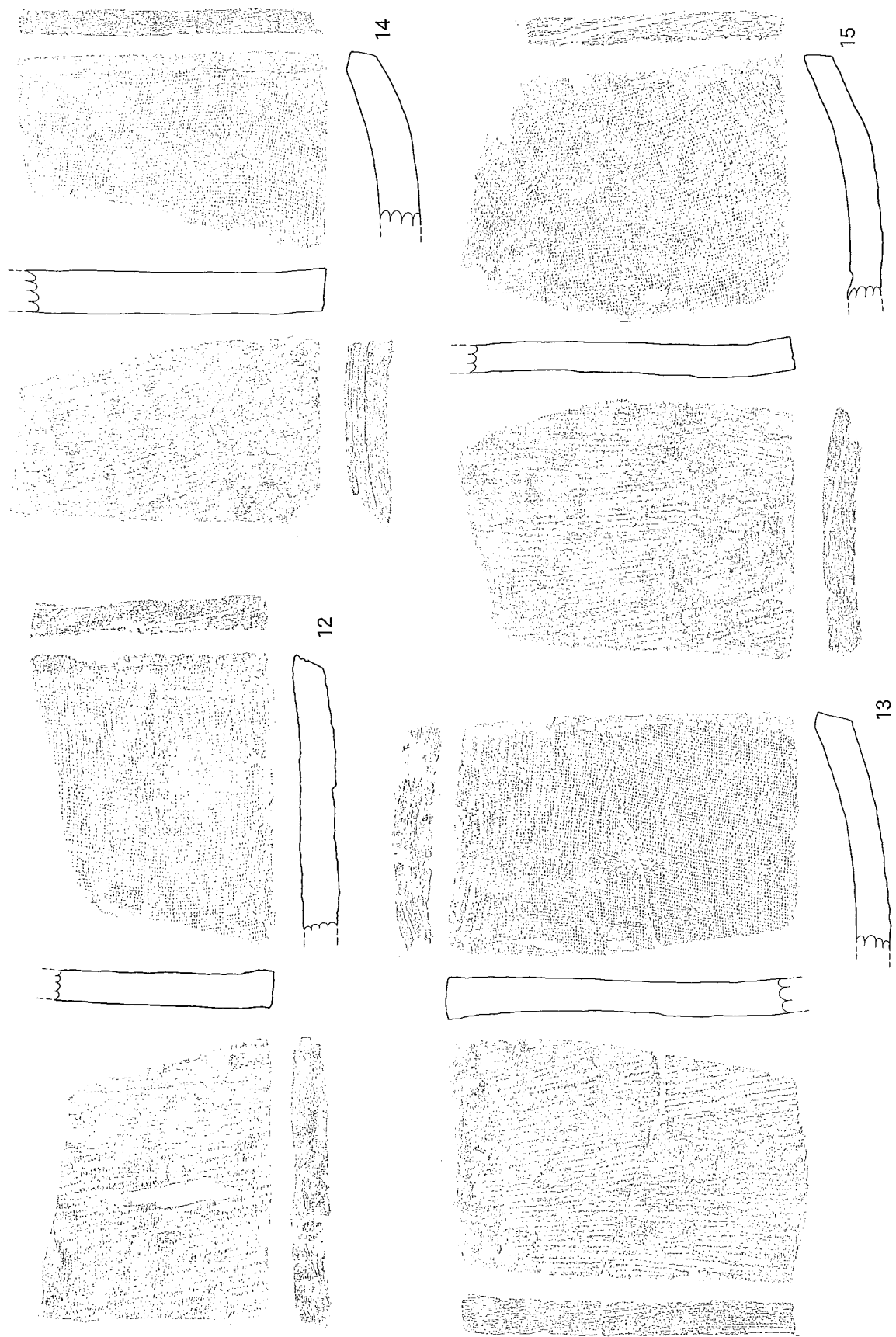
第7图 3号沟出土平瓦实测图(2) (S=1/3)



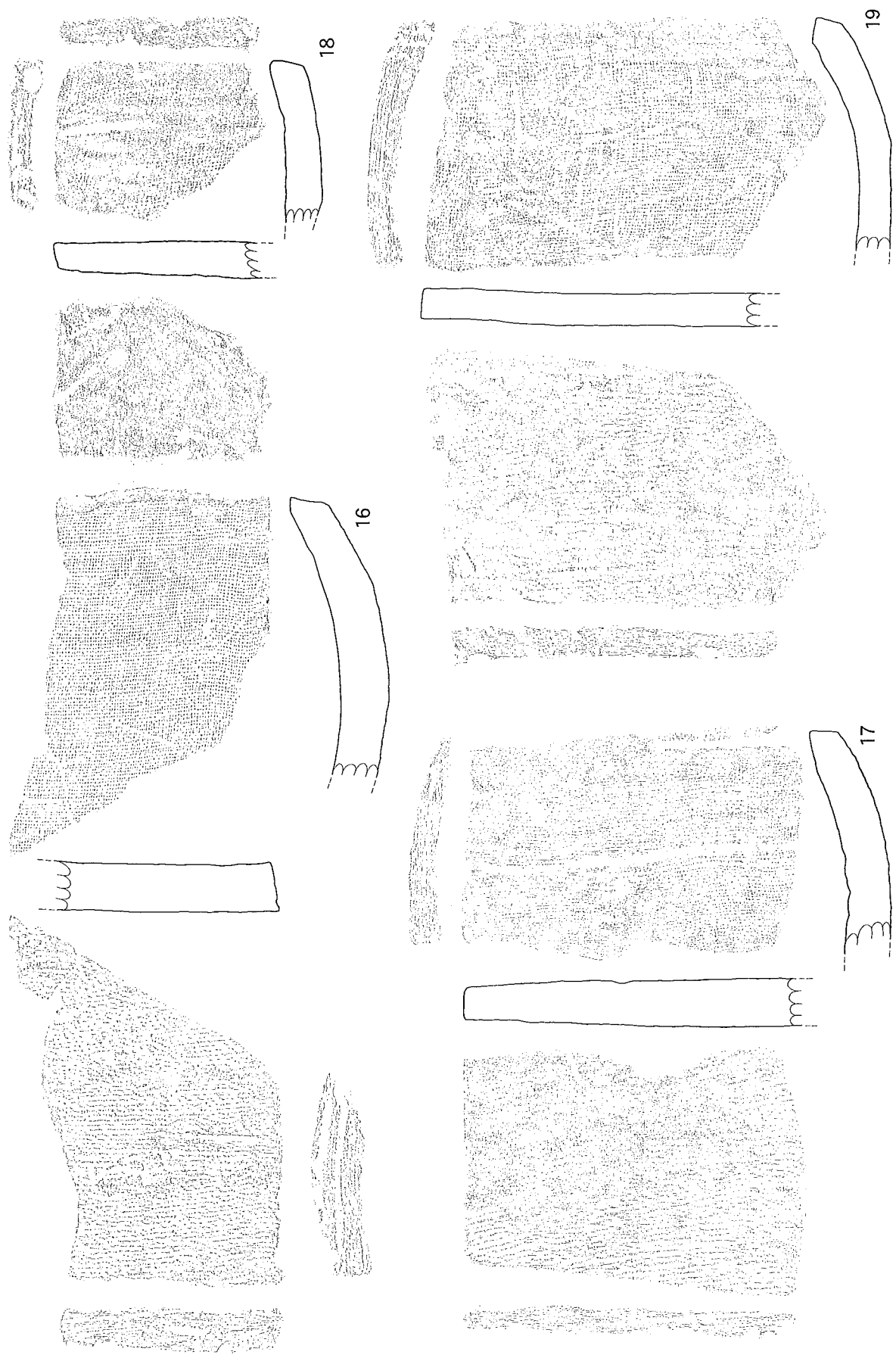
第8图 3号沟出土平瓦实测图(3) (S=1/3)



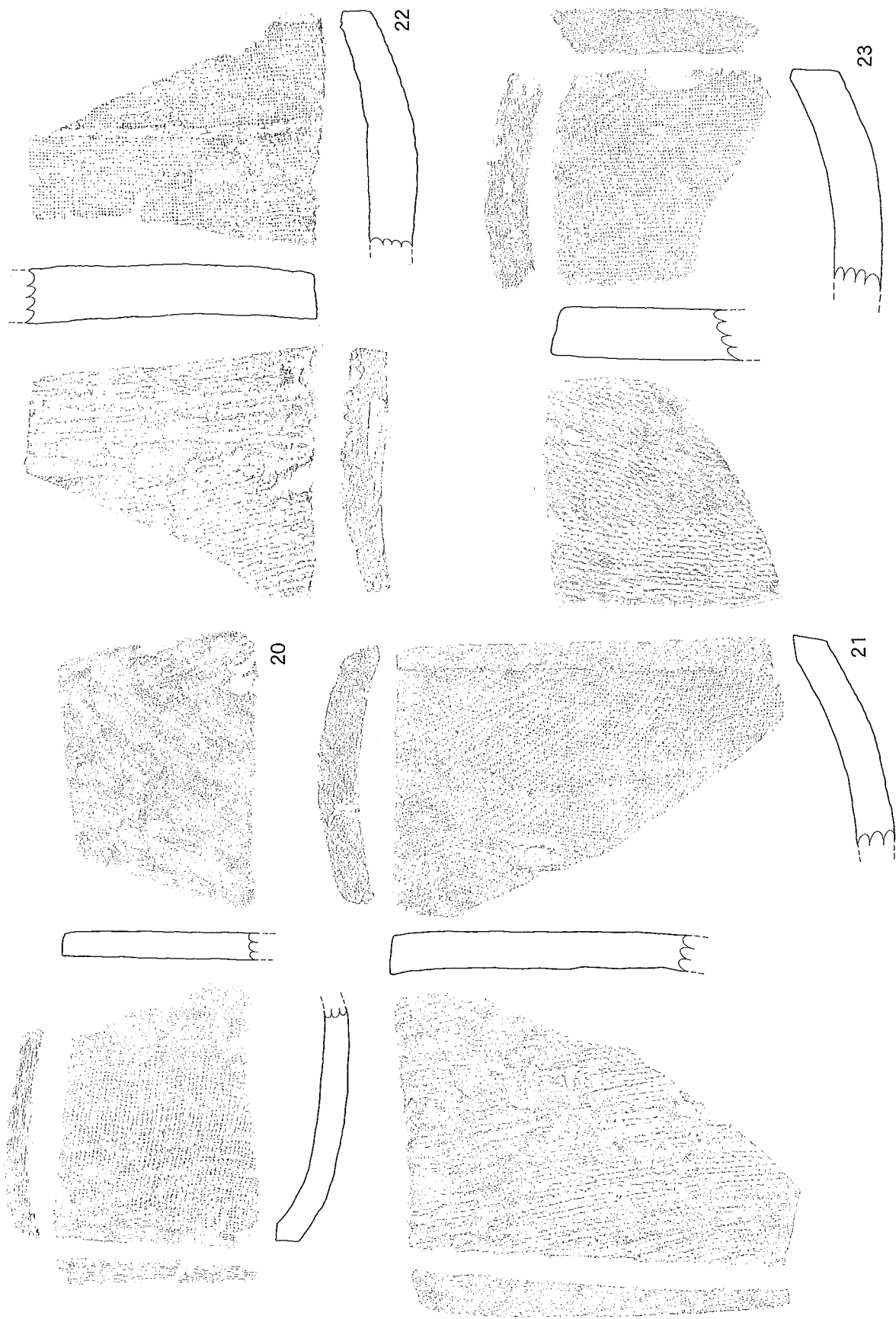
第9图 3号溝出土平瓦実測図(4) (S=1/3)



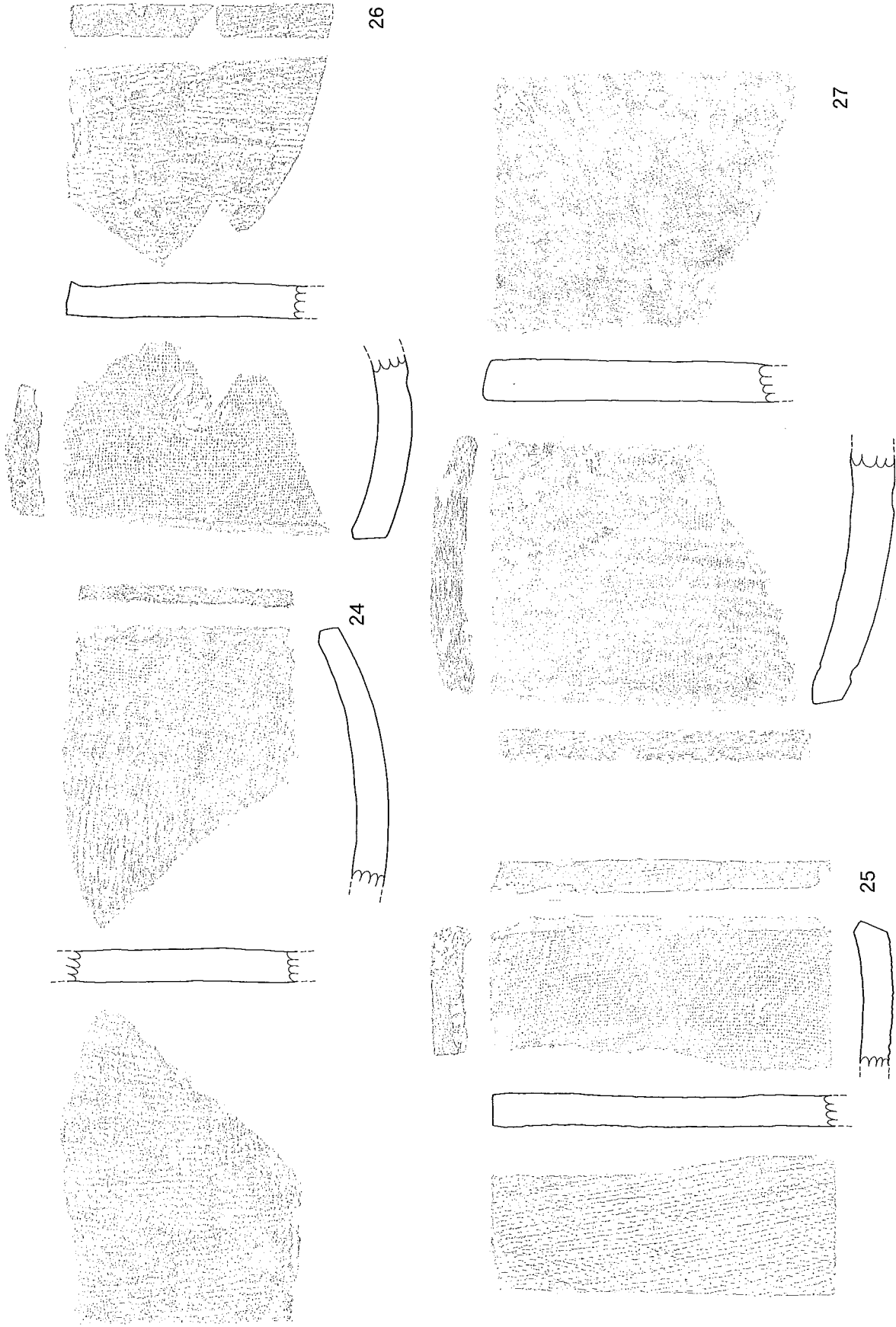
第10图 3号沟出土平瓦实测图 (5) (S=1/3)



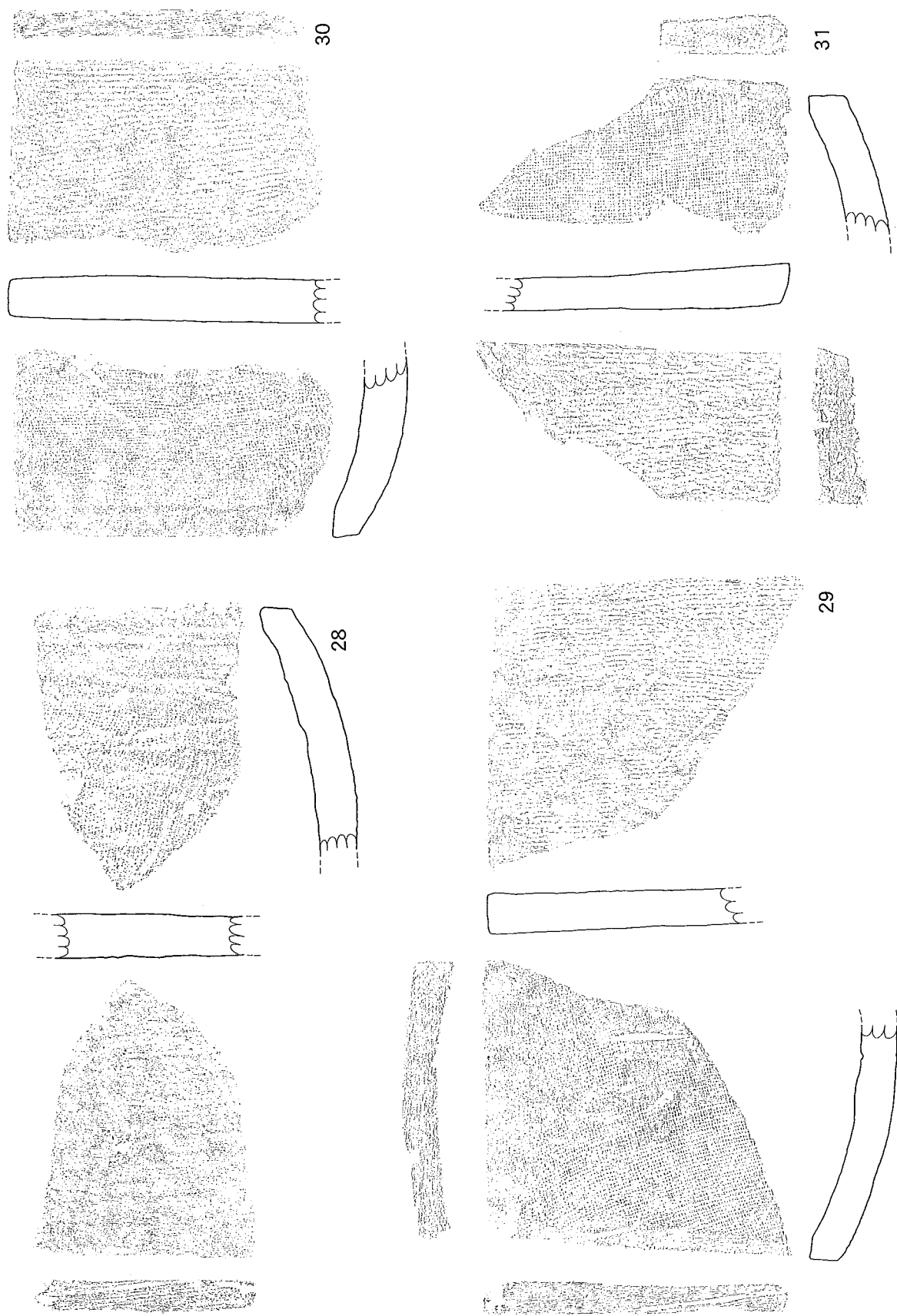
第11图 3号溝出土平瓦实测图 (S=1/3)



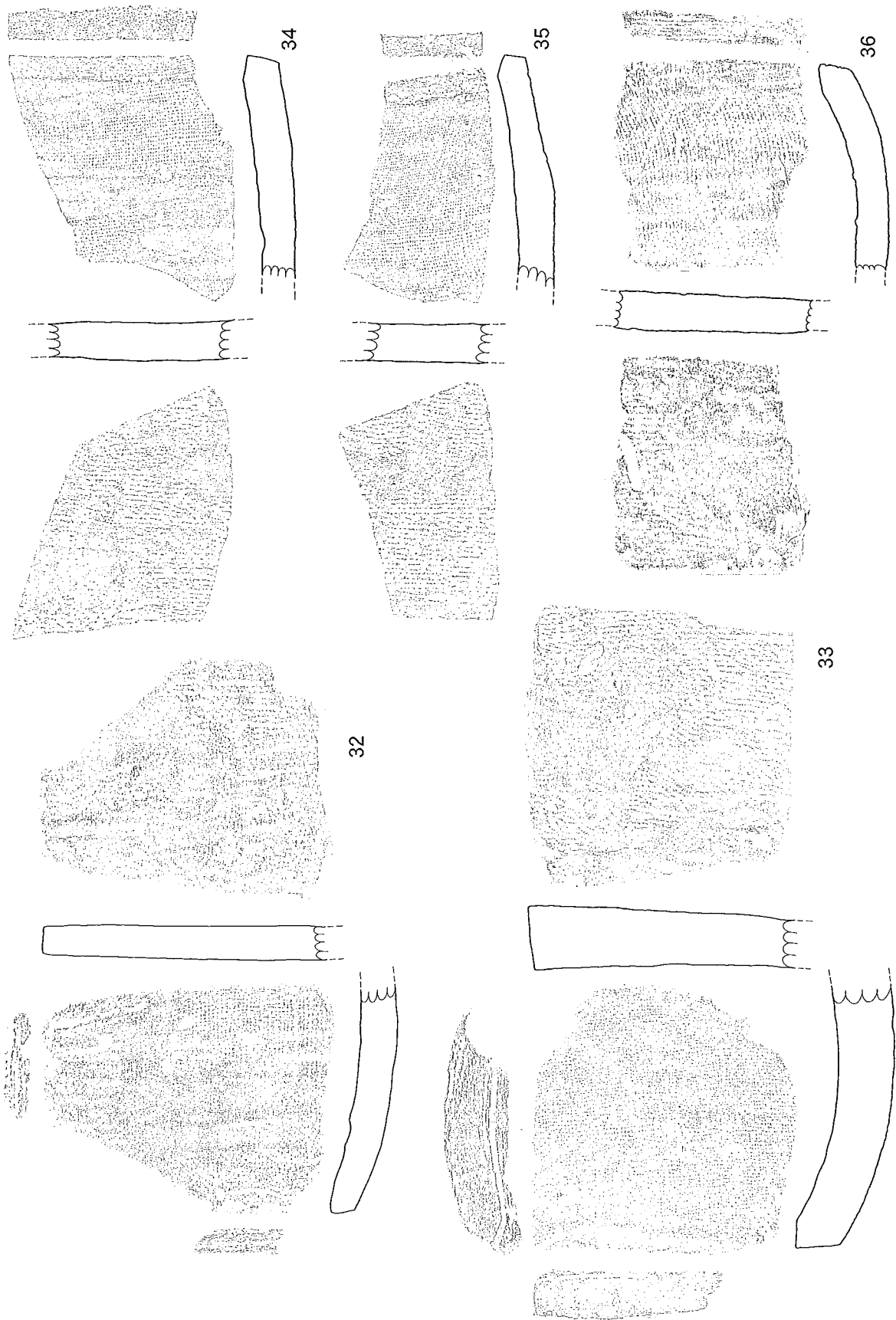
第12图 3号溝出土平瓦实测图 (7) (S=1/3)



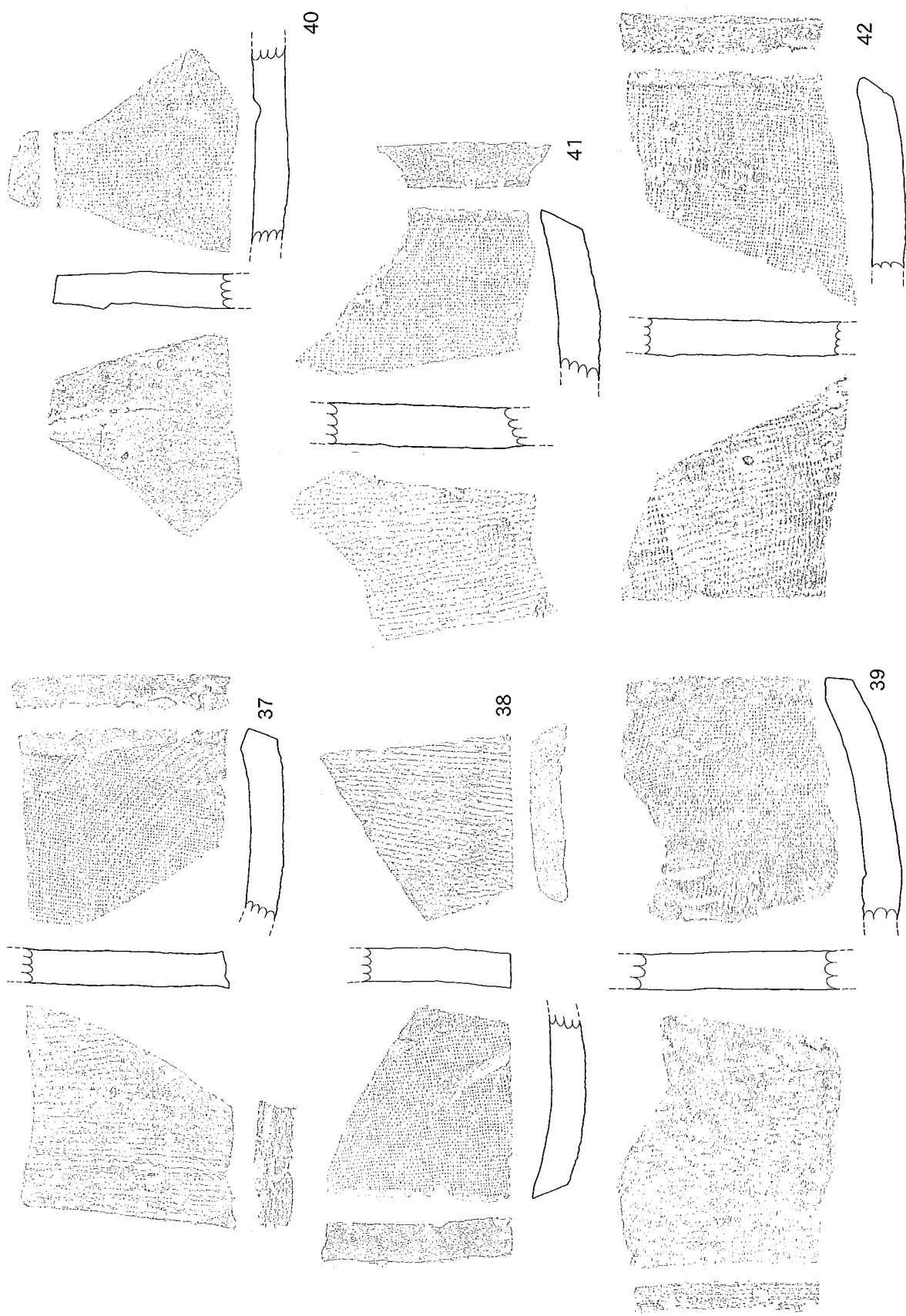
第13图 3号沟出土平瓦实测图 (8) (S=1/3)



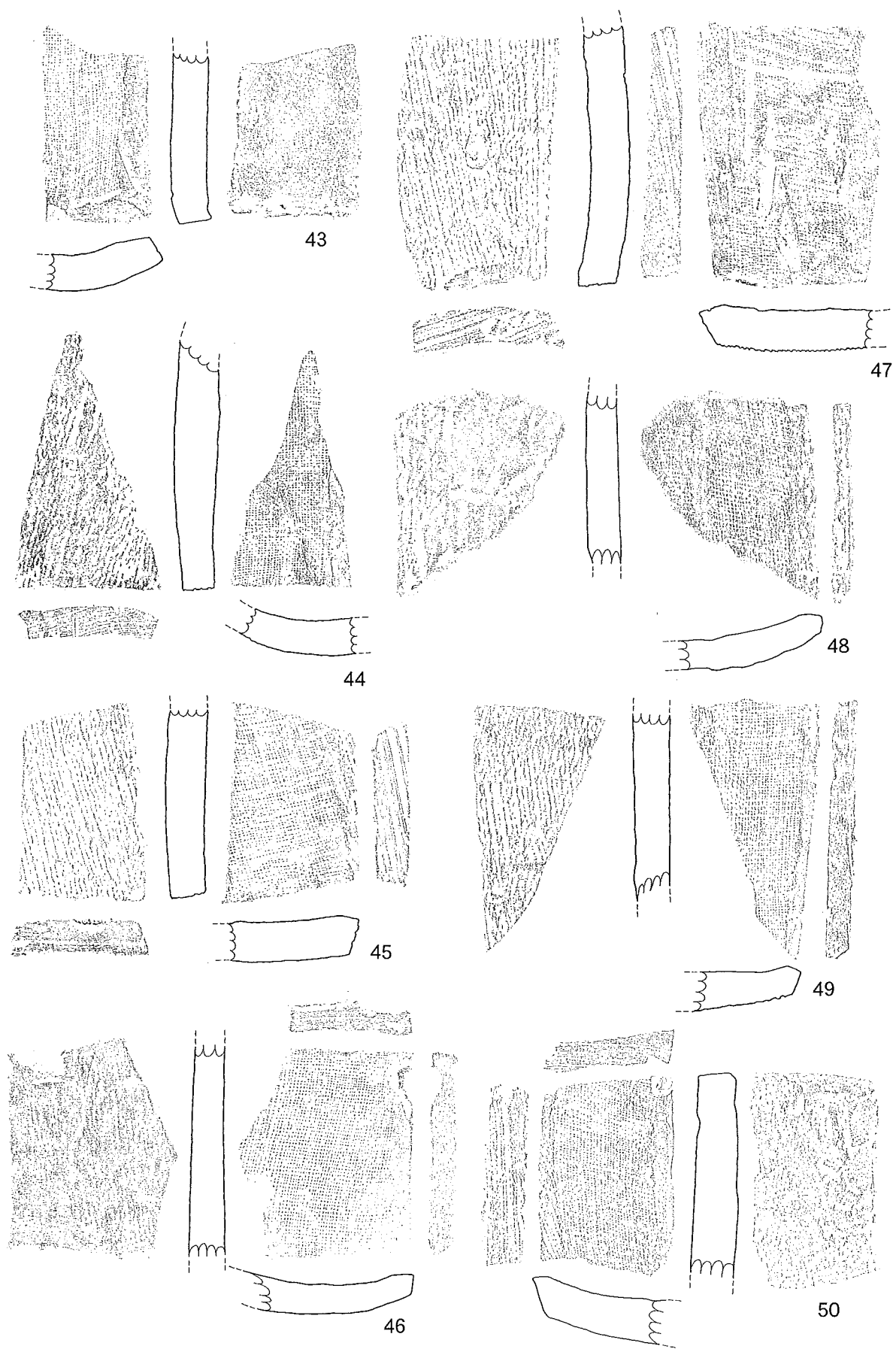
第14图 3号溝出土平瓦実測図 (9) (S=1/3)



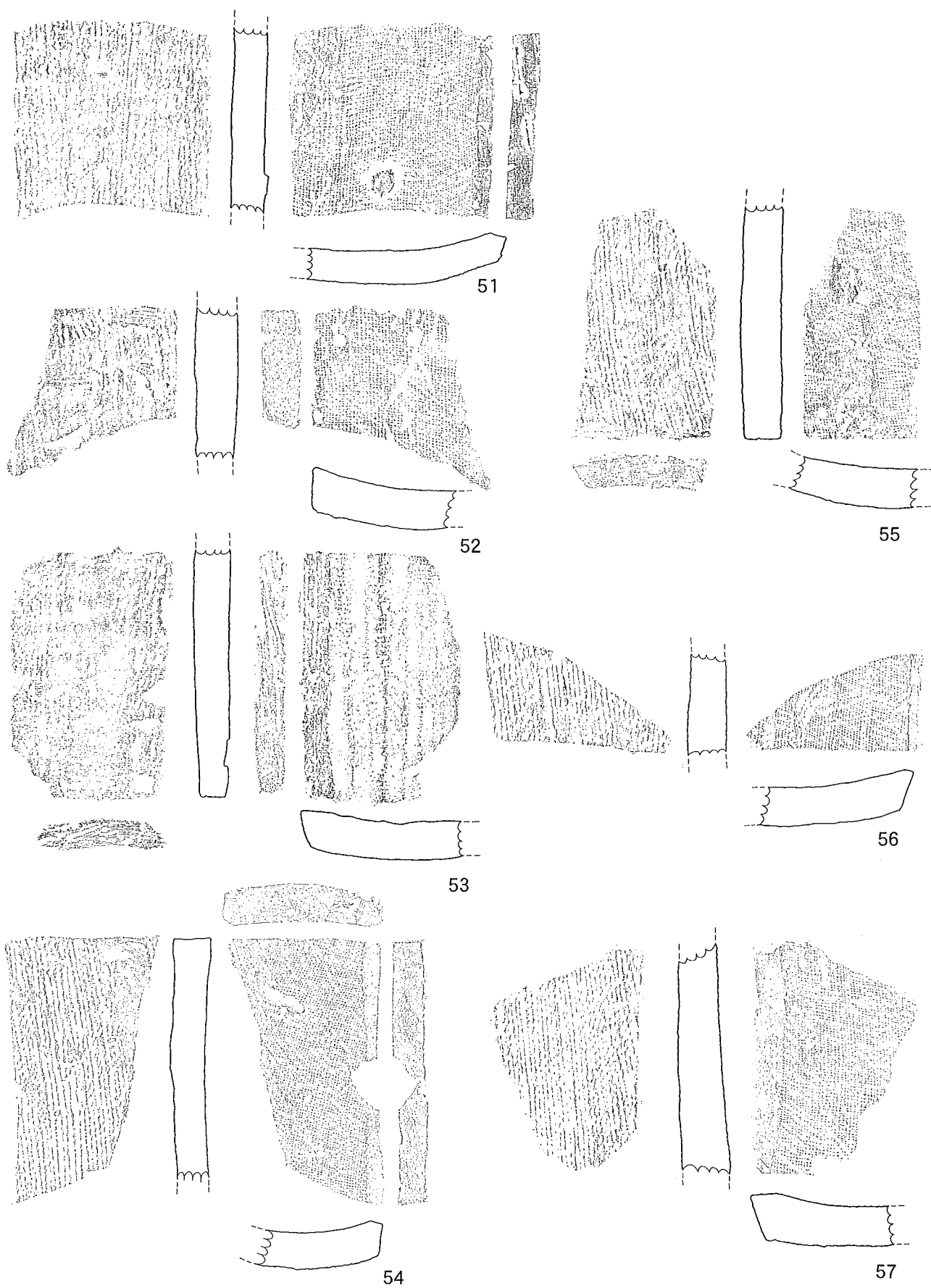
第15图 3号溝出土平瓦実測図(10) (S=1/3)



第16图 3号沟出土平瓦实测图 (11) (S=1/3)



第17图 3号沟出土平瓦实测图 (12) (S=1/3)



第18图 3号沟出土平瓦实测图 (13) (S=1/3)

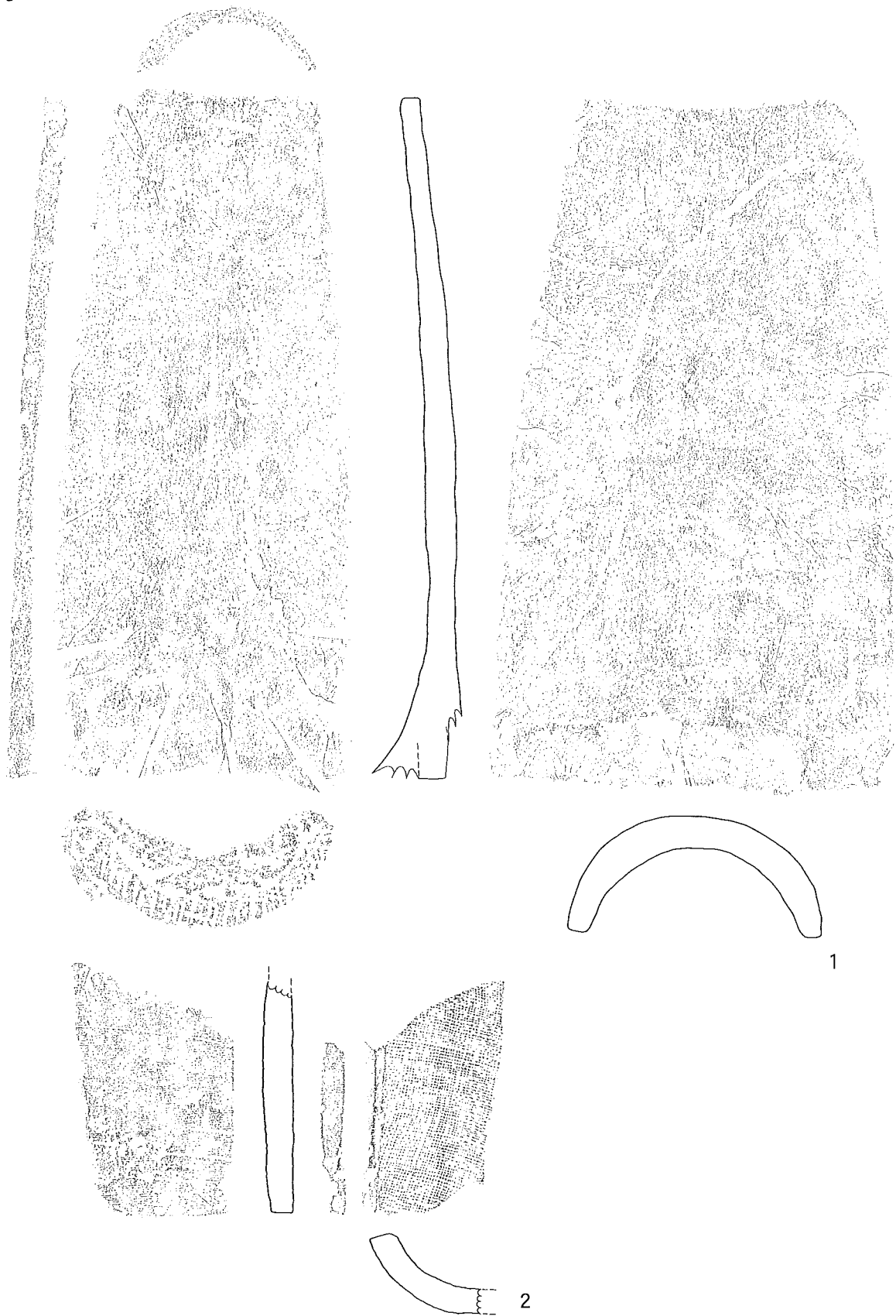
No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎 土	焼成	特 徴 (凹)	特 徴 (凸)	特徴 (側端部)
1	黒灰色	灰色	長石・角閃石・金雲母を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 布目痕の上から粘土を貼付け後ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
2	灰色・浅黄色	灰色・浅黄色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 工具痕、指頭痕あり	縄目タタキのちナデ ヘラ切の痕跡あり 工具痕あり	ヘラケズリ
3	灰色・黒灰色	灰色・黒灰色	長石・細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 布目痕の上から粘土を貼り付けた痕あり	縄目タタキ	ヘラケズリ
4	褐灰色	褐灰色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部ヘラナデ痕あり	ヘラケズリ
5	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	布目痕のちタタキ及び刷毛ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
6	黄橙色	黄橙色	長石・赤褐色粒子を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	調整不明	ヘラケズリ
7	灰色・黒灰色	灰色・黒灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ及び一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 指頭痕あり	ヘラケズリ
8	淡灰色	灰色	砂を含む	良好	布目痕 一部ヘラナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
9	淡灰色一部灰色	淡灰色一部灰色	砂を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部指おさえ	ヘラケズリ一部ナデ
10	灰黄色	黒灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ及び一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
11	暗灰色一部灰色	暗灰色一部灰色	黒色鉱物を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
12	暗灰色一部淡灰色	暗灰色一部淡灰色	砂を含む	良好	布目痕一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ後刷毛ナデ 一部工具痕あり	ヘラケズリ
13	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
14	灰白色	灰白色	長石・細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 一部指頭痕あり	ヘラケズリ
15	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 指頭痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
16	灰色・灰黒色	灰色・灰黒色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部刷毛ナデ 端部は面取りを施す 指頭痕、ヘラナデ痕あり	縄目タタキ一部ヘラナデ	ヘラケズリ
17	灰黄色・黄橙色	灰黄色・黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
18	黄橙色	黄橙色	赤褐色粒子・細粒を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 工具痕あり	縄目タタキのちナデ 指頭痕、工具痕あり	ヘラケズリ
19	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
20	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのちナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
21	黒灰色・黄橙色	黒灰色・黄橙色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ及び一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
22	灰褐色	灰褐色	砂を少し含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
23	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・雲母を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 刷毛ナデ痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
24	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕 一部ハケナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
25	灰色・にぶい黄橙色	灰色・にぶい黄橙色	石英・長石・5cm大の石を含む	良好	布目痕 ナデ痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
26	黄橙色	黒灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 指頭痕あり	ヘラケズリ
27	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのちナデ 工具痕が残る	ヘラケズリ
28	黄橙色	黄橙色	長石・細粒を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上から指ナデ	縄目タタキ	ヘラケズリ
29	灰白色	灰白色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 一部指頭痕、工具痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ

第1表 3号溝出土平瓦観察表(1)

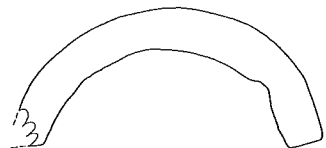
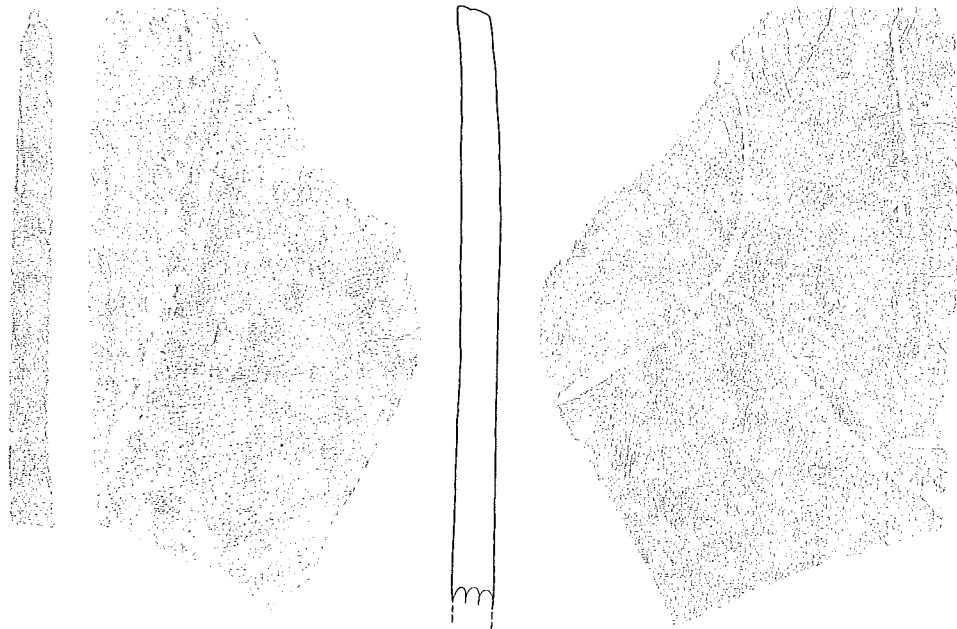
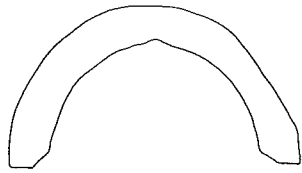
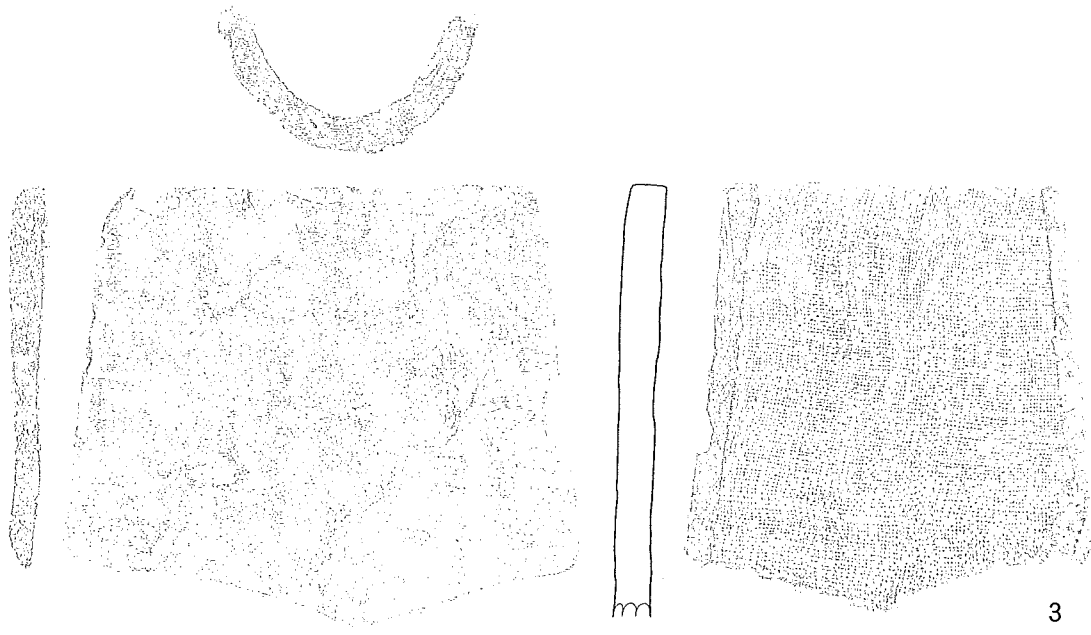
No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎 土	焼成	特 徴 (凹)	特 徴 (凸)	特徴 (側端部)
30	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
31	灰色	灰色	微細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
32	黄橙色	黄橙色	長石・雲母・赤褐色粒子を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 工具痕が残る	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
33	灰白色	灰色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
34	浅黄色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 強いナデ痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ 強い指ナデ痕あり
35	黒褐色・黄橙色	黒褐色・黄橙色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部指ナデ 端部は面取りを施す 瓦の重ね痕あり	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
36	黄灰色	黄灰白色	黒色砂粒を含む	不良	布目痕 端部は面取りを施す 木骨痕が残る	縄目タタキ	ヘラケズリ
37	黒灰色	黒灰色	石英・長石・微細粒を含む	良好	布目痕のち一部刷毛ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
38	黒灰色	黒灰色	微細粒を含む	良好	布目痕 一部ナデ痕あり	縄目タタキ	ヘラケズリ 指圧痕あり
39	浅黄色	浅黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 一部工具痕が残る	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
40	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 指頭痕あり	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
41	灰色	灰色	微細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
42	濃灰色	淡灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキのち刷毛ナデ	ヘラケズリ
43	灰色	濃灰色	径2mm程度の砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラナデ	ヘラケズリ
44	暗灰色	暗灰色	砂を含む	良好	布目痕	縄目タタキ	ヘラケズリ
45	灰色	灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
46	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
47	淡灰色	暗灰色	砂と黒色鉱物を含む	良好	布目痕 一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
48	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
49	灰白色・黒灰色	灰白色・黒灰色	長石を含む	良好	布目痕のち一部指ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ 一部指圧痕あり
50	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕 一部ナデ 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
51	灰色	濃灰色	砂を含む	良好	布目痕 一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	焼成時に粘土の付着痕あり
52	淡灰色一部暗灰色	淡灰色一部暗灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
53	茶褐色	茶褐色	砂を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す 木骨痕が残る	縄目タタキ	ヘラケズリ
54	浅黄色	黒灰色	長石・角閃石・石を含む	良好	布目痕一部ナデ 指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
55	淡灰色一部暗灰色	淡灰色一部暗灰色	砂を含む	良好	布目痕 一部ヘラナデ	縄目タタキ	ヘラケズリ
56	灰色	灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部ヘラナデ	ヘラケズリ
57	淡灰色	淡灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部縄目タタキを格子目状に施す	ヘラケズリ

第2表 3号溝出土平瓦観察表 (2)

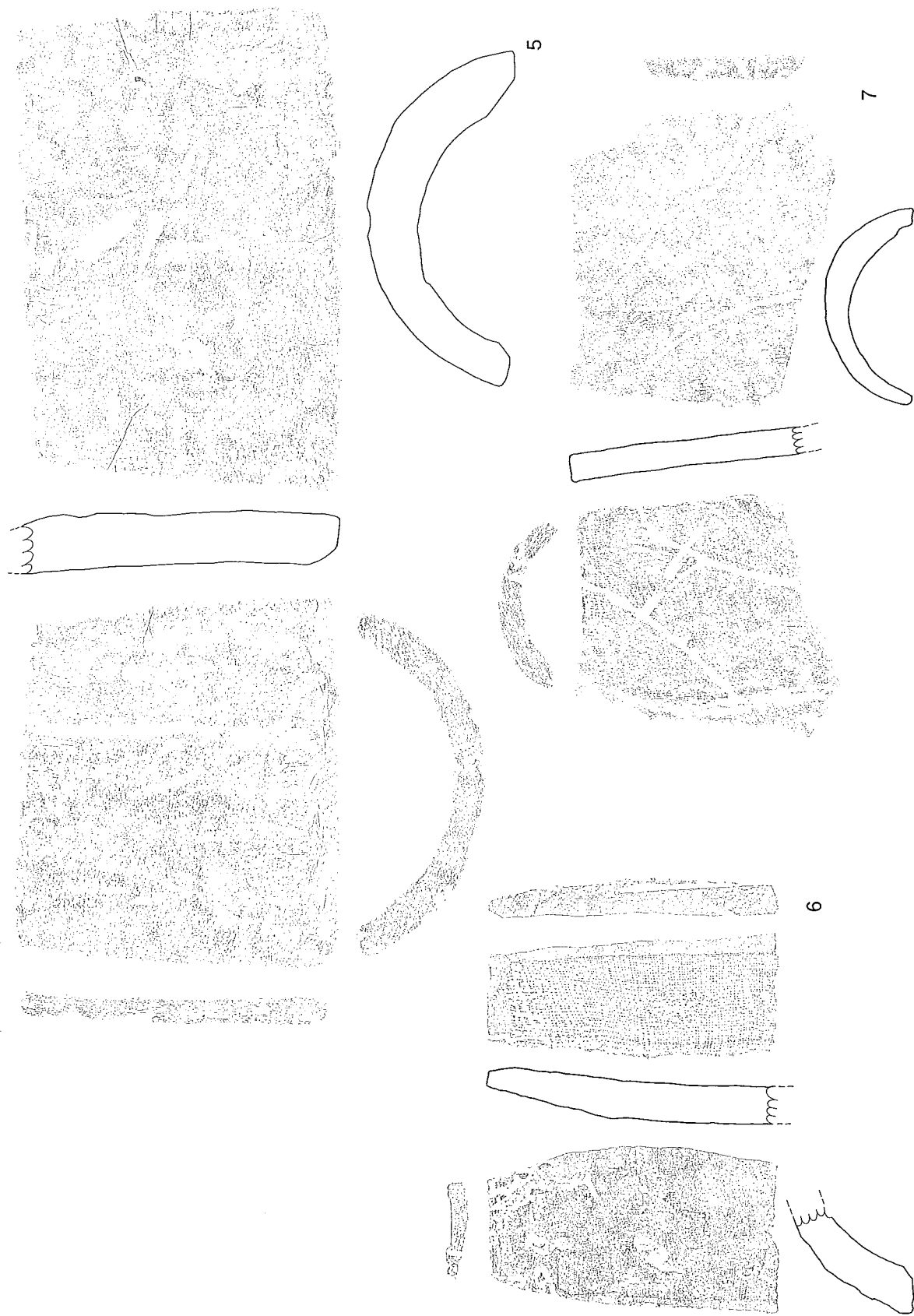
丸瓦



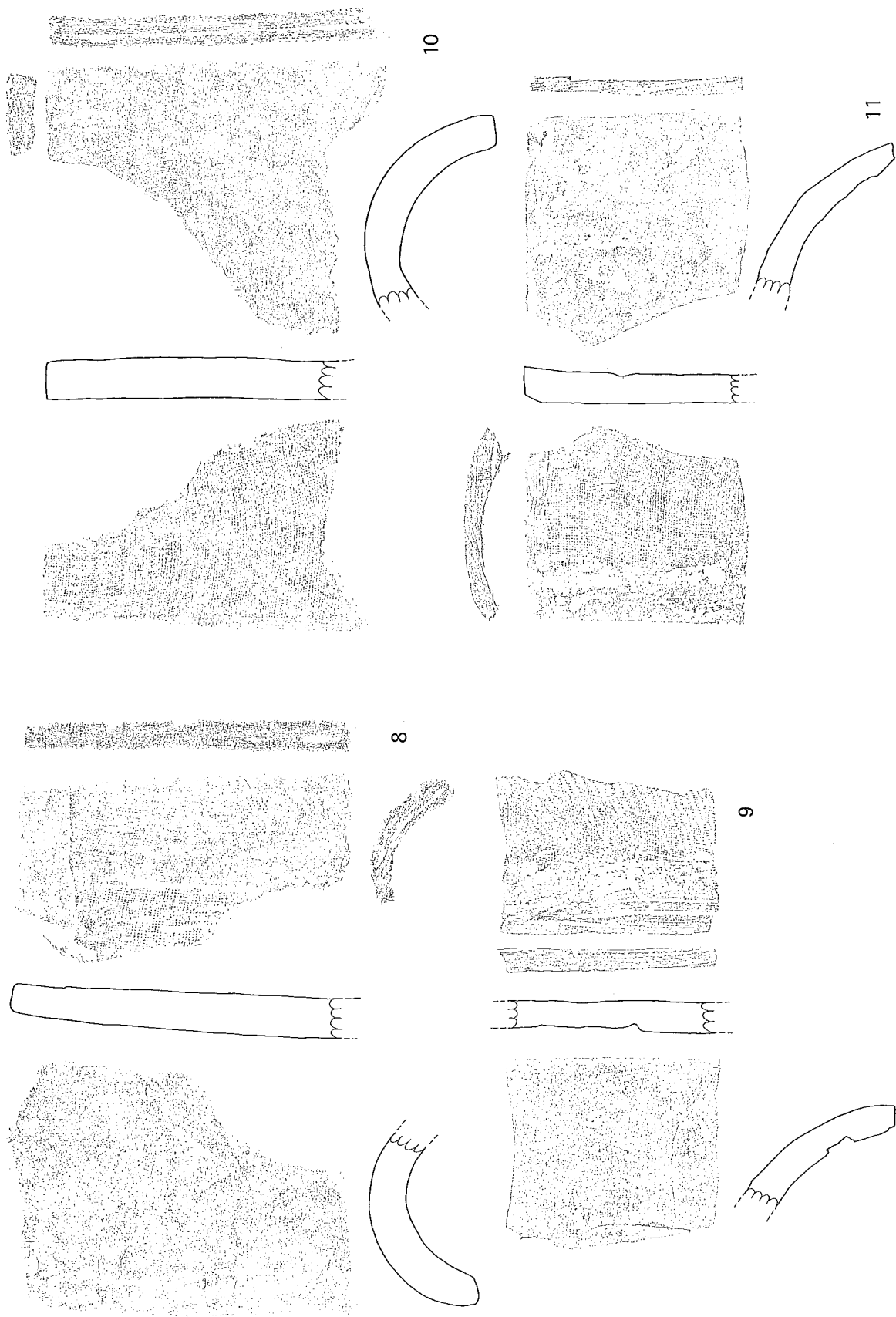
第19图 3号沟出土丸瓦实测图(1) (S=1/3)



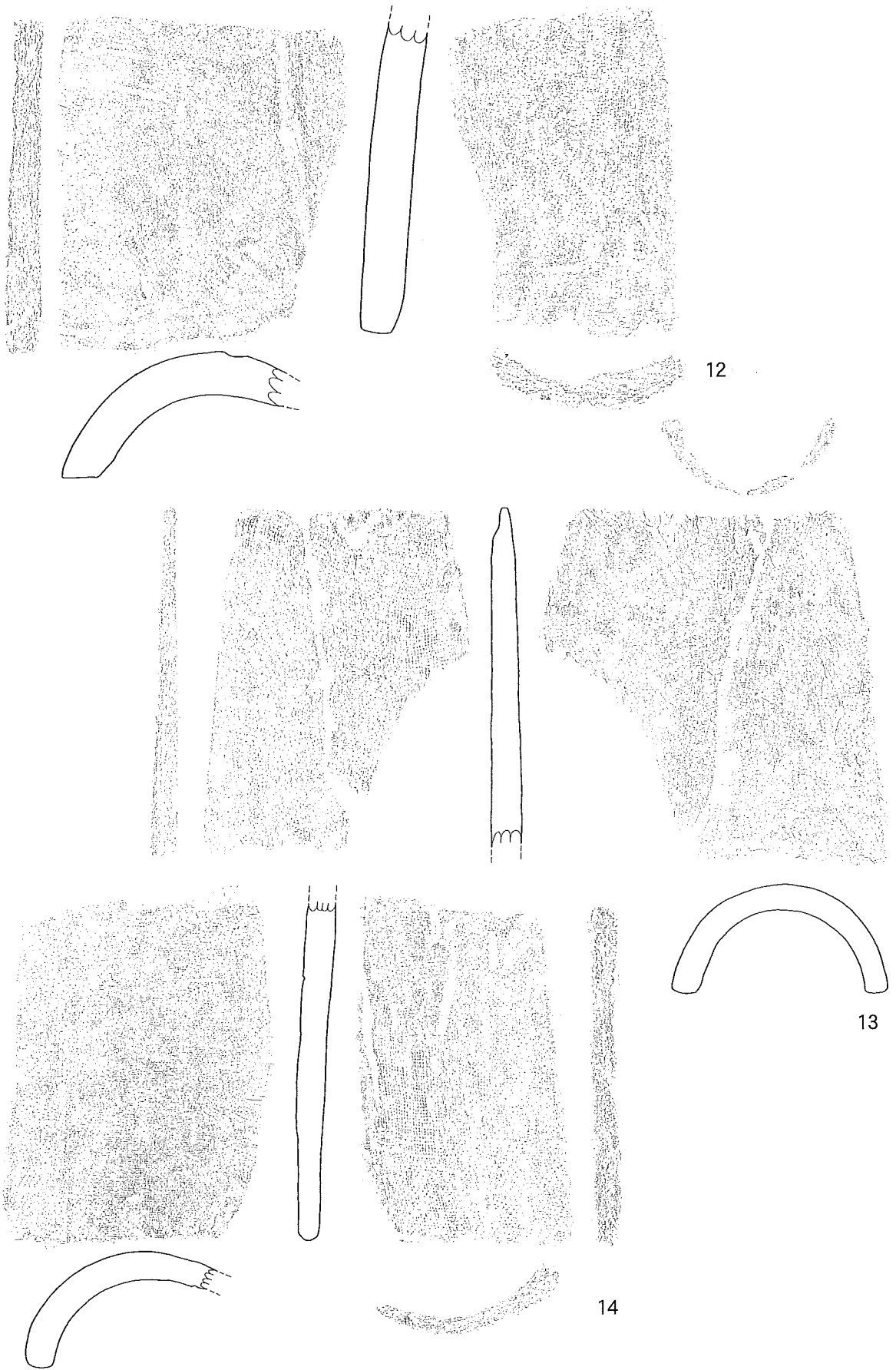
第20图 3号沟出土丸瓦实测图(2) (S=1/3)



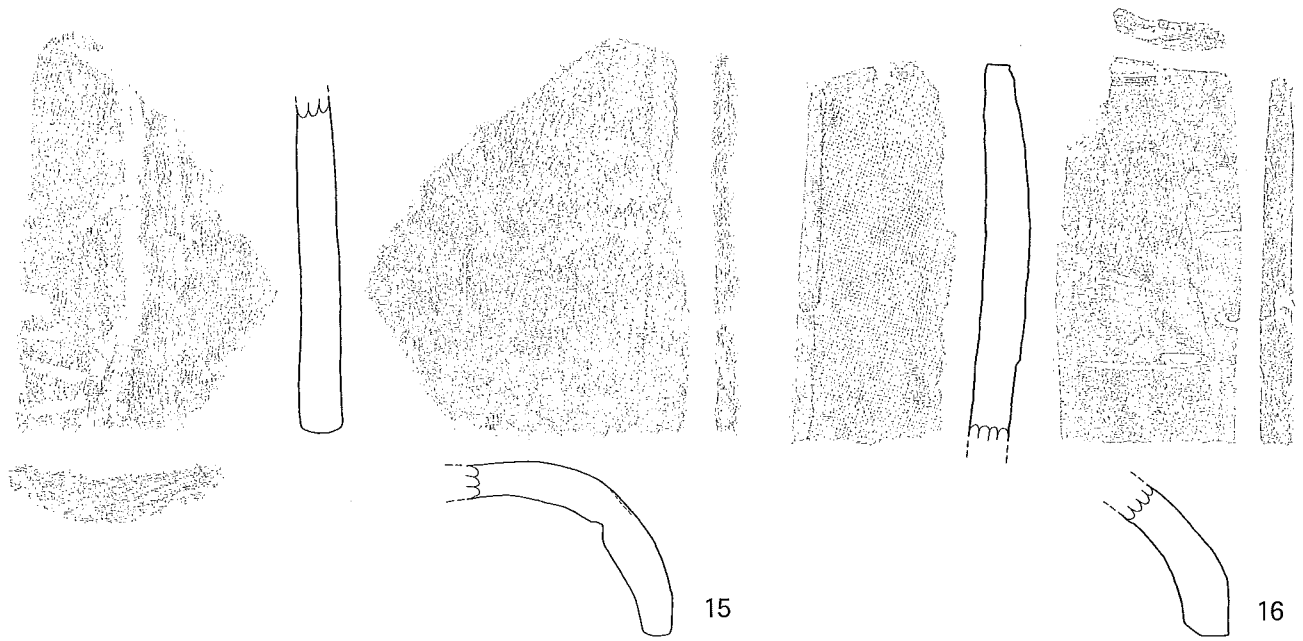
第21图 3号溝出土丸瓦実測図 (3) (S=1/3)



第22图 3号溝出土丸瓦実測図(4) (S=1/3)



第23图 3号沟出土丸瓦实测图(5) (S=1/3)

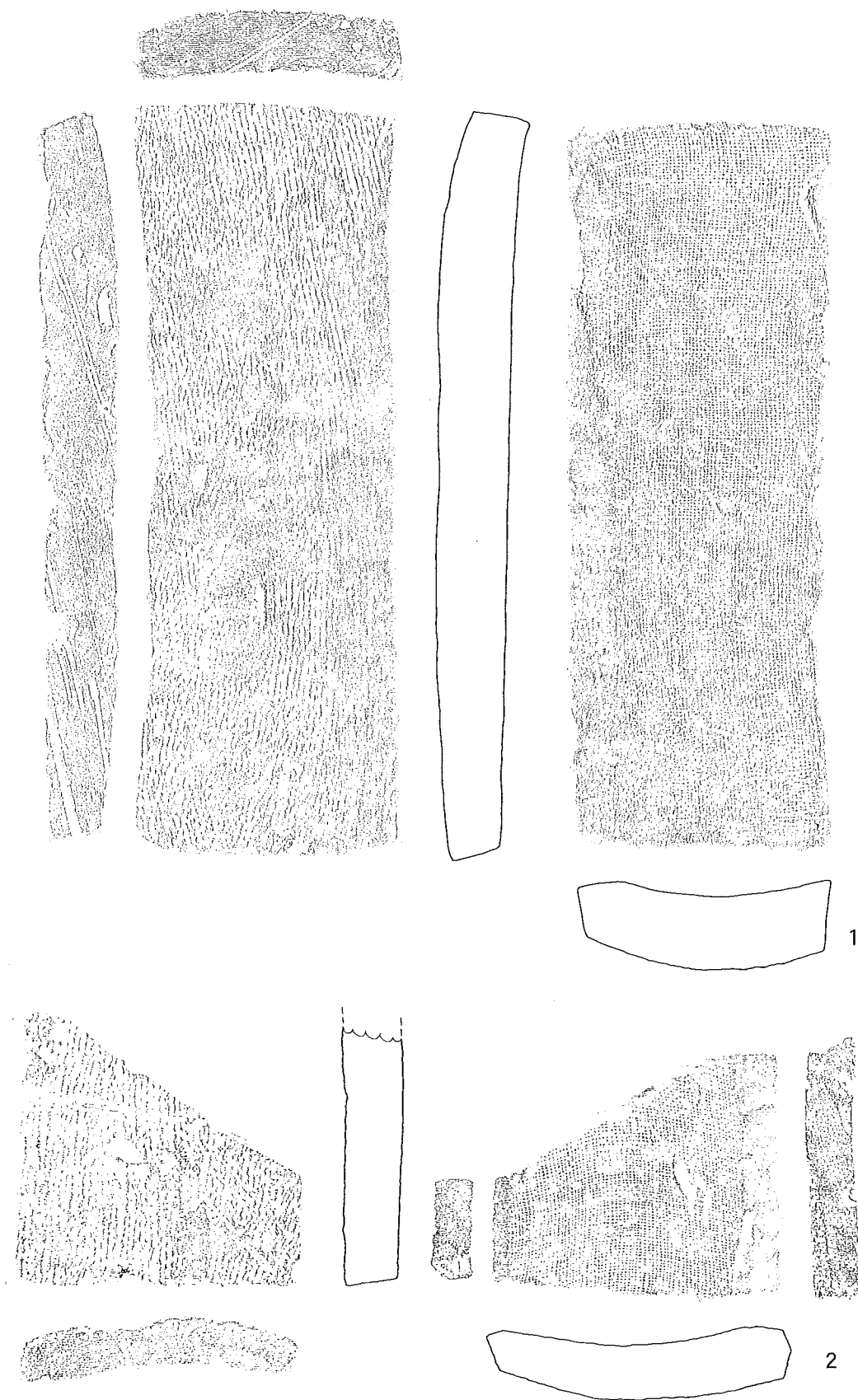


第24図 3号溝出土丸瓦実測図(6) (S=1/3)

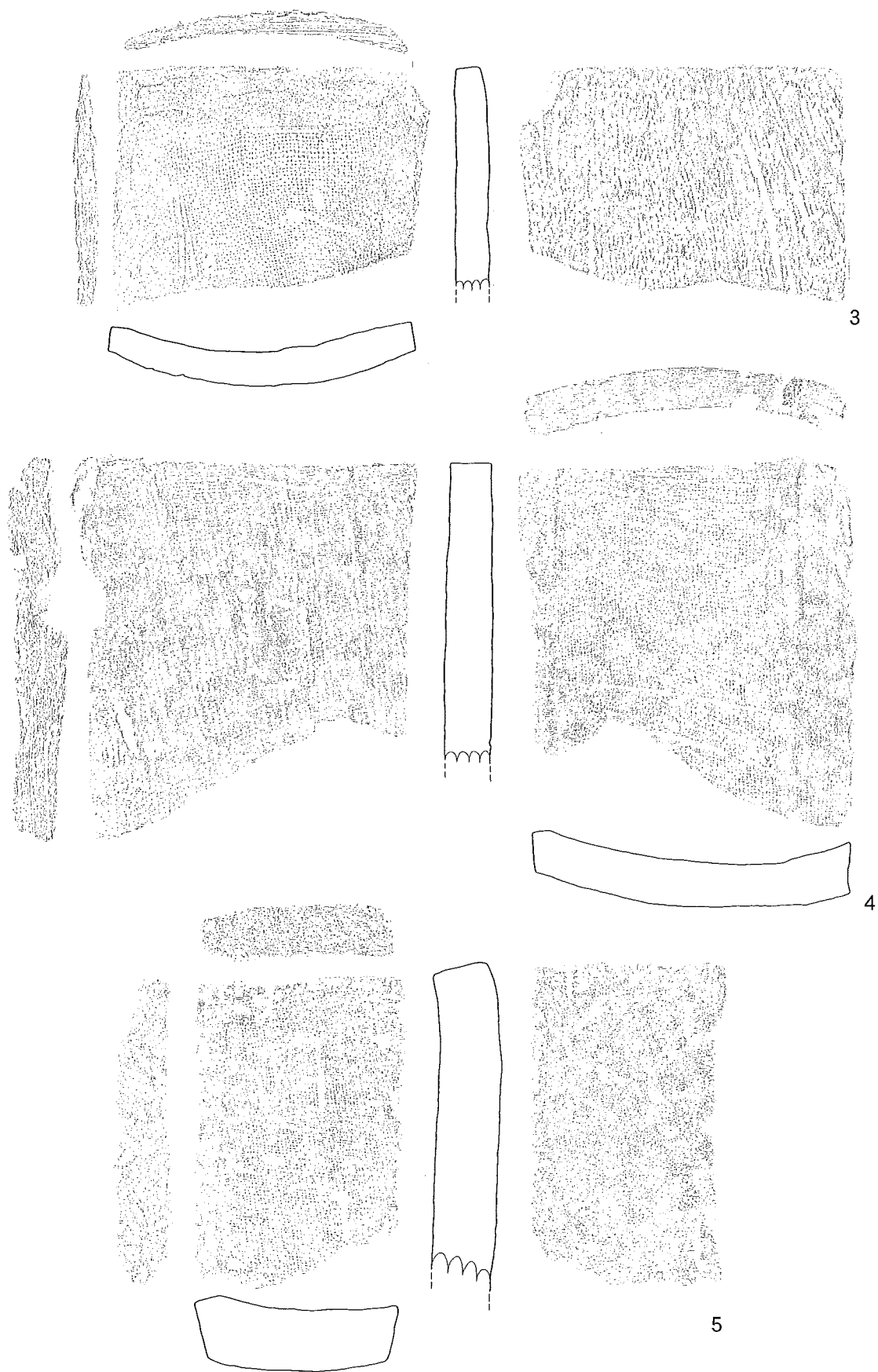
No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のちナデ	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
2	淡灰色	灰褐色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキのちナデ	ヘラケズリのちナデ
3	灰色・黒灰色	灰色・黒灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す 指頭痕あり	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
4	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のちナデ 一部布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
5	灰白色	灰白色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のちナデ 一部布のつなぎ目が残る 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 指頭痕が残る	ヘラケズリ
6	黒灰色	黒灰色	石英・長石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 一部布の継ぎ目が残る	ヘラケズリ 端部は面取りを施す 工具痕及び粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
7	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 一部布の継ぎ目が残る	ヘラケズリのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
8	丸瓦	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	石英・長石・赤褐色粒子・石を含む	やや良好	布目痕 成形時の段あり	ヘラケズリのち一部ナデ 粘土焼成時の重ね痕あり
9	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 一部ナデとヘラケズリ 端部は面取りを施す 一部粘土の継ぎ目の上からナデ	ヘラケズリのち一部ナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
10	黄橙色一部黒褐色	黄橙色一部黒褐色	長石・角閃石・雲母を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
11	黒灰色	黒灰色	微細粒を含む	良好	布目痕 一部布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
12	黄橙色一部黒灰色	黄橙色一部黒灰色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 強い指ナデ痕あり	ヘラケズリ
13	褐灰色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部刷毛ナデ	ナデ	ヘラケズリ
14	黄橙色	褐灰色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 一部布のつなぎ目が残る	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
15	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 布のつなぎ目が残る	ヘラケズリのち一部ナデ 粘土の重ね痕が残る	ヘラケズリ
16	黄橙色・灰黒色	黄橙色・灰黒色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	横方向及びナメ方向のヘラケズリ 工具痕あり	ヘラケズリ

第3表 3号溝出土丸瓦観察表

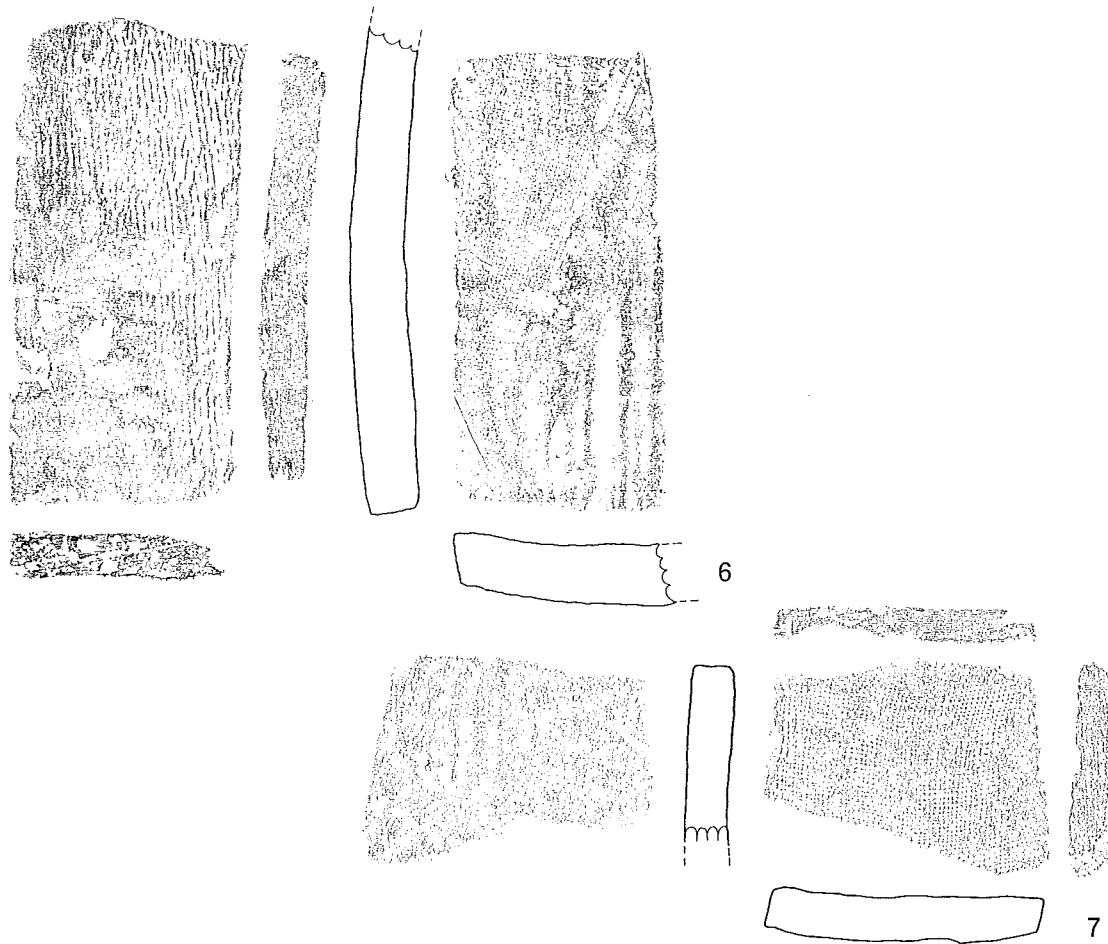
熨斗瓦



第25图 3号沟出土熨斗瓦实测图(1) (S=1/3)



第26图 3号沟出土熨斗瓦实测图(2) (S=1/3)

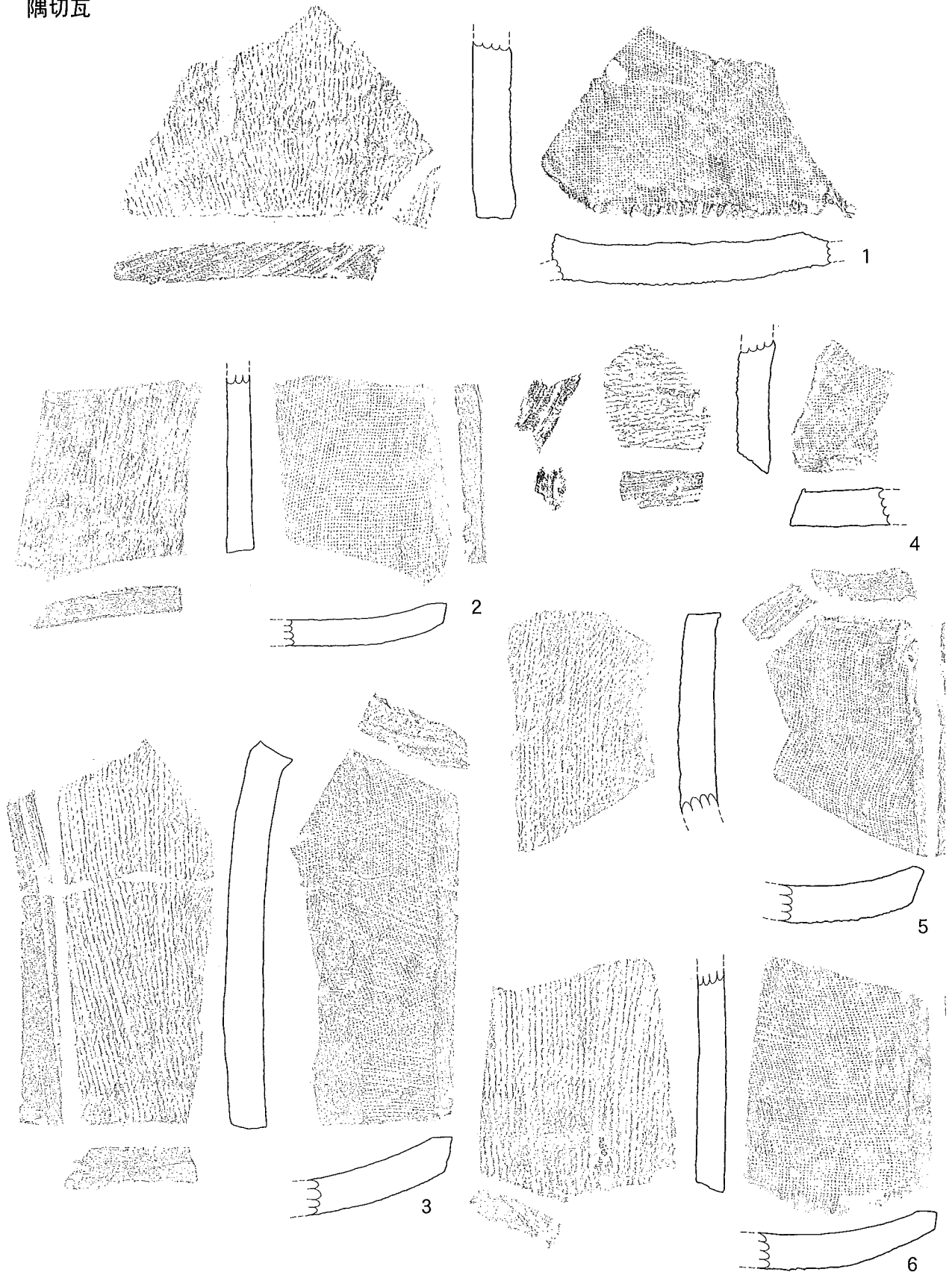


第27図 3号溝出土熨斗瓦実測図(3) (S=1/3)

No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	灰白色・灰黄色・灰色	灰白色・灰黄色・灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ 指頭痕あり
2	淡灰色	濃灰色	砂を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
3	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕 一部ヘラナデ 端部は面取りを施す 一部指頭痕あり	縄目タタキ	ヘラケズリ
4	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ一部ナデ 布目痕の上から粘土を貼付け後ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ及び一部ナデと刷毛ナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
5	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母・赤褐色粒を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのちナデ	ヘラケズリ
6	灰色	淡灰色	径1.5程の石を含む	良好	布目痕 一部指ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部縄目タタキ後 縄目スリ消し	ヘラケズリ
7	黄橙色	黄橙色	長石・細粒を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのちナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ

第4表 3号溝出土熨斗瓦観察表

隅切瓦

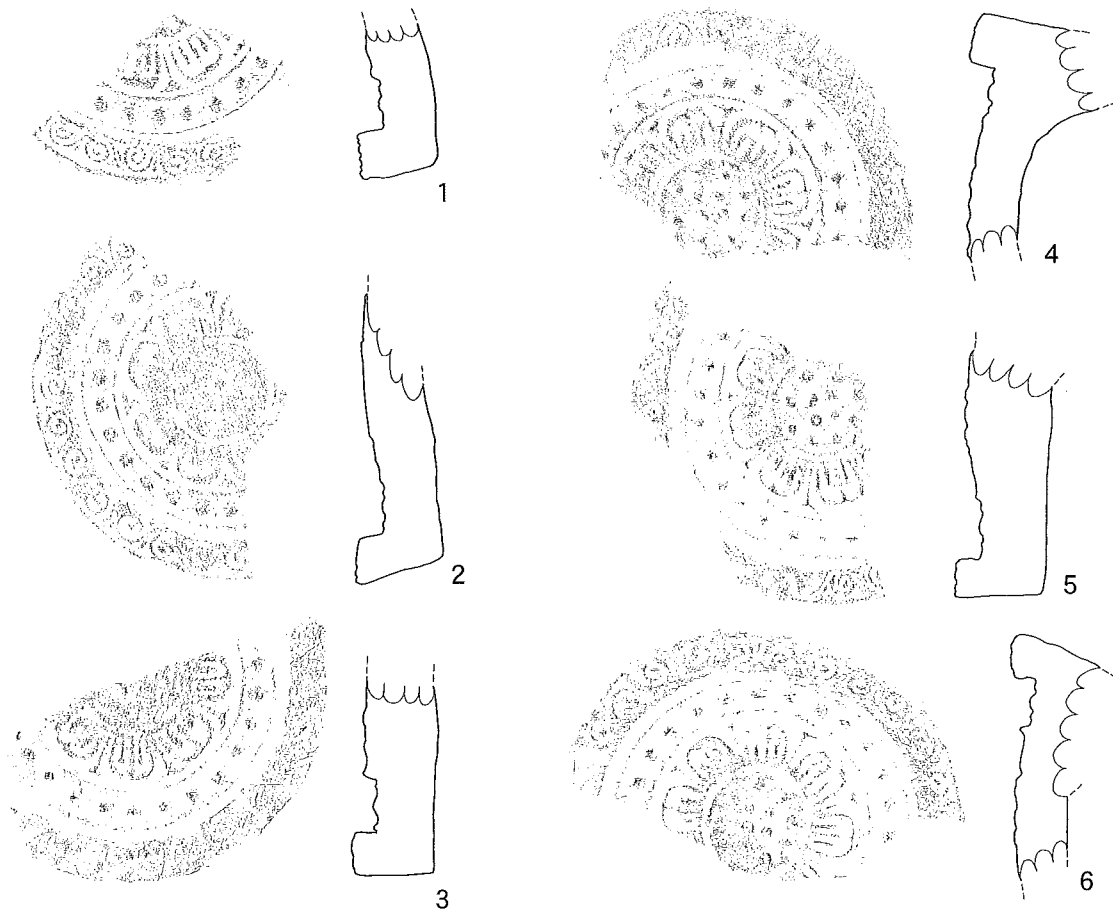


第28图 3号沟出土隅切瓦实测图 (S=1/3)

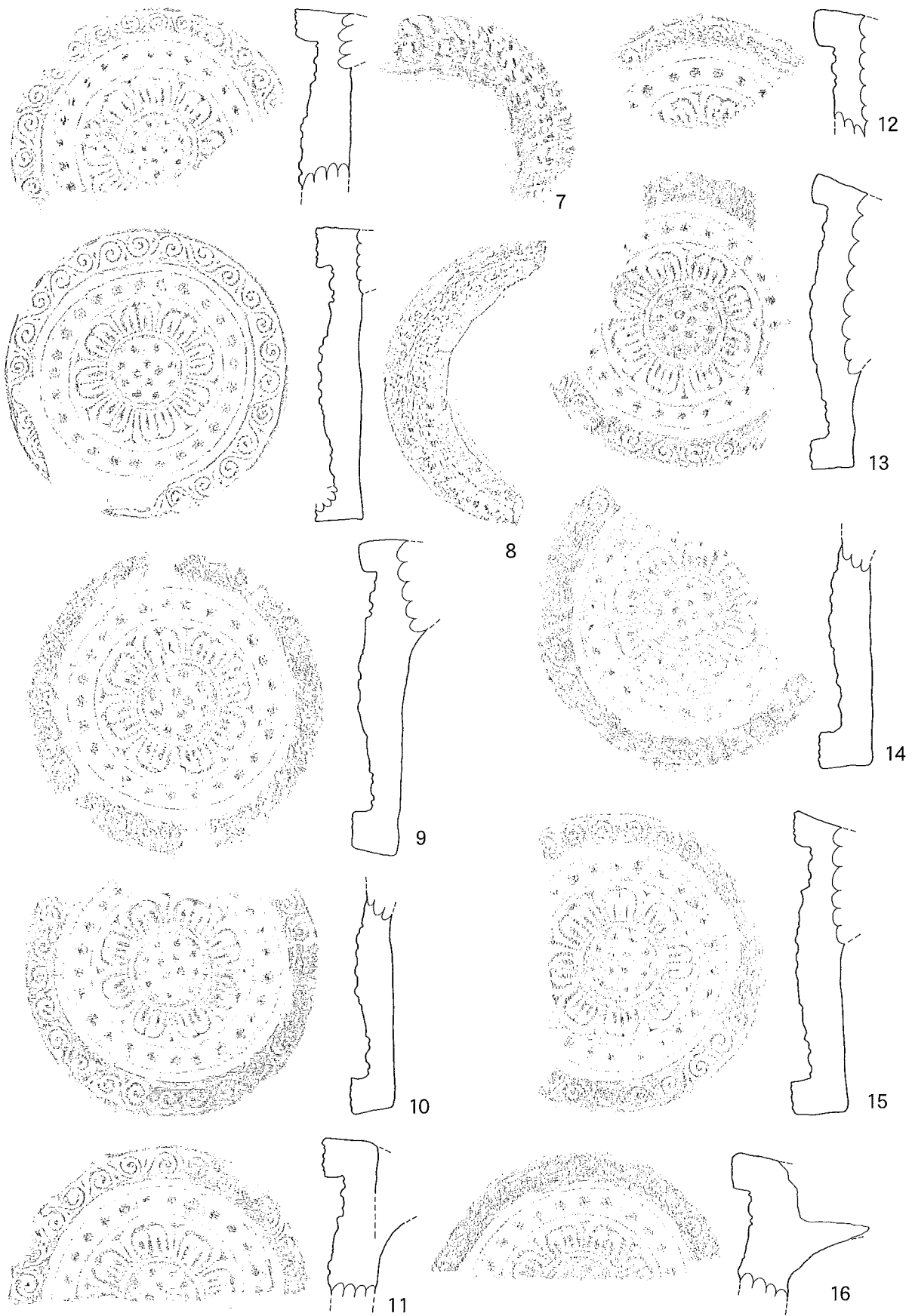
No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎土	焼成	特徴 (凹)	特徴 (凸)	特徴 (側端部)
1	淡灰色	淡灰色	砂を含む	良好	布目痕 一部ヘラナデ	縄目タタキ 一部格子目状に縄目タタキ	糸きりのち調整なし
2	灰白色	灰白色	長石・微細粒を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
3	灰白色	灰白色	長石・細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデと刷毛ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
4	濃灰色	濃灰色	黒色鉱物を含む	良好	布目痕	縄目タタキ	ヘラケズリ
5	灰黄色	灰黄色	細粒・石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキ	ヘラケズリ
6	灰白色	灰色	長石・角閃石・雲母を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ

第5表 3号溝出土隅切瓦観察表

軒先丸瓦



第29図 3号溝出土軒先丸瓦実測図 (1) (S=1/3)



第30图 3号沟出土軒先丸瓦実測图(2) (S=1/3)

No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎 土	焼 成	特 徴 (凹・表)	特 徴 (凸・裏)	特徴 (側端部)
1	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ	ヘラケズリのちナデ
2	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ	ヘラケズリ
3	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ	ヘラケズリのちナデ
4	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ 接合痕	ヘラケズリのちナデ
5	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ	ヘラケズリのちナデ
6	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ 接合痕あり	ヘラケズリのちナデ
7	灰白色	灰白色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ 接合時の刻目痕	ヘラケズリのちナデ
8	黒灰色	灰白色	長石・細粒を含む	良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8 珠文25	ナデ 接合時の刻目痕	ヘラケズリのちナデ
9	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8 珠文25	ナデ 接合痕	調整不明瞭
10	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ	ヘラケズリのちナデ
11	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	接合痕が残る	ヘラケズリのちナデ
12	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	接合痕	ヘラケズリのちナデ
13	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ 接合痕	ヘラケズリのちナデ
14	褐灰色	褐灰色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ	ヘラケズリのちナデ
15	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・雲母を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	ナデ 接合痕	ヘラケズリのちナデ
16	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ 接合痕あり	ヘラケズリのちナデ

第6表 3号溝出土軒先丸瓦観察表

No.	器種	色調 (凹・表)	色調 (凸・裏)	胎 土	焼 成	特 徴 (凹・表)	特 徴 (凸・裏)	特徴 (側端部)	出土場所
1	平瓦	淡灰色	淡灰色	砂を含む	良好	布目痕	縄目タタキ 一部格子目状に縄目タタキ	ヘラケズリ	8号溝
2	平瓦	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ 中央部分に横方向の工具痕	"
3	平瓦	灰黄色	灰黄色	長石・細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 一部ヘラ痕、 工具痕が残る	縄目タタキ	ヘラケズリ	"
4	軒先丸瓦	灰色	灰色	微細粒を含む	良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ	ヘラケズリのちナデ	10号溝
5	軒先平瓦	灰色	灰色	1.5cm程度の石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部格子目状に縄目タタキ	ヘラケズリ	"

第7表 8号溝・10号溝出土遺物観察表

2) 8号溝

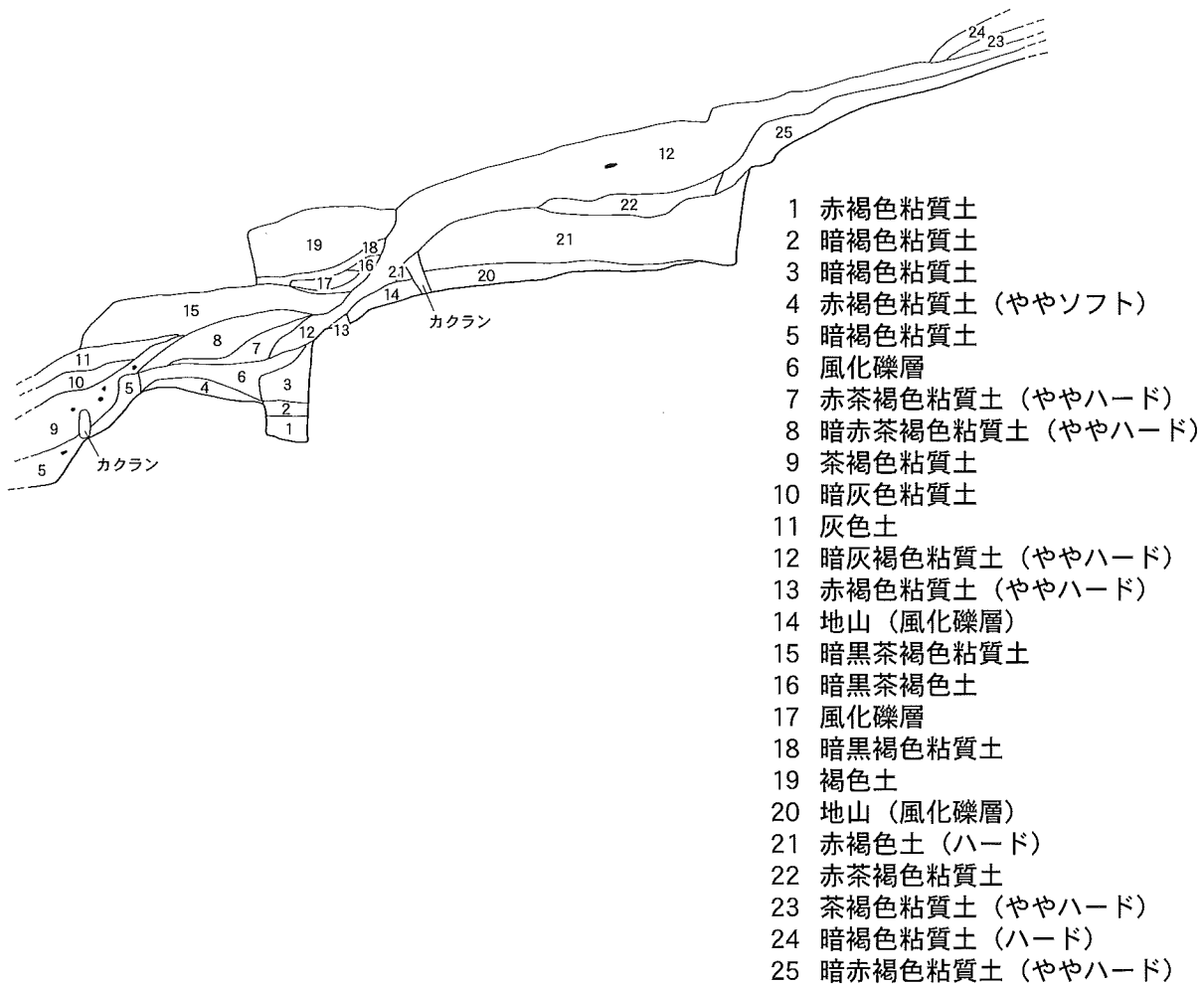
この遺構は、遺跡のほぼ中央部分で確認された。現存長15m、幅0.8m、深さ0.2mを測る。後世に削平された部分が多く、遺物を多く検出したが、遺構の性格等については不明である。

3) 10号溝

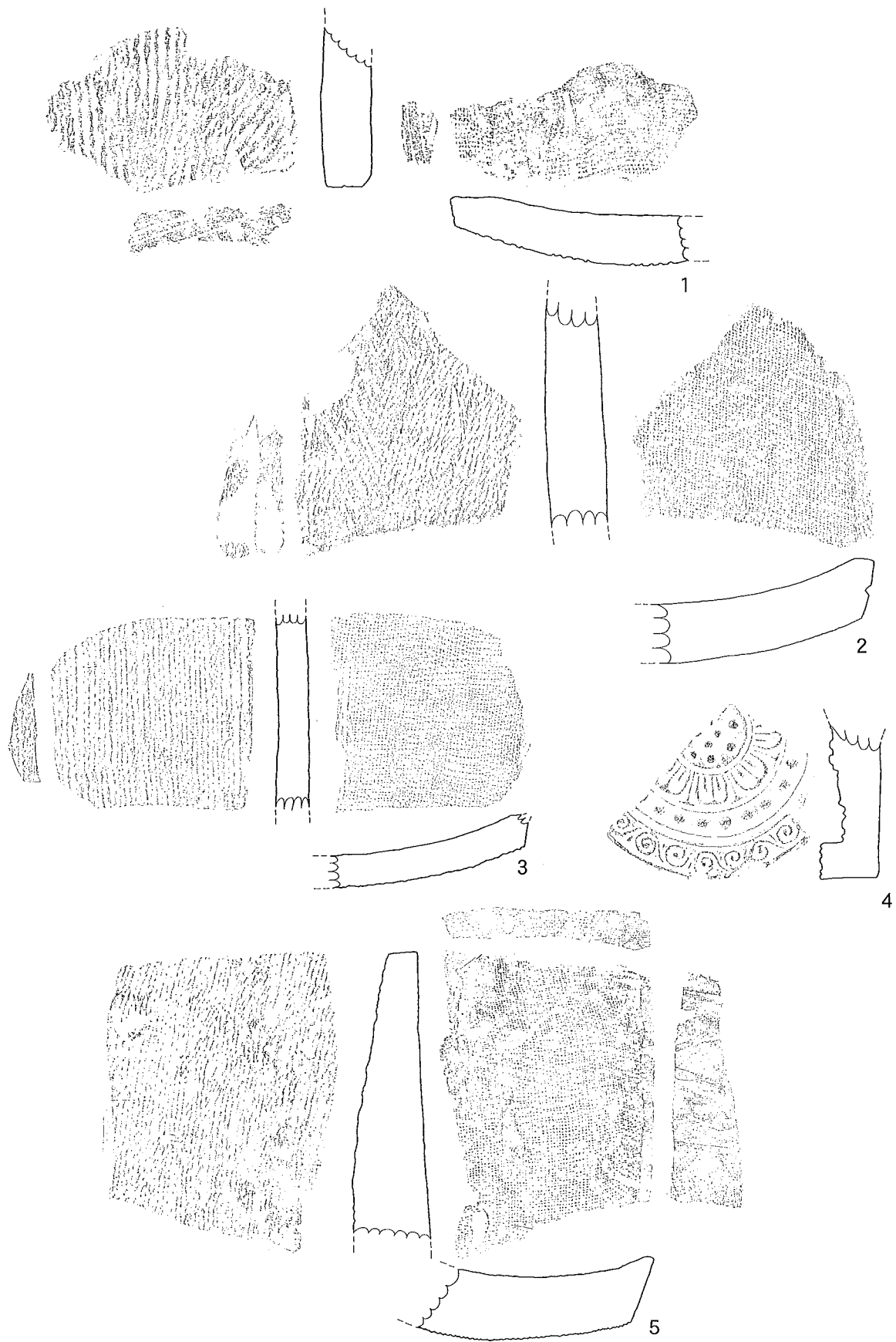
遺構は、調査区東側の斜面部で確認された。確認された南北長は約30mを測る。幅は0.6m、深さ0.6mである。出土遺物についてはあまり多くない。

検出された溝の北側には、学校の焼却炉が設置されており表土を取り除くことができない部分があったため、その部分で土層の確認を行った。2の暗褐色粘質土は、溝が半分埋まった状態の後の、地山の流れ込みと思われる。また6の風化礫層は溝上部が崩れた後の流れ込みである。

この遺構は丘陵頂部よりの高低差が3m近くあり、溝が埋まった後も、学校の建築等により、多くの土砂が流れ込んでいた。



第31図 10号溝周辺土層図



第32图 8号沟·10号沟出土瓦实测图 (S=1/3)

2 土坑

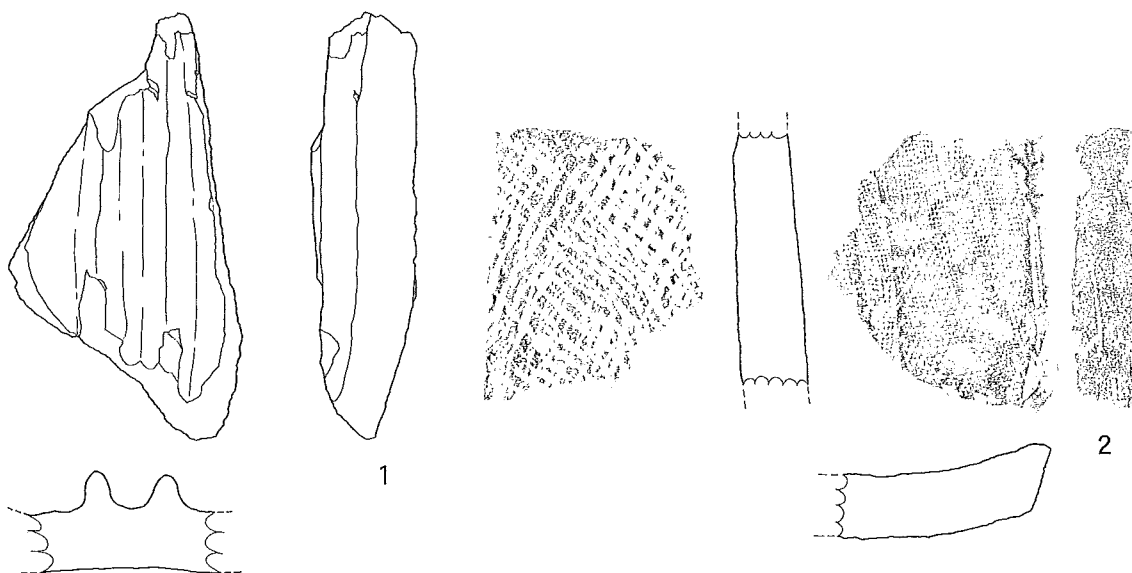
3号土坑

・遺構

この遺構は調査区のほぼ中央西側に位置し、長さ0.4m、幅0.4m、深さ0.2mを測る不定形な土坑である。遺構そのものは上部がかなり削平を受けていたが、いくつかの遺物を確認することができた。

・出土遺物

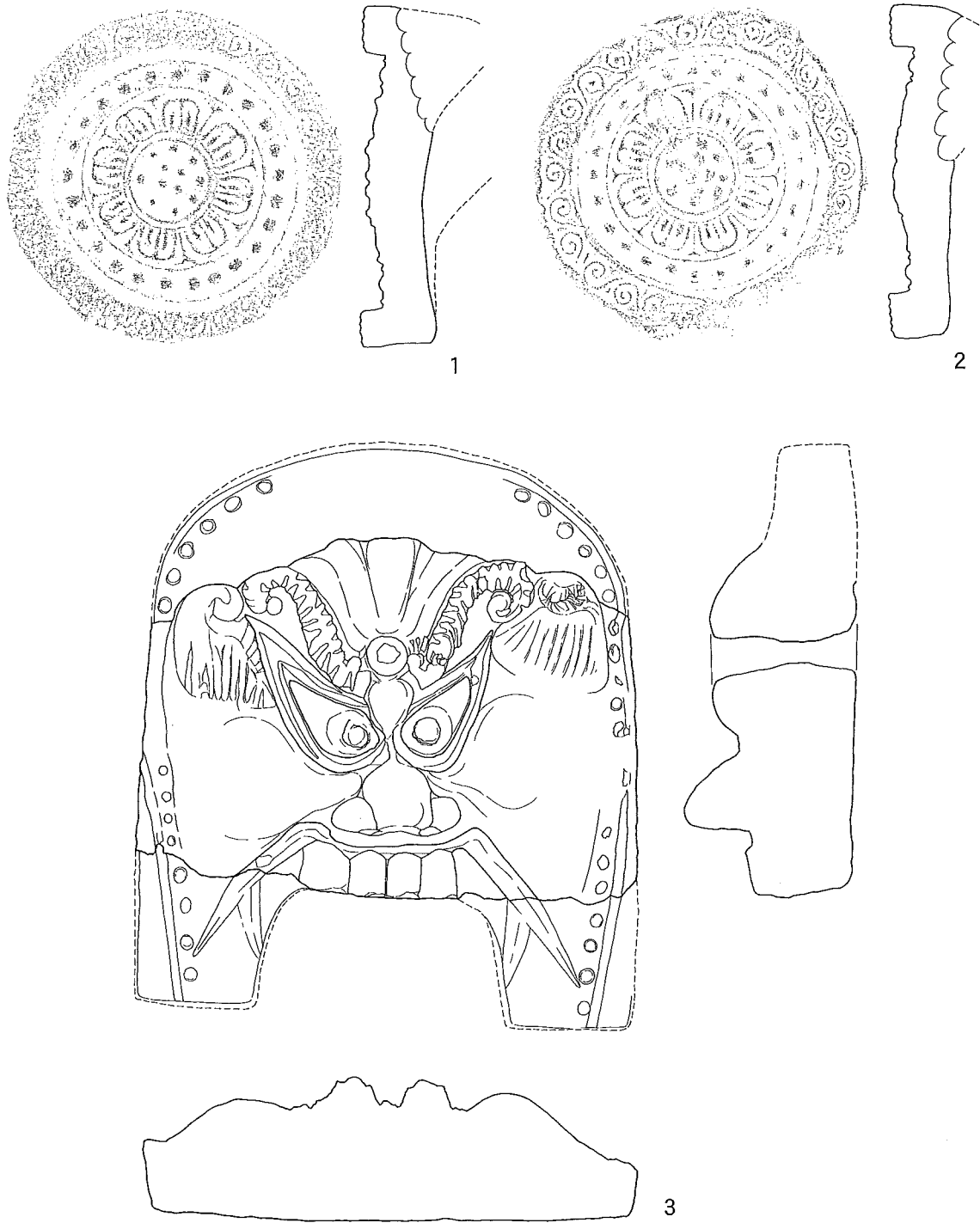
1は瓦塔片で、残存している縦長17.1cm、横9.35cm、厚さ3.9cmを測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。表面はナデで仕上げており、裏面は、不定方向のヘラケズリを施している。2は平瓦で、色調は、凹凸面ともに淡灰色である。胎土は、砂を含んでいる。焼成は良好である。凹面は布目痕が残っており、端部は面取りを施している。凸面は、格子目状のタタキを施している。側端部は、ヘラケズリで仕上げている。



第33図 3号土坑出土遺物実測図 (S=1/3)

3 検出

1は軒先丸瓦で、色調は凹凸面ともに、灰黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成はやや良好である。凹面は複弁八葉軒丸瓦で、蓮子は4+8、珠文は25を数える。凸面はナデで仕上げており、丸瓦との接合痕が残っている。側端部はヘラケズリのちナデで仕上げている。2は軒先丸瓦で、色調は凹凸面ともに、黄橙色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成はやや良好である。凹面は複弁八葉軒丸瓦で、蓮子は4+8、珠文は25を数える。凸面はナデで仕上げており、丸瓦との接合痕が残っている。側端部はヘラケズリのちナデで仕上げている。3は鬼瓦で、復元部分を含まない縦長は、14.7cmを測る。横長は23.55cm、最大厚は7.8cmを測る。色調は、凹凸面ともに灰黄色で、一部浅黄色、橙色、にぶい褐色、にぶい黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は、やや良好である。



第34図 第2次調査検出瓦実測図 (S=1/3)

第3節 第3次調査

1 溝状遺構

3号溝

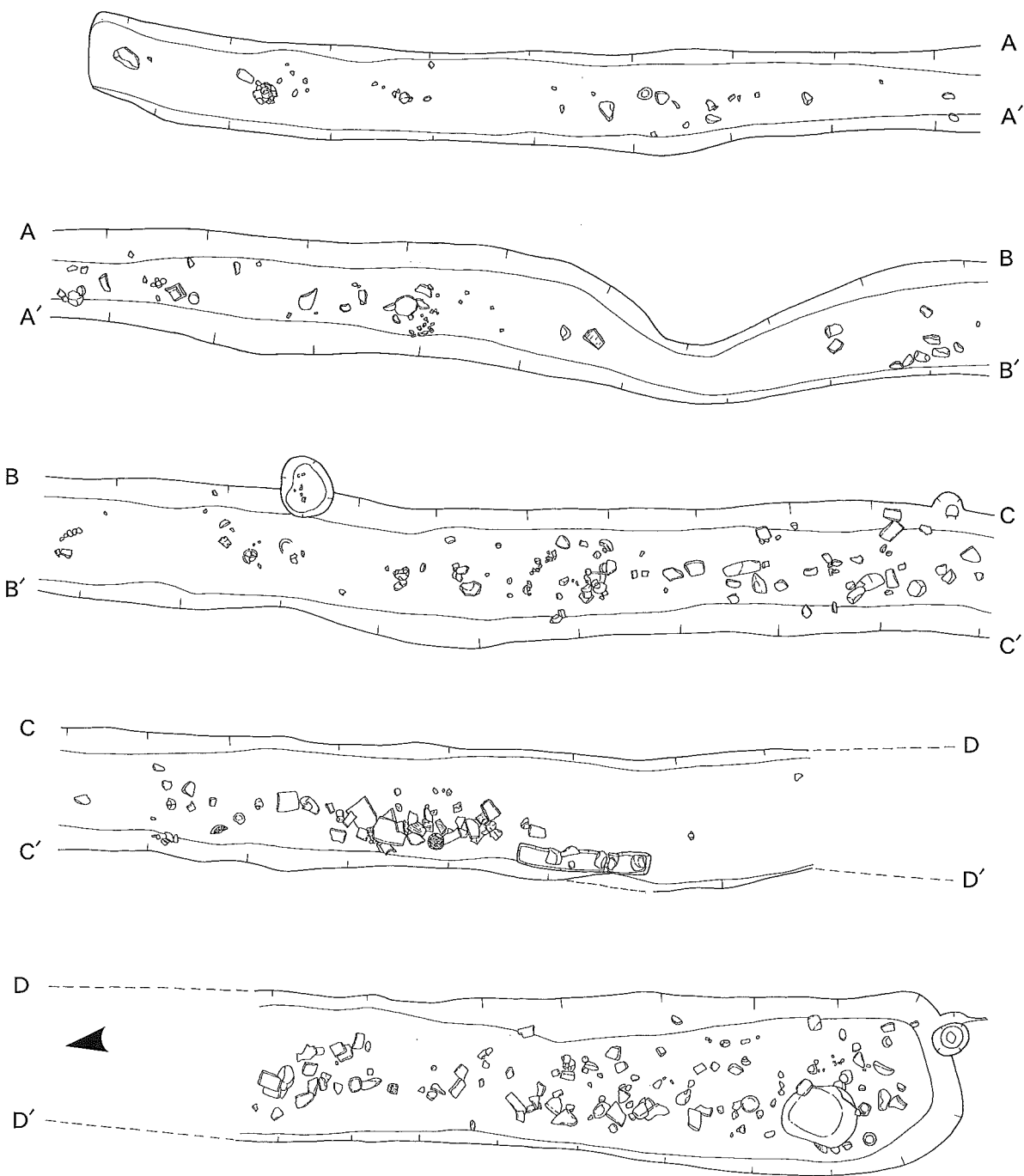
・遺構

この遺構は平成2年度に確認された3号溝につながる遺構で、南北にのびるように確認された。確認できた南北長は約48mで、幅約1.0m、深さ0.3~0.4mを測る。遺構南側では一部溝が途切れる部分があり、門等ではないかと思われたが、後世の開発により、遺構を確認することはできなかった。

・出土遺物

土器

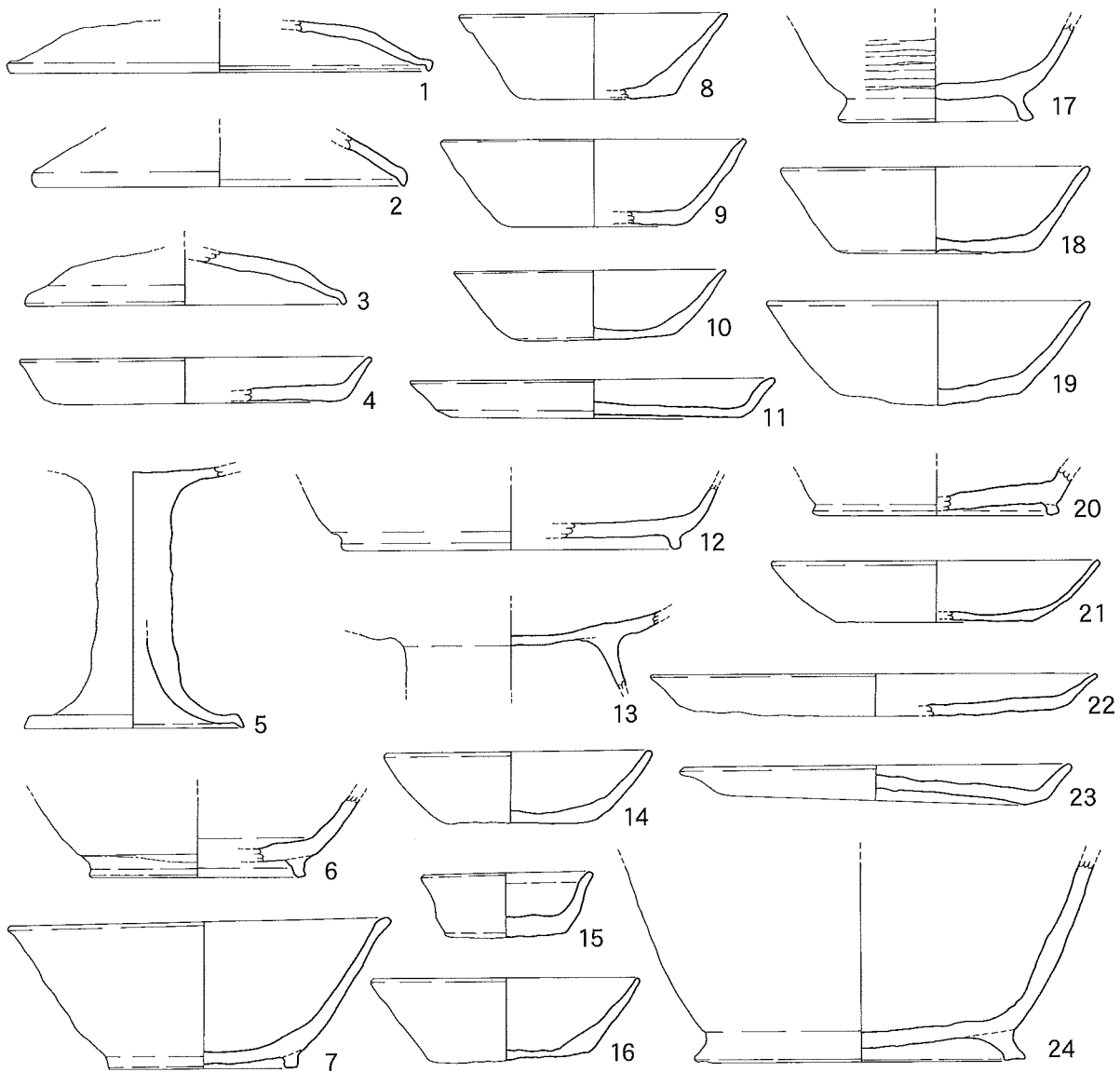
1は蓋で、残存器高2.2cm、口径18.0cmを測る。色調内面はにぶい黄橙色で、一部灰白色である。外面は淡黄色で、一部灰白色、橙色である。胎土は長石を含んでいる。焼成はやや不良である。内面から口縁部にかけてはヨコナデのちナデで、外面頂部はヘラケズリのちナデである。2は蓋で、器高2.25cm、口径16.0cmを測る。色調内面は明赤褐色で、一部淡黄色、灰色である。外面は灰色で、一部灰黄色である。胎土は、長石、角閃石、雲母を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにヨコナデを施している。3は蓋で、現存器高2.35cm、口径13.6cmを測る。色調内面は灰白色で、一部明褐色である。外面は灰白色で、一部黄灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。内面はヨコナデのちナデを施しており、外面はヨコナデで仕上げている。4は皿で、器高1.95cm、口径16.1cm、底径13.3cmを測る。色調内面は灰色で、一部黄灰色である。外面は、灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面から外面体部にかけてはヨコナデで、外面底部はヘラケズリを施している。5は高杯脚部で、残存器高11.2cm、底径は9.4cmを測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。脚部内面はナデで、外面はヨコナデを施している。6は椀で、残存器高3.4cm、底径9.0cmを測る。色調内面は、浅黄橙色である。外面はにぶい黄橙色で、一部にぶい橙色である。胎土は石英、長石を含んでいる。焼成は良好である。内面はヨコナデで、一部指オサエが残っている。外面はヨコナデで、一部ナデである。7は椀で、器高6.5cm、口径16.2cm、底径8.05cmを測る。色調内面は、橙色である。外面は橙色で、一部灰白色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面はナデを施しているが、外面は器面荒れのため、調整不明である。8は杯で、器高3.8cm、口径11.5cm、底径6.35cmを測る。色調内面は明赤褐色で、一部橙色、灰褐色、黒褐色である。外面は橙色で、一部にぶい褐色、褐灰色、黒褐色である。胎土は、長石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに器面荒れのため、調整は不明である。口縁部については、ヨコナデを施している。9は杯で、器高3.7cm、口径12.4cm、底径6.9cmを測る。色調内面は橙色で、一部にぶい黄橙色、にぶい褐色である。外面はにぶい赤褐色で、一部にぶい黄色、灰白色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで、底部はヘラケズリを施している。10は椀で、器高3.05cm、口径11.65cm、底径7.0cmを測る。色調内面は明黄褐色で、一部黒褐色である。外面は明黄褐色で、一部黒褐色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面は指ナデ及び指オサエを施している。外面はヨコナデで、底部はヘラキリである。11は皿で、器高1.7cm、口径15.5cmを測る。色調は内外面ともに、浅黄色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデを施しており、底部はヘラナデである。12は杯で残存器高2.8cm、底径14.0cmを測る。色調内面は灰白色で、一部明黄褐色、にぶい橙色、灰オリーブ色、灰色である。外面は灰色で、一部オリーブ黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面は調整不明瞭で、外面はナデを施している。13は椀で、残存器高3.3cmを測る。色調内面は橙色で、一部にぶい橙色である。外面は橙色である。胎土は、長石、角閃石、赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデを施している。14は杯で、器高3.2cm、口径11.35cm、底径5.8cmを測る。色調内面はにぶい橙色で、一部浅黄橙色である。外面は橙色で、一部浅黄橙色、にぶい褐色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで、底部はヘラケズリのちナデを施している。15は椀で、器高2.8cm、口径7.1cm、底径5.2cmを測る。色調は内外面ともに灰色で、一部灰白色である。胎土は、角閃石、微細粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで、底部はヘラキリである。16は杯で、器高3.6cm、口径11.35cm、底径7.0cmを測る。色調内面はにぶい褐色で、一部橙色、明黄褐色、暗灰色である。外面は橙色で、一部灰黄褐色、黄灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面から外面体部にかけては、器面荒れのため調整は不明である。外面底部はヘ



第35図 3号溝遺物出土状況実測図 (S=1/60)

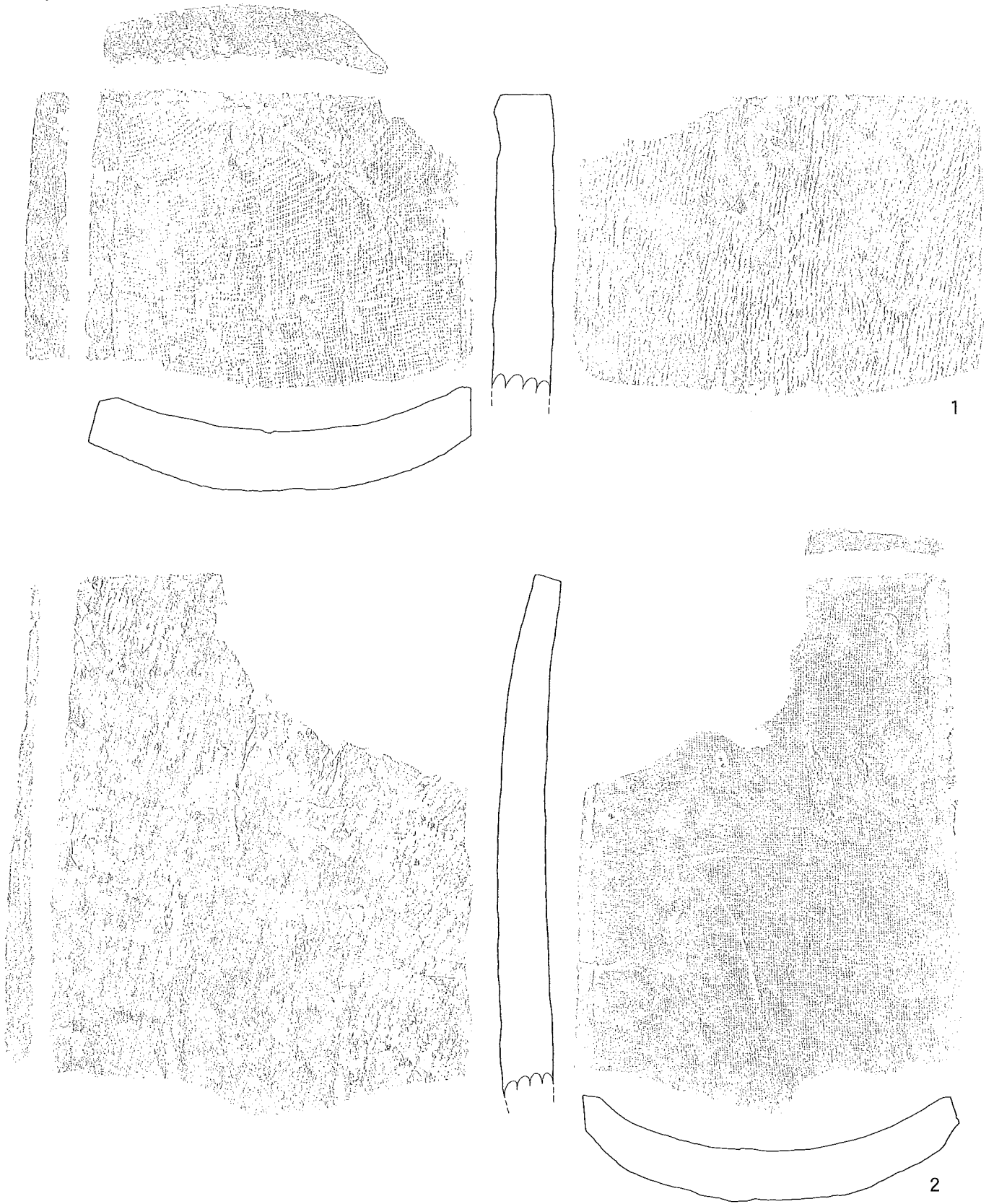
ラキリのちナデである。17は椀で、残存器高4.1cm、底径7.8cmを測る。色調内面は、橙色である。外面は橙色で、一部灰褐色である。胎土は、長石を含んでいる。焼成は良好である。内面はナデで、外面体部はナデのちミガキ。外面底部はナデを施している。18は杯で、器高3.7cm、口径13.1cm、底径8.5cmを測る。色調内面は、淡黄色である。外面は黄橙色で、一部にぶい褐色、浅黄色、淡黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで、底部はヘラケズリのちナデである。19は杯で、器高4.45cm、口径13.75cm、底径7.75cmを測る。色調内面は橙色で、一部黄橙色、黄灰色である。外面は橙色で、一部にぶい橙色、淡黄色である。胎土は、長石、角閃石、赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデを施しており、底部はヘラケズリのちナデである。20は椀で、残存器高2.15cm、底径10.0cmを測る。色調内面は橙色で、一部灰色である。外面は、灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内面

はヨコナデのちナデを施している。外面体部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデである。21は杯で、器高2.6cm、口径14.0cm、底径8.4cmを測る。色調内面は褐灰色で、一部黒褐色、にぶい黄橙色である。外面は褐灰色で、一部灰黄褐色、浅黄橙色、にぶい橙色、黒色である。胎土は、石英、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで、底部はヘラケズリである。22は皿で、器高1.8cm、口径19.0cm、底径15.2cmを測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに、器面荒れのため調整不明である。23は皿で、器高1.8cm、口径16.55cm、底径12.55cmを測る。色調内面は明赤褐色で、一部浅黄橙色である。外面はにぶい赤褐色で、一部灰褐色、にぶい橙色、浅黄橙色である。胎土は、長石を含んでいる。焼成は良好である。内面から外面体部にかけてはヨコナデのちナデで、外面底部はヘラケズリのちナデである。24は壺で、残存器高8.5cm、底径13.9cmを測る。色調内面は青灰色で、一部灰色である。外面は青灰色で、一部オリーブ灰色、灰黄色である。胎土は、長石を含んでいる。焼成は良好である。内面はヨコナデで、底部には指頭痕が残る。外面体部はヨコナデで、底部はヘラケズリのちナデである。

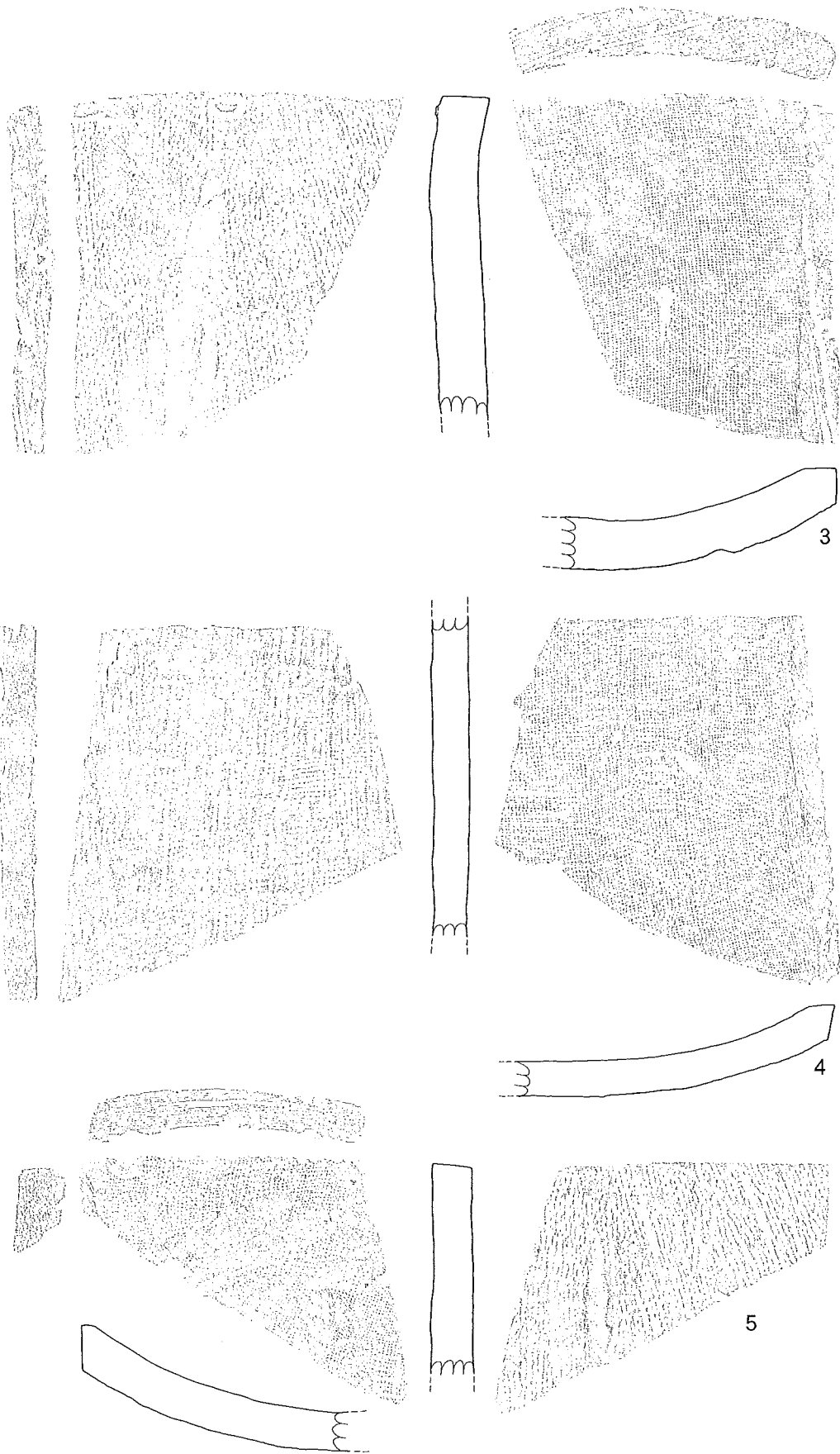


第36図 3号溝出土土器実測図 (S=1/3)

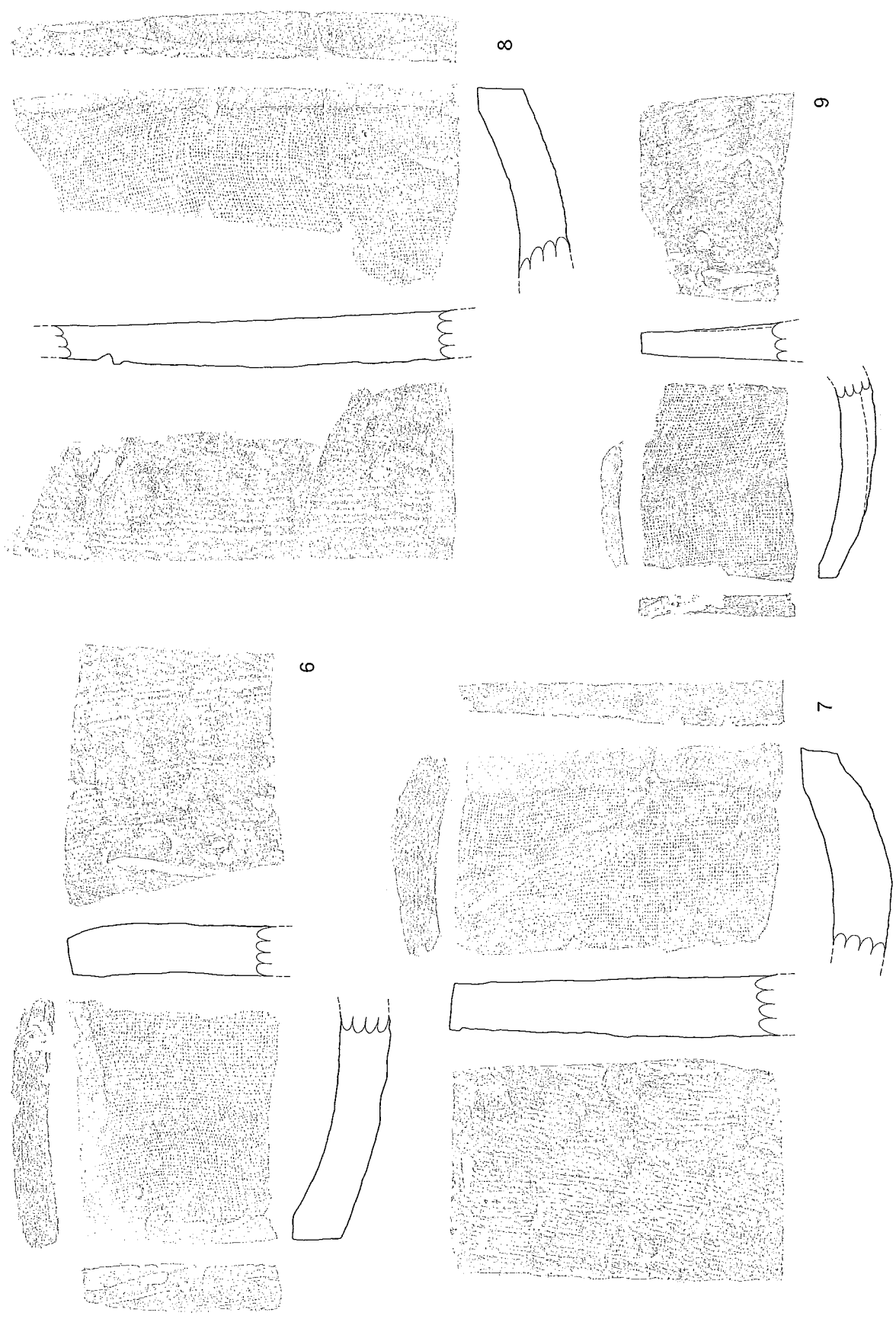
平瓦



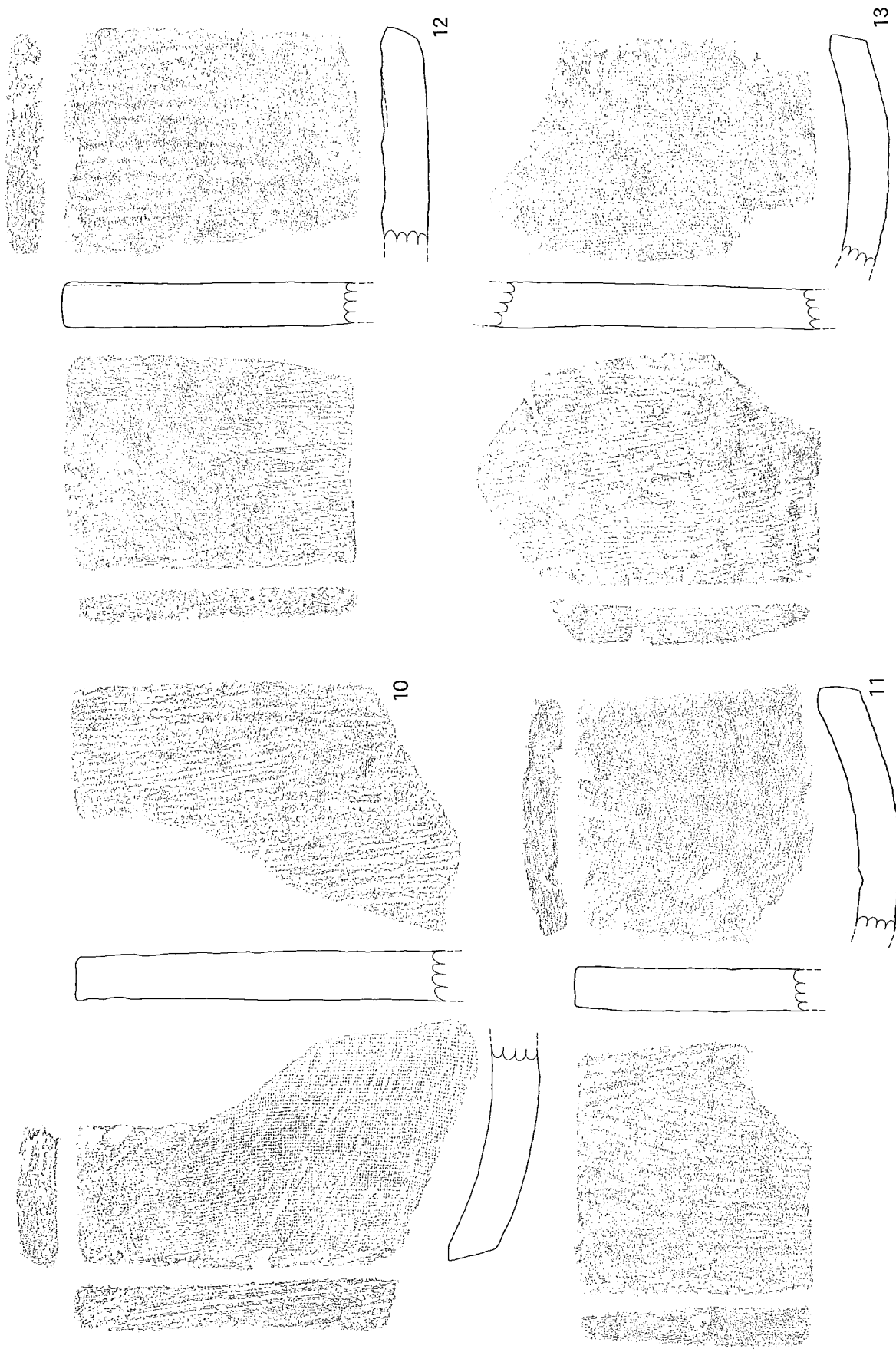
第37图 3号溝出土平瓦実測图 (1) (S=1/3)



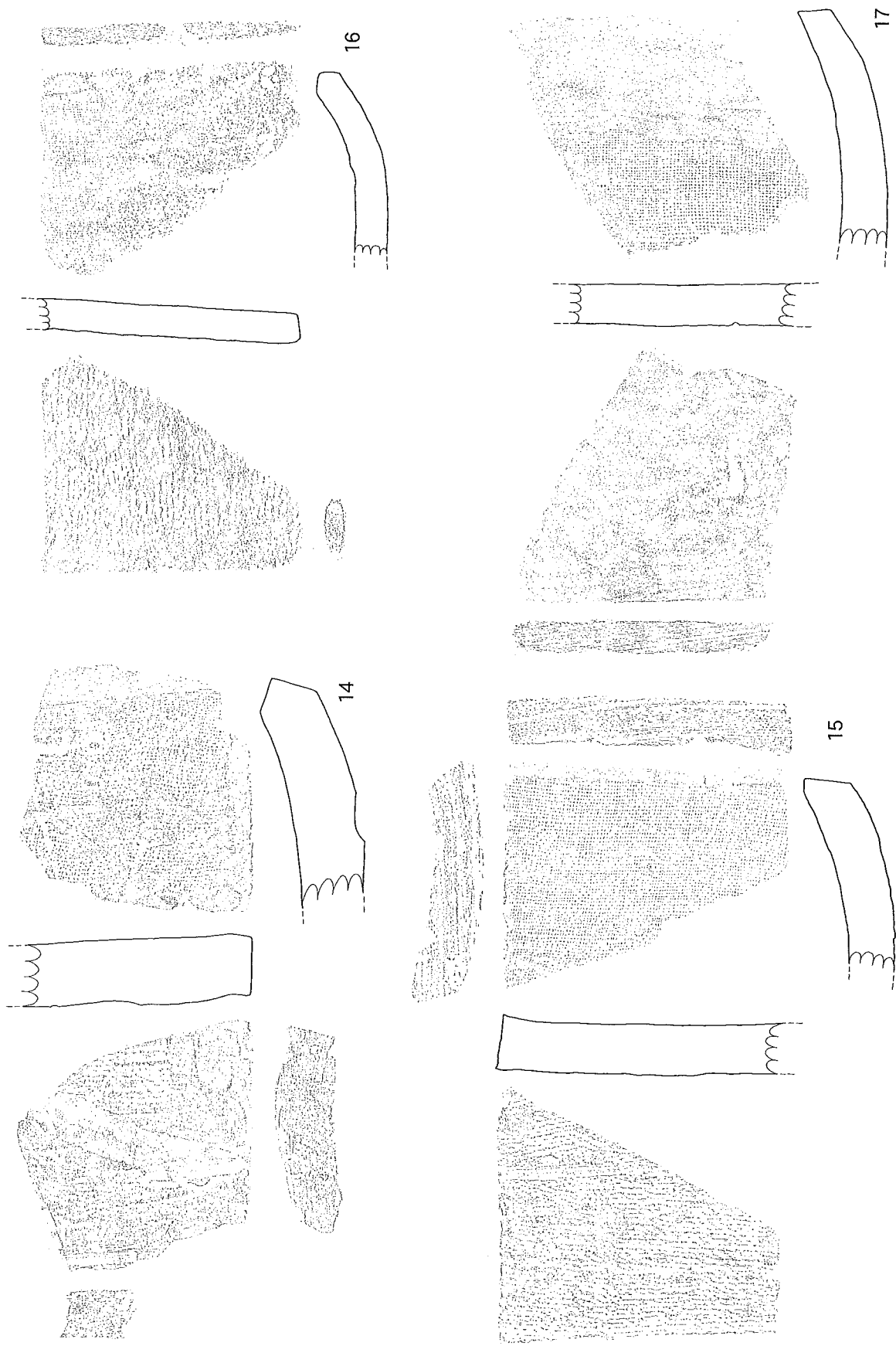
第38图 3号沟出土平瓦实测图 (2) (S=1/3)



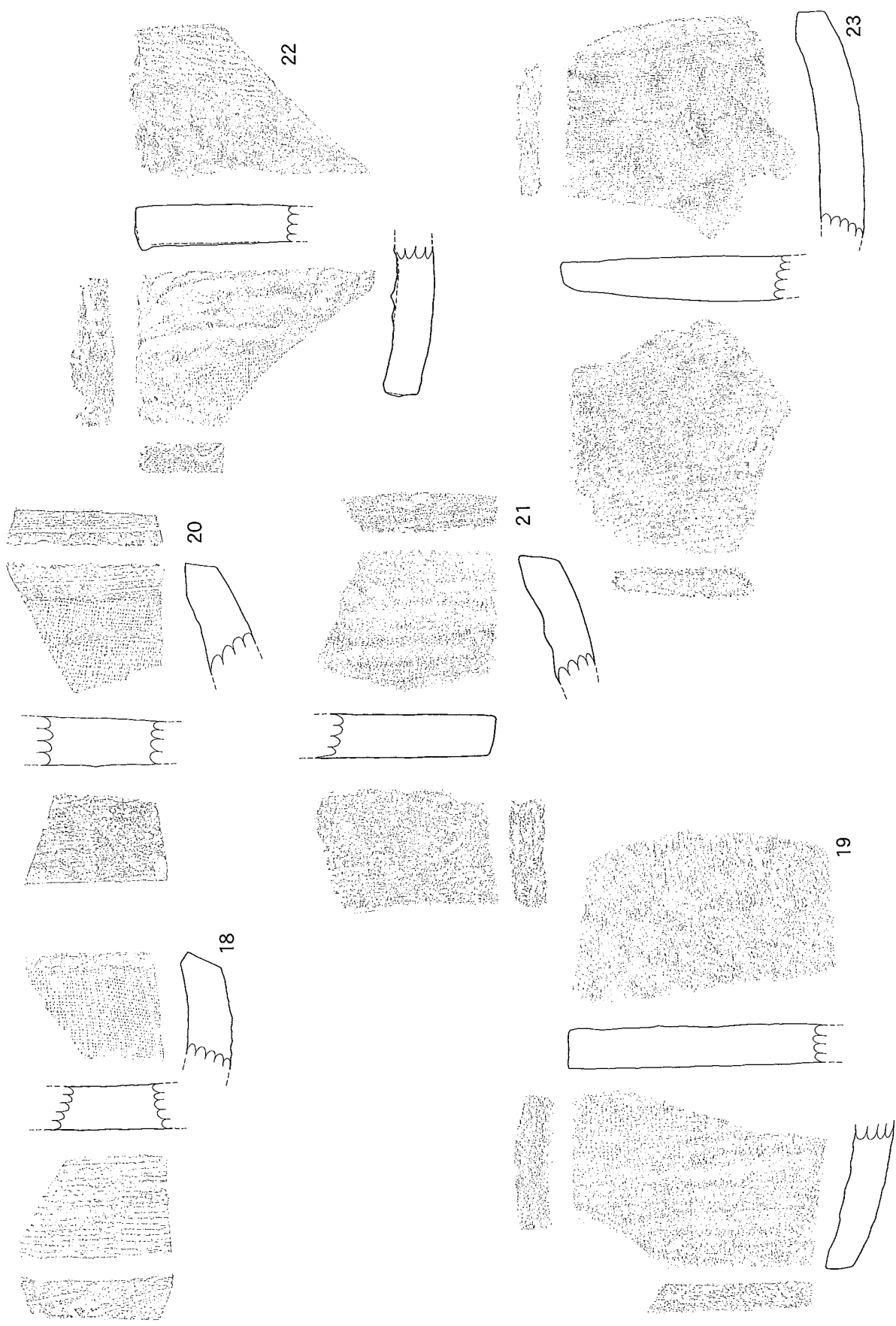
第39图 3号溝出土平瓦実測図 (S=1/3)



第40图 3号溝出土平瓦実測図(4) (S=1/3)



第41图 3号溝出土平瓦実測図 (S=1/3)



第42图 3号溝出土平瓦実測図(6) (S=1/3)

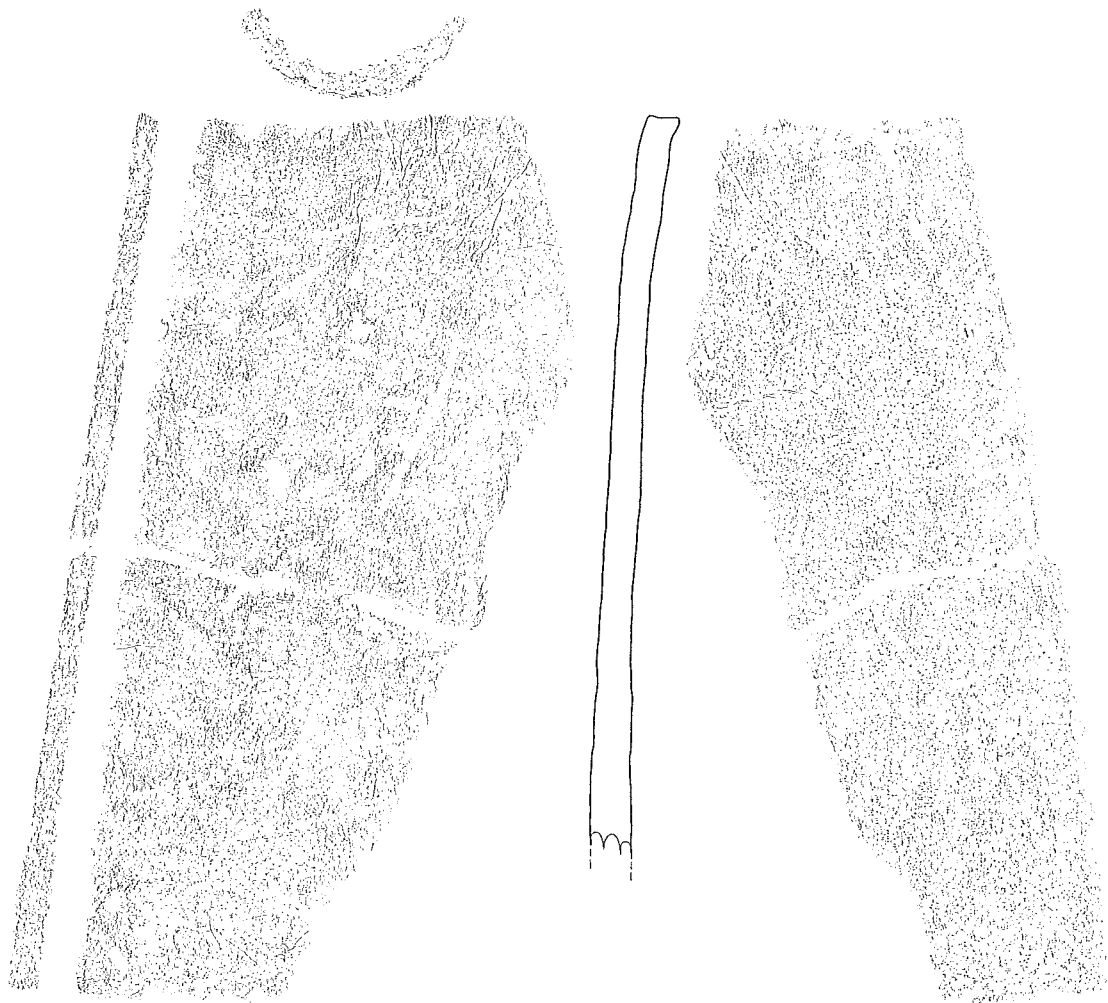
No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎 土	焼成	特 徴 (凹)	特 徴 (凸)	特徴(側端部)
1	黄灰色・暗灰色	黄灰色・暗灰色	長石・角閃石・1cm大の石を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ 一部ナデ 布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキのち一部ナデ 指頭痕あり	ヘラケズリ
2	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母・1.5cm大の石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキのちナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
3	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕が残る 他の瓦の付着痕あり	ヘラケズリ
4	灰黄色・黒褐色	灰黄色・黒褐色	細粒を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち刷毛ナデ及びナデ 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
5	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
6	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 指頭痕及びヘラナデ痕あり	ヘラケズリ
7	黄橙色	灰黒色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕及び指頭痕あり	ヘラケズリ
8	黄橙色	黄褐色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ナデ 工具痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
9	黄橙色	黒褐色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部ナデを施す 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 一部縄目タタキの上から粘土を貼付け後ナデ	ヘラケズリ
10	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち刷毛ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
11	黄橙色	黄褐色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	布目痕 一部工具痕が残る 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
12	浅黄色	浅黄色	細粒を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上に粘土を貼り付け、ナデを施す 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
13	暗灰色・灰色	暗灰色・灰色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
14	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕のち一部ヘラナデ 布の継ぎ目痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ 指頭痕及び工具痕があり	ヘラケズリ
15	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ 一部ヘラ痕が残る	ヘラケズリ
16	黄褐色	黄褐色	細粒を含む	やや良好	布目痕のち指ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
17	黒褐色	黒褐色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕 一部ヘラケズリ及びナデ	縄目タタキのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ
18	灰色	灰色	長石・角閃石・微細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
19	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上から粘土貼付け後ナデ	縄目タタキのちナデ	ヘラケズリ
20	灰色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
21	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上から粘土貼付け後ナデ 一部指頭痕あり 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ
22	灰黄色	灰黄色	長石を含む	良好	布目痕 一部布目痕の上に粘土を貼り付け、ナデを施す 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ 一部指頭痕
23	黄褐色	黄褐色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕一部ナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ

第8表 3号溝出土平瓦観察表

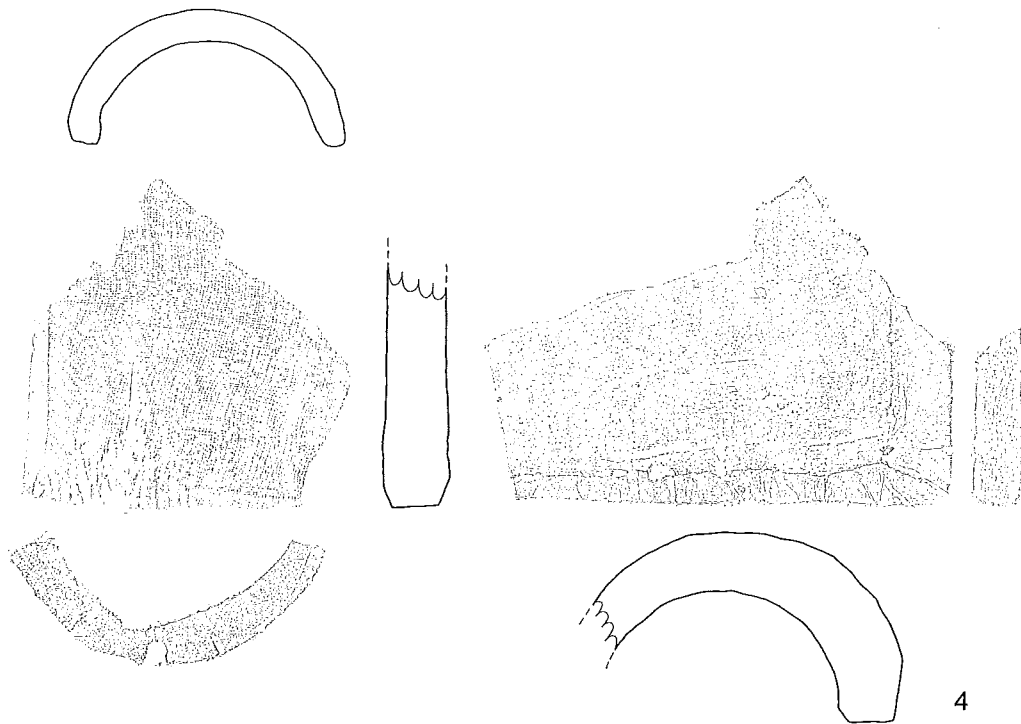
丸瓦



第43图 3号溝出土丸瓦実測図 (1) (S=1/3)

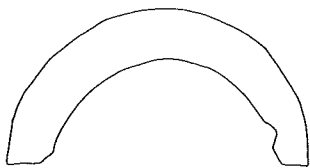
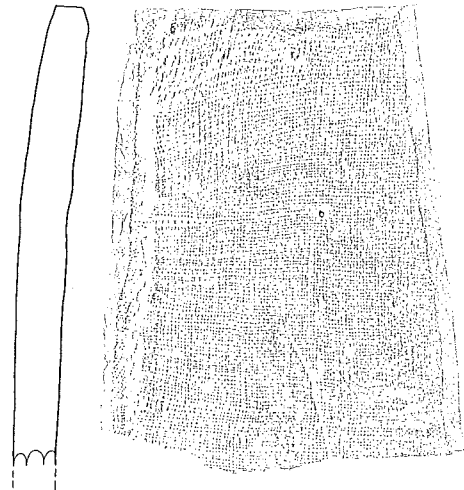
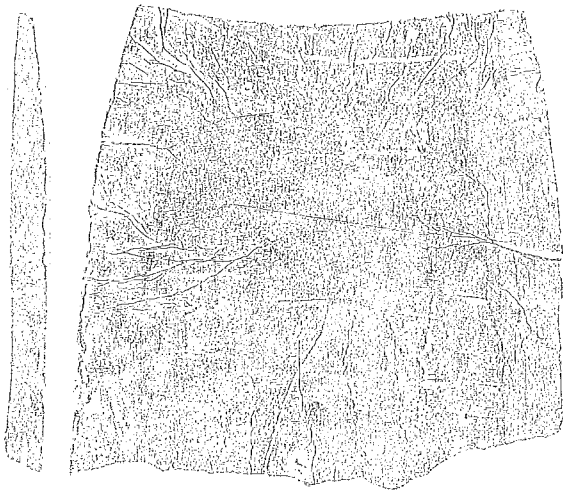
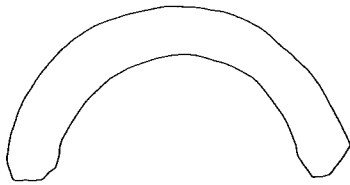
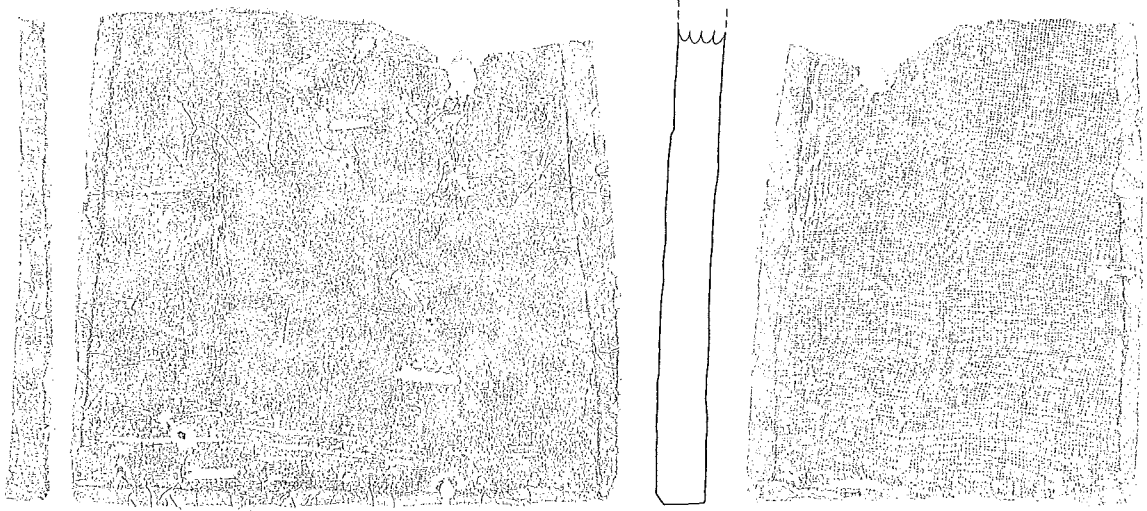


3

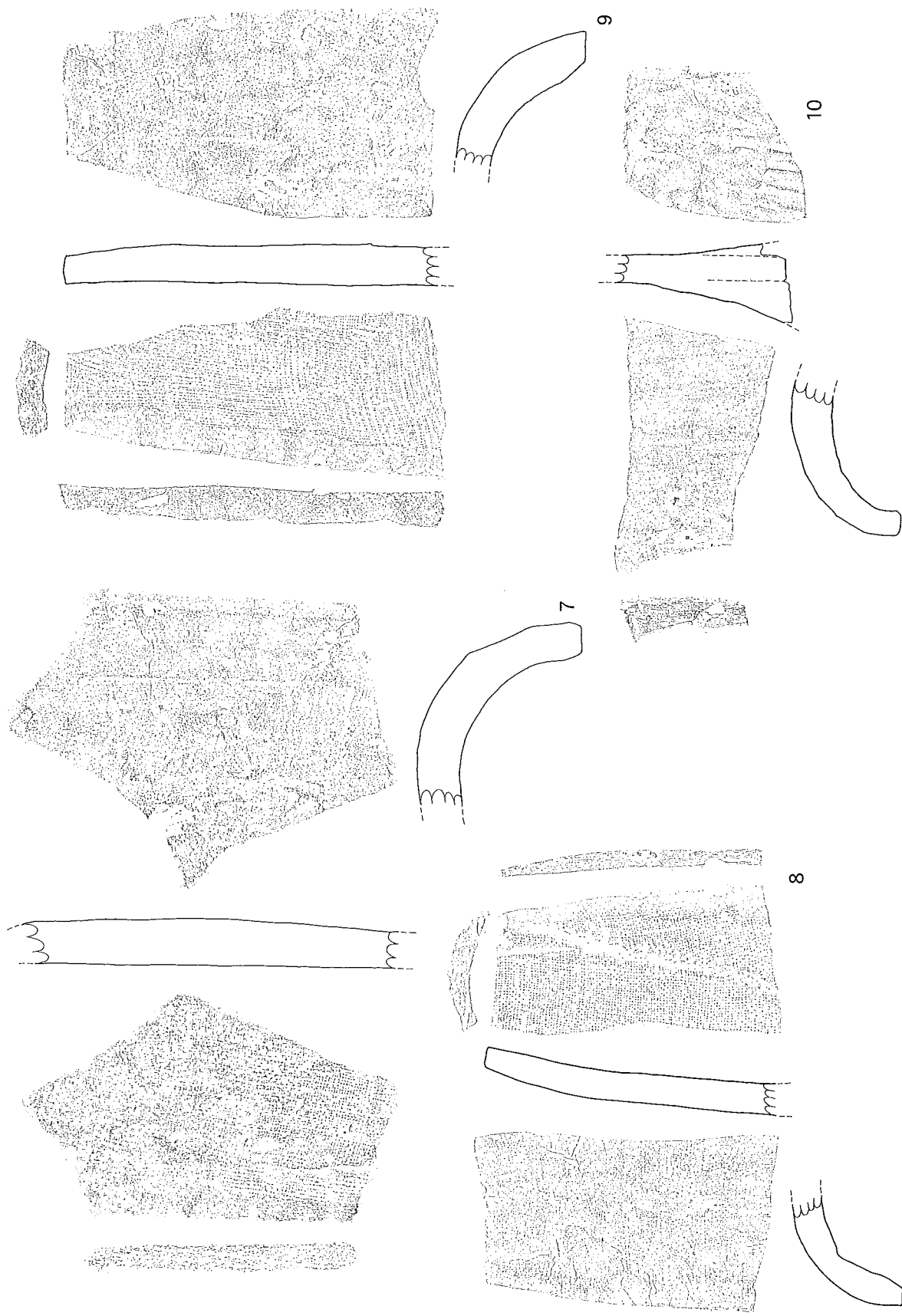


4

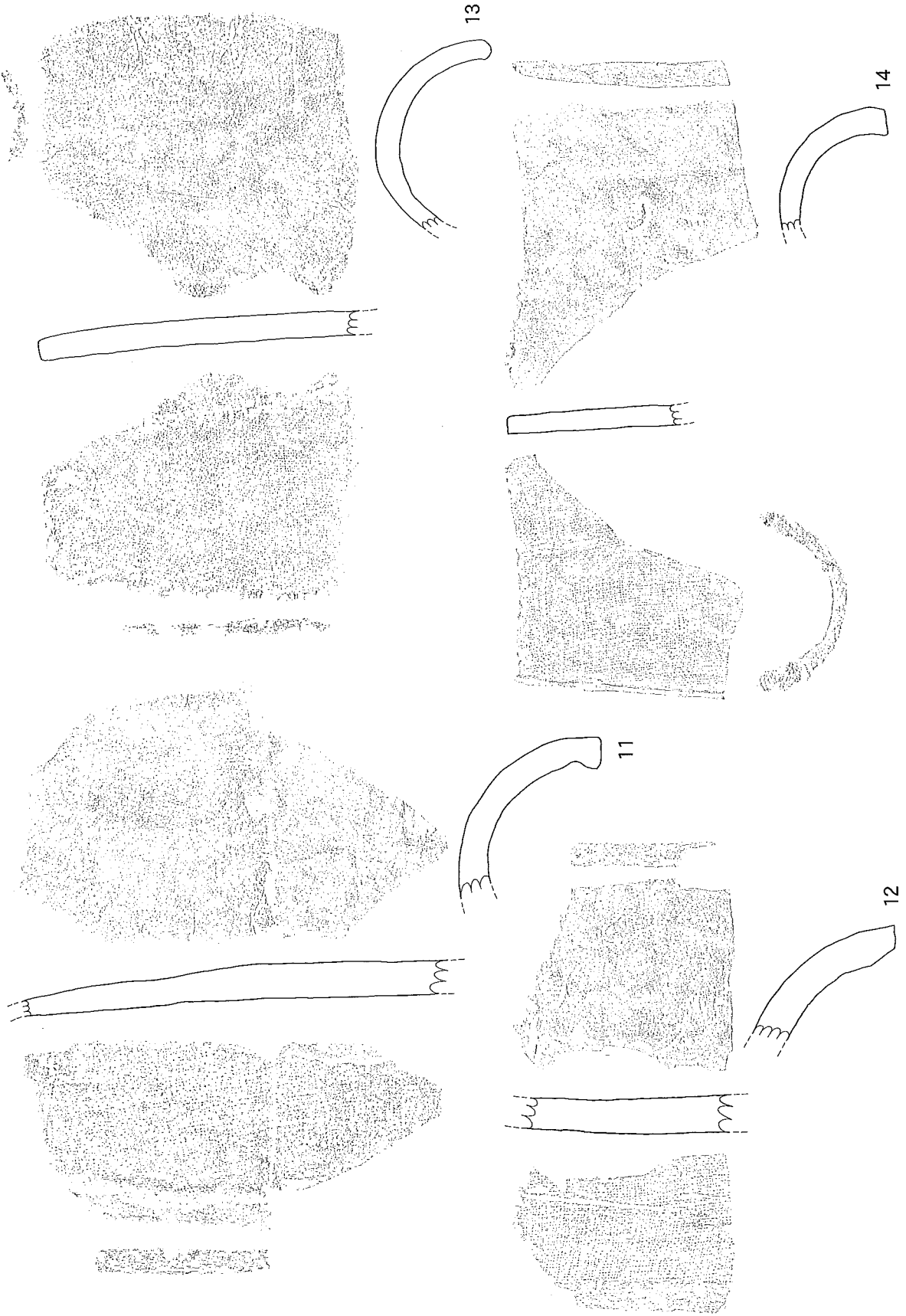
第44图 3号沟出土丸瓦実測图(2) (S=1/3)



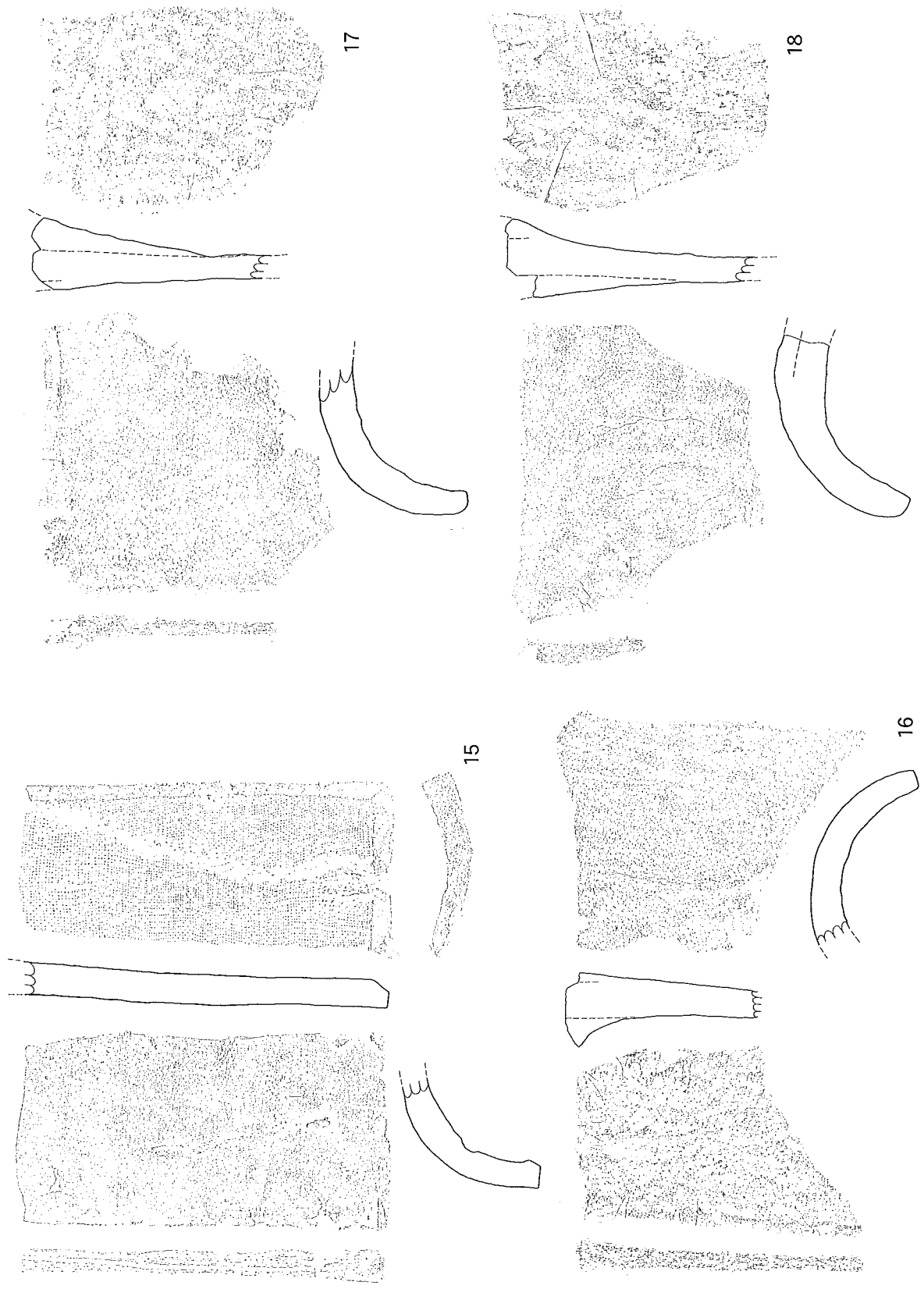
第45图 3号沟出土丸瓦実測图 (3) (S=1/3)



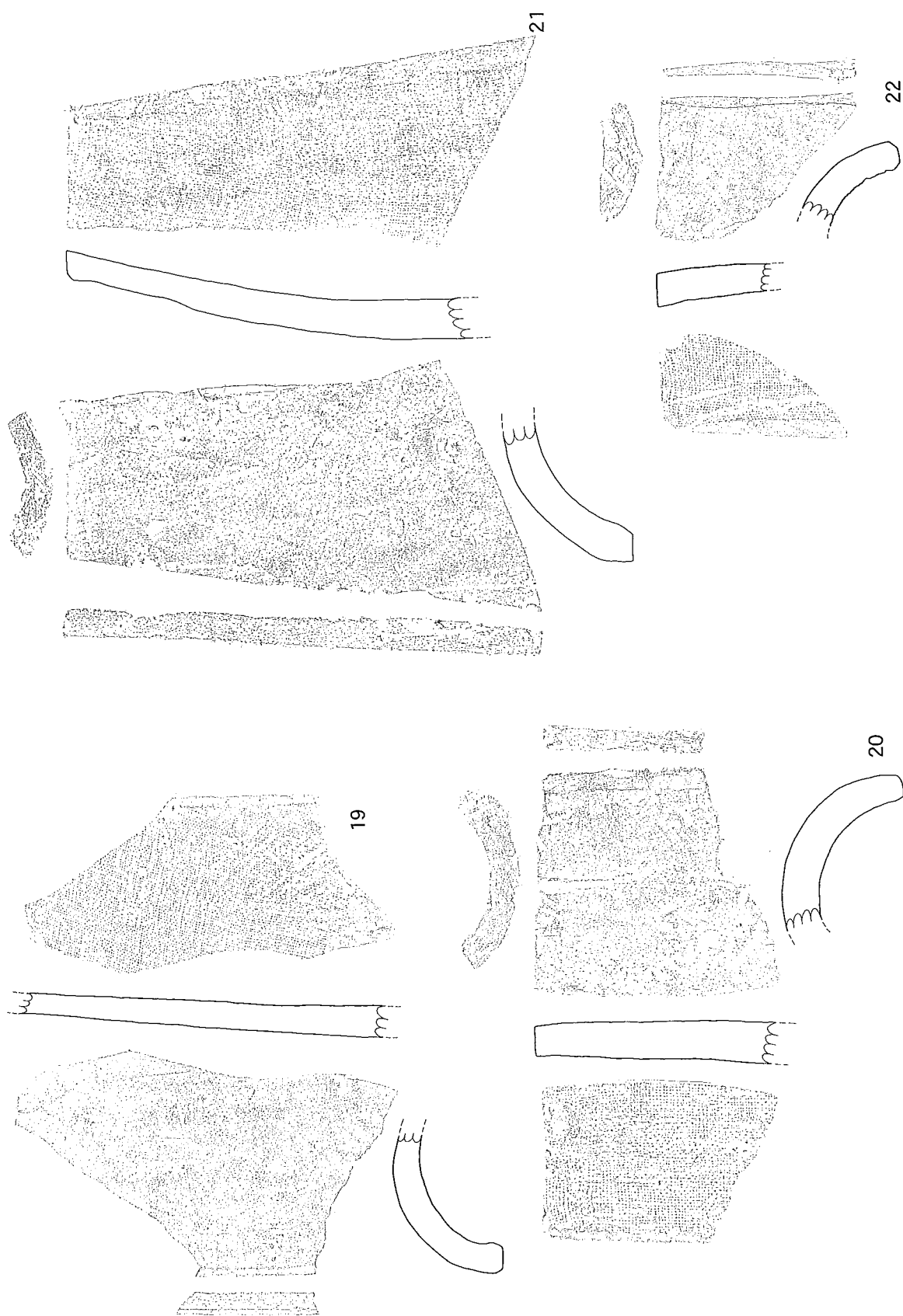
第46图 3号溝出土丸瓦実測図 (4) (S=1/3)



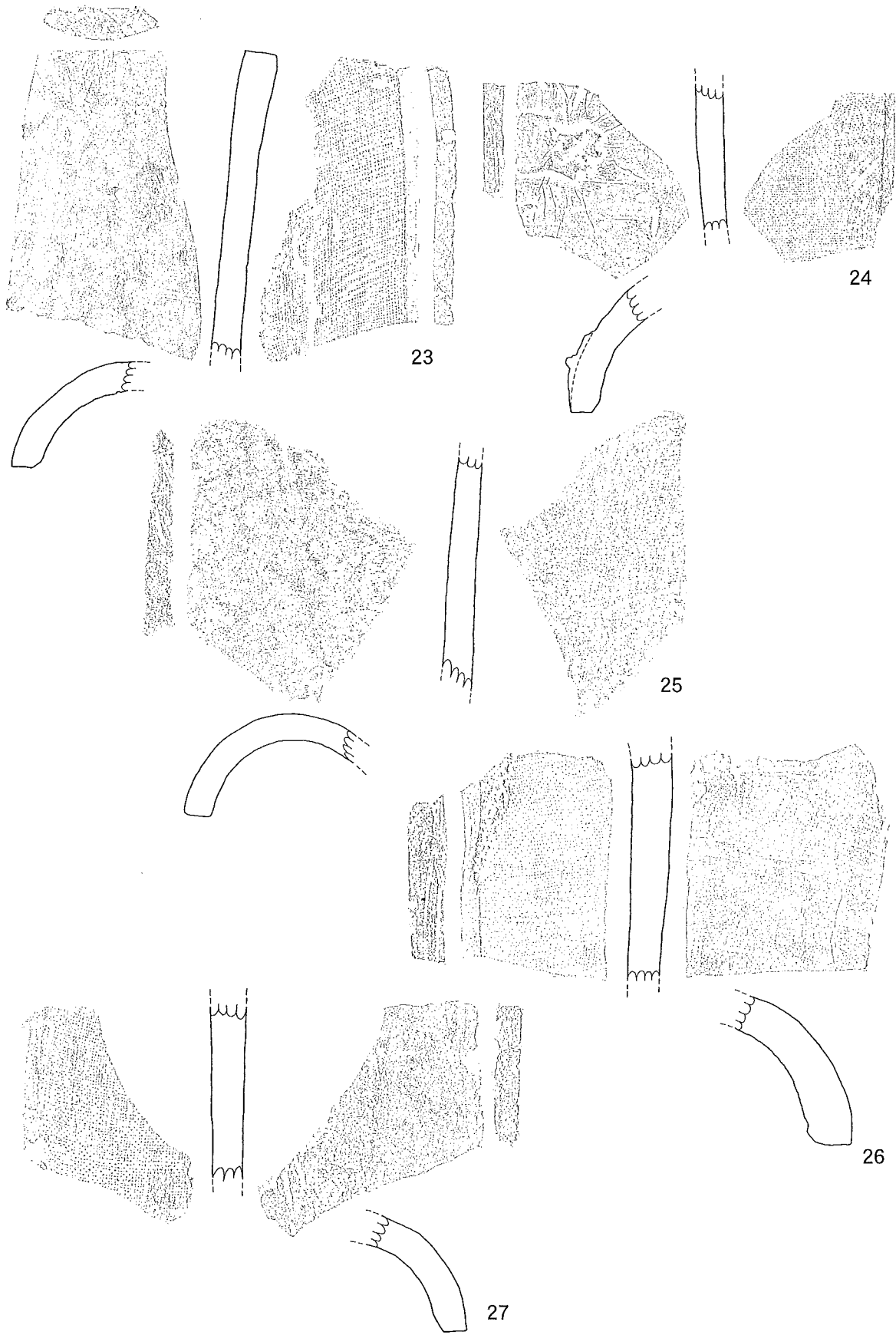
第47图 3号溝出土丸瓦実測図 (5) (S=1/3)



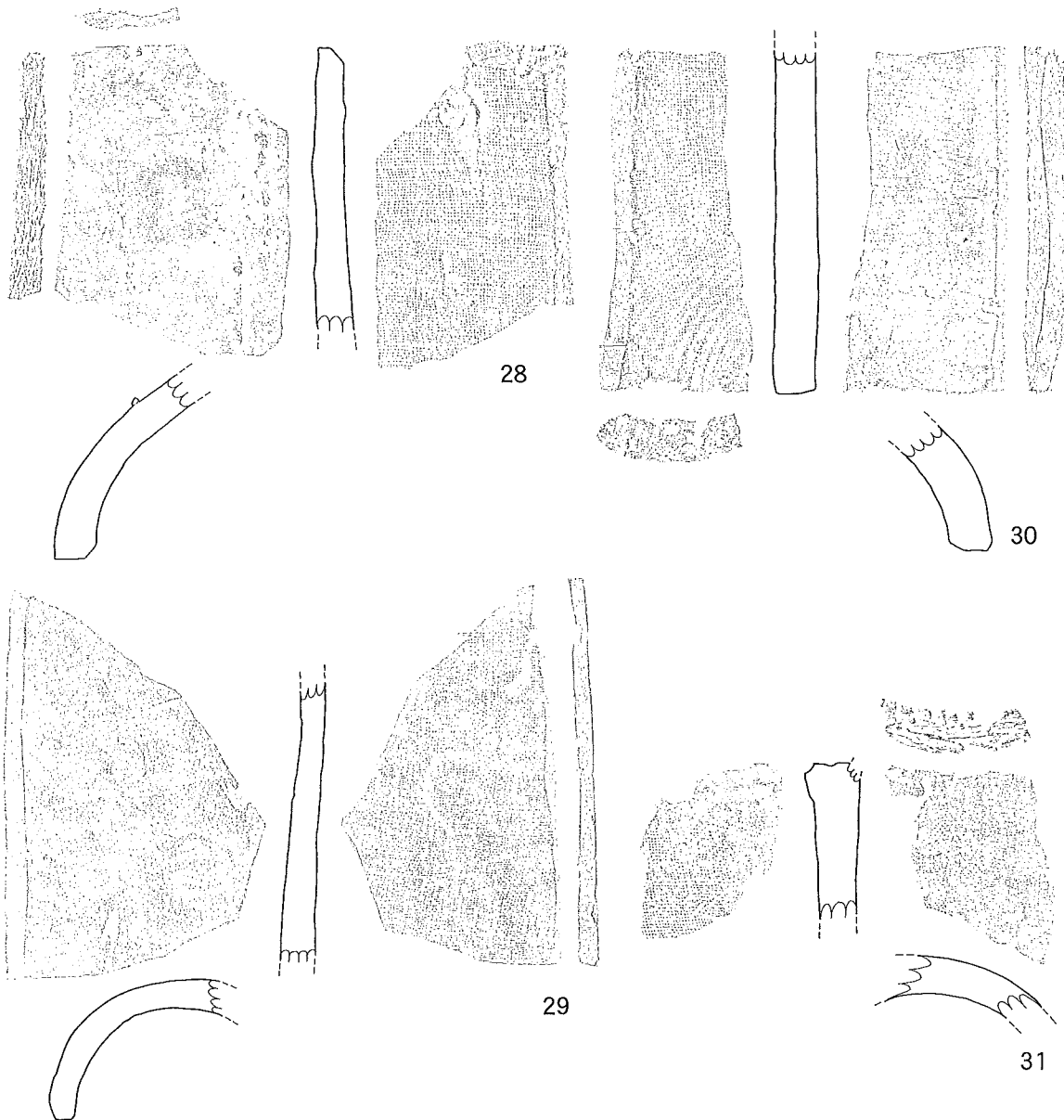
第48图 3号沟出土瓦突测图 (6) (S=1/3)



第49图 3号溝出土丸瓦実測図(7) (S=1/3)



第50图 3号沟出土丸瓦实测图(8) (S=1/3)



第51図 3号溝出土丸瓦実測図(9) (S=1/3)

No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	灰色	灰色	長石・角閃石・金雲母・1.5cm大の石を含む	良好	布目痕 一部布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
2	黄橙色	灰黒色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕の上に粘土を貼り付け後ナデ	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
3	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 布の継ぎ目が残る 指頭痕あり	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
4	灰色	灰色	石英・長石・角閃石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ
5	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・2~3cm大の石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 端部は面取りを施す 工具痕あり	ヘラケズリ
6	暗灰色	黄橙色・灰色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 工具痕あり	ヘラケズリ

第9表 3号溝出土丸瓦観察表(1)

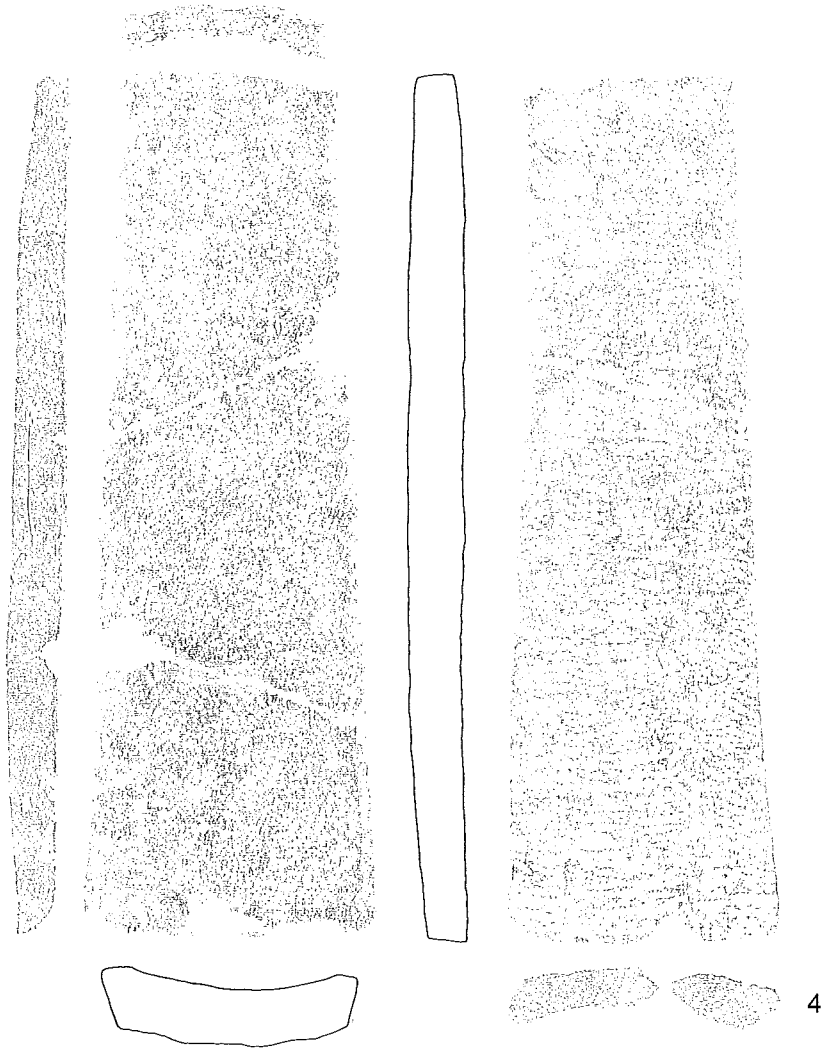
No.	色調 (凹)	色調 (凸)	胎 土	焼成	特 徴 (凹)	特 徴 (凸)	特徴(側端部)
7	灰白色・黄橙色	灰白色・黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ及びナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ
8	灰白色・黄橙色・灰色	灰白色・黄橙色・灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 布のつなぎ目が残る	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
9	黄橙色・灰色	黄橙色・灰色	長石・細粒を含む	良好	布目痕 一部ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ 指頭痕あり
10	灰色	浅黄色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕 一部布目痕の上に粘土を貼り付け、ナデ及び指オサ工を施す 端部は面取りを施す	ヘラケズリ	ヘラケズリ
11	浅黄色	浅黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 布の継ぎ目が残る	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
12	黒褐色	灰色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
13	黒褐色	黒褐色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のち一部ナデ 布の継ぎ目が残る	ヘラケズリのちナデ	ヘラケズリ
14	黄灰色	黄灰色	石英・長石・角閃石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ
15	黒褐色	灰黄色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 布のつなぎ目が残る 指頭痕あり	ヘラケズリのち一部ナデ 焼成時の付着痕あり	ヘラケズリ
16	浅黄色	灰白色	石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す 指頭痕あり	ヘラケズリ	ヘラケズリ
17	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上から粘土を貼付け後ナデ	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
18	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 一部布目痕の上から粘土を貼付け後ナデ	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
19	灰色	灰色	石英・微細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリのち一部ナデ 端部は面取りを施す 工具痕、粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
20	灰黄色	灰黄色	長石・微細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 工具痕あり 端部は面取りを施す 粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
21	黒褐色・黄橙色	黒褐色・黄橙色	細粒を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す 指頭痕あり	ヘラケズリのち一部ナデ 指頭痕あり	ヘラケズリ
22	黒灰色	灰黄色	長石を含む	良好	布目痕 布の継ぎ目が残る 工具痕あり 端部は面取りを施す	ヘラケズリのちナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ
23	灰色	灰色	石英・長石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
24	黒褐色	褐灰色	微細粒を含む	良好	布目痕 一部ナデを施す 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 瓦焼成時の粘土の付着痕あり	ヘラケズリ
25	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	布目痕	ヘラケズリのち一部ナデ 粘土の重ね痕が残る	ヘラケズリ
26	黒灰色	灰色	石英・長石を含む	良好	布目痕 布の継ぎ目が残る 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 粘土焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
27	黒灰色	黒灰色	長石・細粒を含む	良好	布目痕一部ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ	ヘラケズリ
28	黒褐色	灰黄色	細粒を含む	良好	布目痕 一部指圧痕あり 端部は面取りを施す	ヘラケズリのち一部ナデ 瓦焼成時の重ね痕あり	ヘラケズリ
29	灰色	灰色	細粒・石を含む	良好	布目痕 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 端部は面取りを施す 一部工具痕が残る	ヘラケズリ
30	黒灰色	灰黄色・黒灰色	細粒を含む	良好	布目痕 一部刷毛ナデ 端部は面取りを施す	ヘラケズリ 端部は面取りを施す 瓦焼成時の重ね痕がある	ヘラケズリ
31	灰色	灰色	長石・角閃石を含む	良好	布目痕一部ナデ	ヘラケズリ	軒丸瓦との接合痕あり

第10表 3号溝出土丸瓦観察表 (2)

熨斗瓦



第52图 3号沟出土熨斗瓦实测图(1) (S=1/3)



第53図 3号溝出土熨斗瓦実測図(2) (S=1/3)

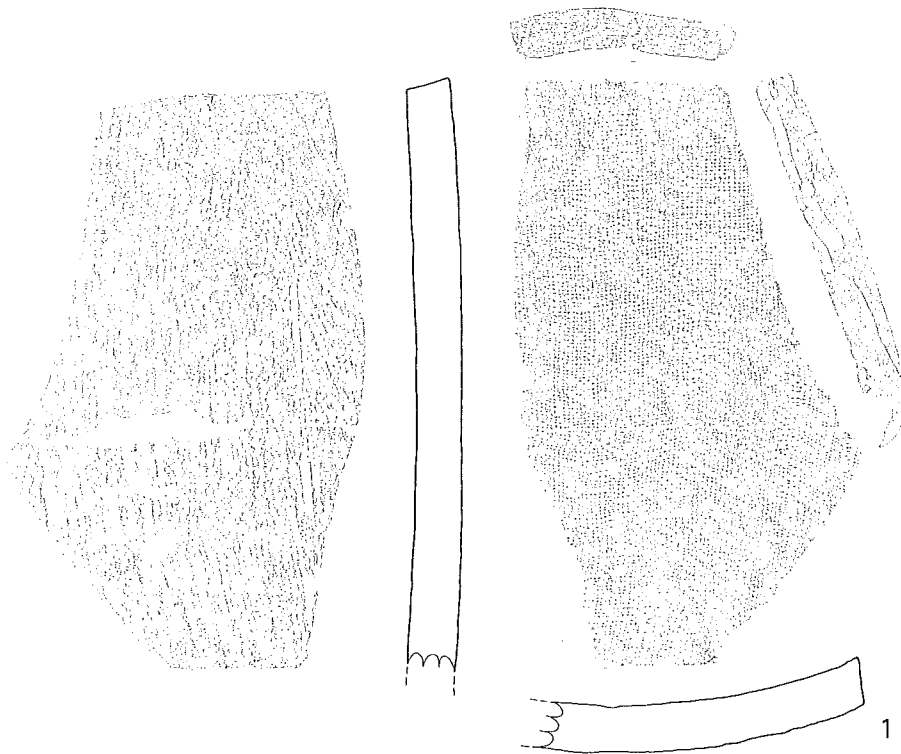
No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・金雲母を含む	やや良好	布目痕のちナデ 一部指頭痕が残る	縄目タタキのちナデ 一部指頭痕及び工具痕が残る	ヘラケズリ
2	褐灰色	褐灰色	石英・長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキ	ヘラケズリ
3	黒灰色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕 端部は面取りを施す	縄目タタキ	ヘラケズリ
4	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	布目痕のちナデ 端部は面取りを施す	縄目タタキのち一部ナデ	ヘラケズリ

第11表 3号溝出土熨斗瓦観察表

No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	灰色	灰黄色・灰色	細粒を含む	良好	布目痕のち一部刷毛ナデ及びナデ	縄目タタキのちナデ 指頭痕及び工具痕あり	ヘラケズリ
2	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・雲母を含む	やや良好	ナデ 端部は面取りを施す 指頭痕あり	縄目タタキのちナデ 一部指頭痕及び工具痕あり	ヘラケズリ

第12表 3号溝出土隅切瓦観察表

隅切瓦



第54図 3号溝出土隅切瓦実測図(1) (S=1/3)

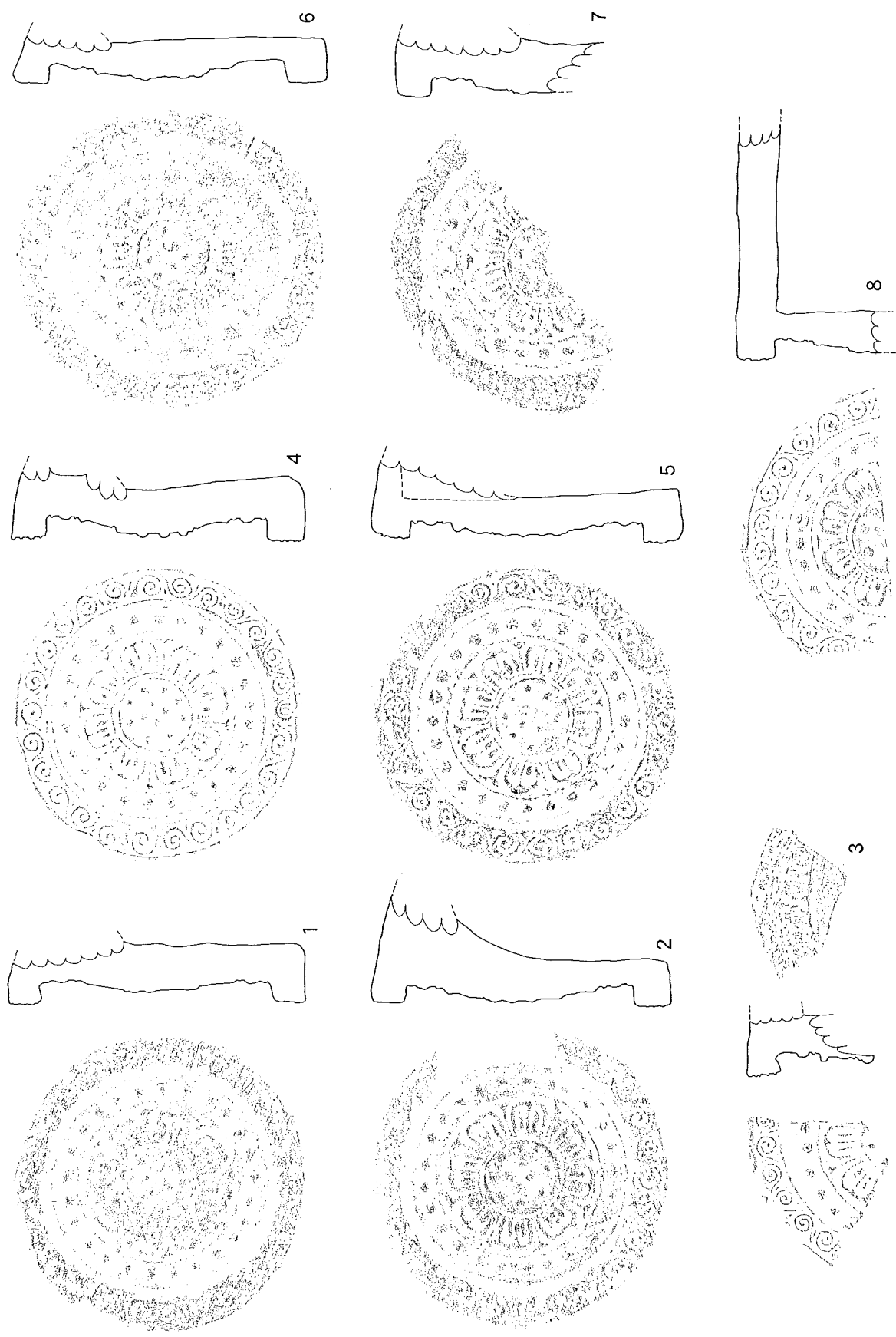
軒先丸瓦

No.	色調(凹)	色調(凸)	胎土	焼成	特徴(凹)	特徴(凸)	特徴(側端部)
1	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・赤褐色粒を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 珠文25	ナデ 接合痕	ヘラケズリ
2	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石・雲母を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8 珠文25	ナデ 接合痕	ヘラケズリ
3	黄橙色・灰色	黄橙色・灰色	微細粒を含む	良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ 接合痕あり	ヘラケズリ
4	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8 珠文25	ナデ 接合痕、指頭痕あり	ヘラケズリのちナデ
5	黄橙色	黄橙色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8 珠文25	ナデ 接合痕	ヘラケズリのちナデ
6	灰白色	灰白色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ 接合痕	ヘラケズリ
7	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ 接合痕	ヘラケズリ
8	灰黄色	暗灰色	細粒を含む	良好	複弁八葉軒丸瓦	ナデ	ナデ
9	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	丸瓦との接合部に粘土を貼付けのちナデ	ヘラケズリ
10	灰黄色	灰黄色	長石・角閃石を含む	やや良好	複弁八葉軒丸瓦 蓮子4+8	丸瓦との接合部に粘土を貼付けのちナデ	ヘラケズリ

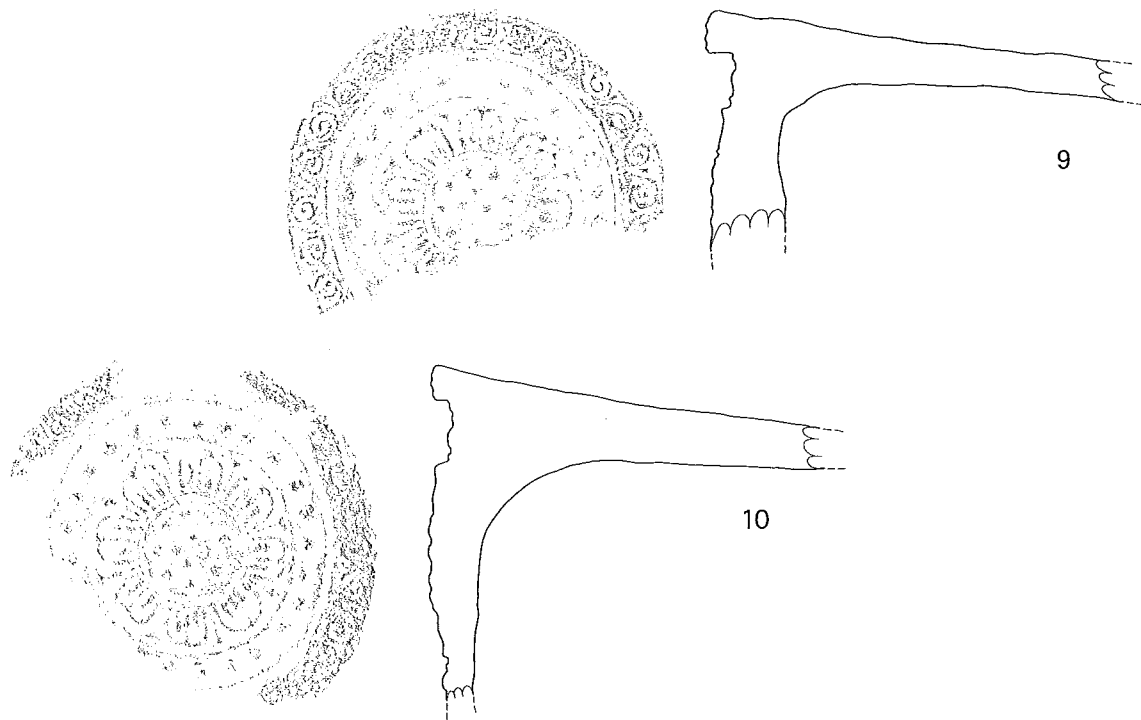
第13表 3号溝出土軒先丸瓦観察表



第55图 3号溝出土隔切瓦実測図(2) (S=1/3)



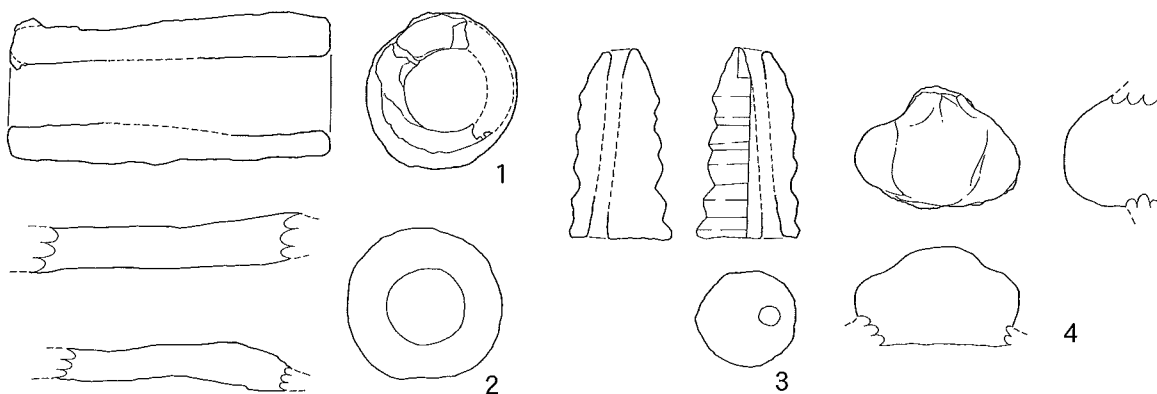
第56图 3号溝出土軒先丸瓦案測図(1) (S=1/3)



第57図 3号溝出土軒先丸瓦実測図(2) (S=1/3)

その他

1はふいごの羽口で、縦長6.1cm、横長12.8cmを測る。色調内面は淡黄色で、一部褐灰色、黄褐色である。外面はにぶい黄橙色で、一部灰白色、褐色、橙色、黒褐色である。胎土は長石、角閃石、赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。2はふいごの羽口で、縦長7.1cm、横長10.9cmを測る。色調内面は浅黄橙色で、一部黄灰色である。外面はにぶい黄橙色で、一部明黄褐色、灰白色、灰色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は良好である。3は有孔土製品で、残存器高7.7cmを測る。色調内面は灰白色で、一部灰黄褐色、浅黄色である。外面は灰白色で、一部灰黄褐色、浅黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は、やや不良である。器面荒れのため、調整は不明である。4は鬼瓦の鼻の部分で、色調は浅黄色で、一部灰色、淡黄色である。胎土は、長石、角閃石を含んでいる。焼成は、やや良好である。



第58図 3号溝出土遺物実測図 (S=1/3)

第4節 まとめ

平成2年度と3年度に調査が行われた塔ノ熊廃寺は、残念ながらその遺構の多くが、後世の開発により失われていた。かろうじて丘陵の端部に、東西を区画するであろう溝を確認できたにすぎない。その為、堂、塔などの有無、位置等は確認することができなかつた。しかし、3号溝と10号溝との間が約43mあったことが確認され、東西幅は約半町であったと推定された。南北については、3号溝の検出された長さにより、約1町と推定される。確認された遺構は少なかつたが、多くの遺物が検出され鬼瓦については、中央部分はほぼ完全な形で検出することができた。

平瓦については、そのほとんどが凹面に布目痕をもち、端部は面取りを施している。また一部の瓦には凹面に布の継ぎ目痕や、桶巻作りで見られる木骨痕を有するものが見られた。凸面はそのほとんどが、縄目タタキを施す。昭和63年に行われた調査で確認された、いわゆる「凸面布目瓦」は、今回は確認することができなかつた。

丸瓦については、凹面は布目痕、凸面はヘラケズリによる調整が行われたものが多く見られた。一部軒先丸瓦を接合する際の刻み目を確認することができた。

軒先丸瓦は、いわゆる新羅系複弁八葉軒丸瓦とよばれるもので、4+8の蓮子を配し、珠文数は25個を数える。外縁の唐草文は、上毛町の垂水廃寺とは逆回転の渦巻き状を呈している。

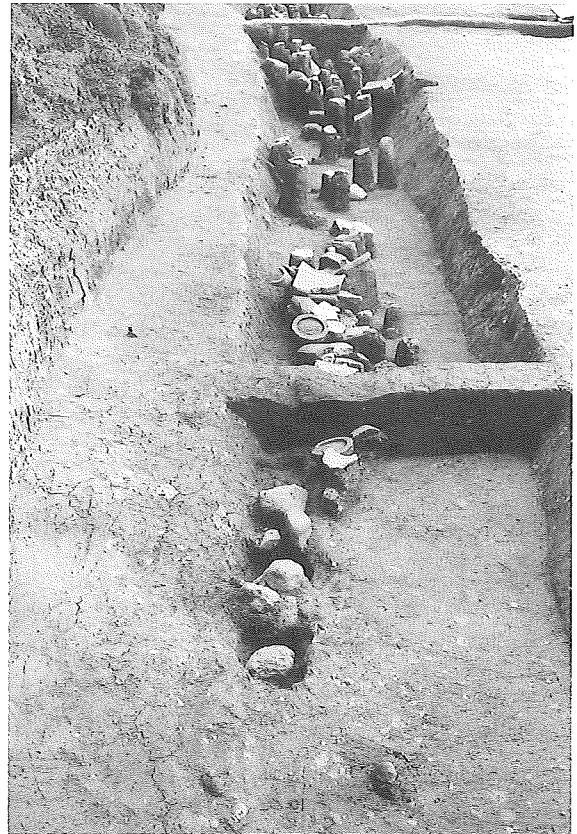
その他注目すべき出土遺物として、3号土坑から出土した瓦塔片がある。近隣では、宇佐市の瓦塚遺跡から検出された数点があるのみである。今回調査で確認された瓦塔片は共伴する遺物が少なく、さらに類例が少なかつたことから時代を特定することが難しかつたが、この塔ノ熊廃寺は出土瓦等から、長期間にわたって存続した寺院とは考えられず、したがって寺院建立の時期とほぼ同時期の8世紀後半と考えた。

塔ノ熊廃寺は、平成2年度と3年度の2カ年に渡り調査が行われた。その後多くの時間があつたにもかかわらず、報告書の刊行が今になってしまったことは、ひとえに調査員の怠慢である。深く反省する次第である。この長い月日の中で、時代はとうに変わり、三光村は村政50周年を最後に、中津市へと編入合併されてしまった。この大きくなった新中津市で、三光村当時やり残した仕事をもう一度掘り起こし、新中津市の文化財行政を今後どうすればいいのか、どうしたいのかももう一度考えてみたいと思う。

<参考文献>

- 「宇佐地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ」 1995年 宇佐市教育委員会
- 「三光村の遺跡」 1989年 三光村教育委員会

写真図版 1



H 3 3号溝遺物出土状況



H 2 3号溝完掘状況



H 3 3号溝完掘状況

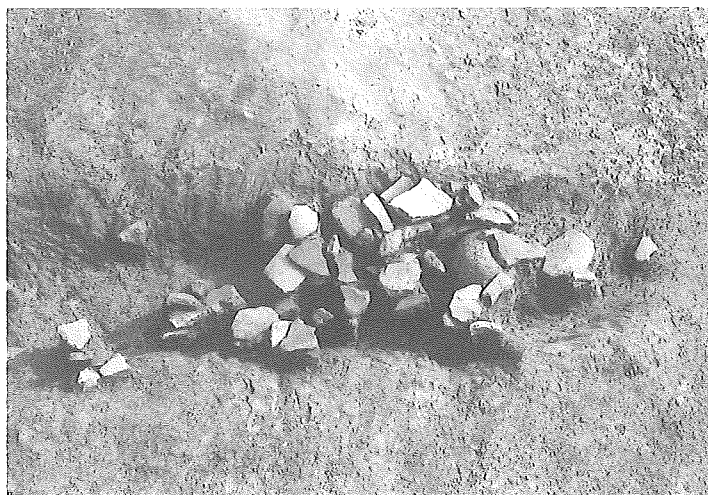
写真図版 2



H 2 3号溝遺物出土状況



H 3 3号溝遺物出土状況



H 2 8号溝遺物出土状況

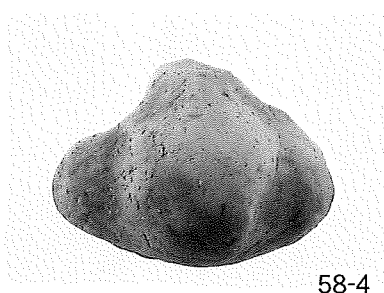
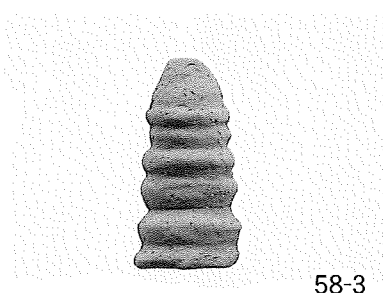
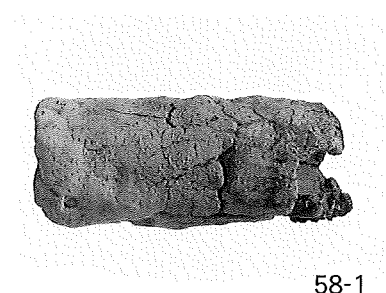
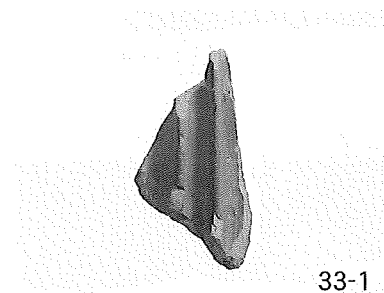
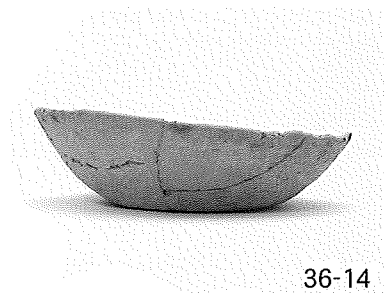
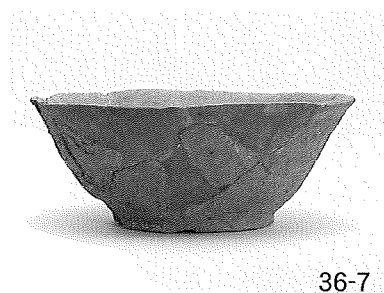
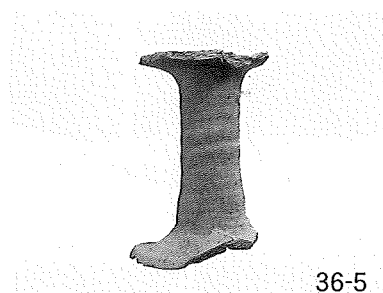
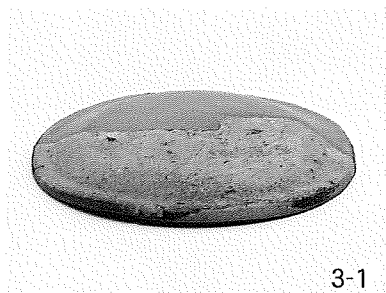


H 2 10号溝完掘状況



H 2 3号土坑遺物出土状況

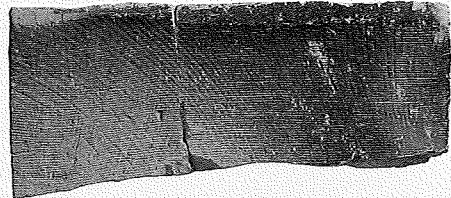
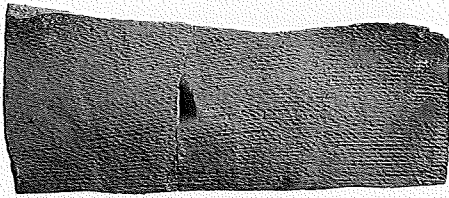
写真图版 3



写真図版 4



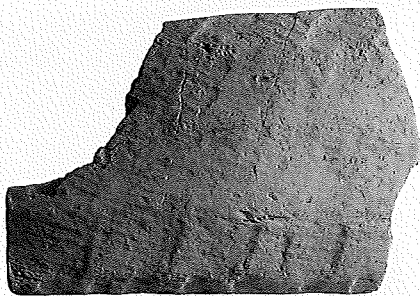
6-2



8-7

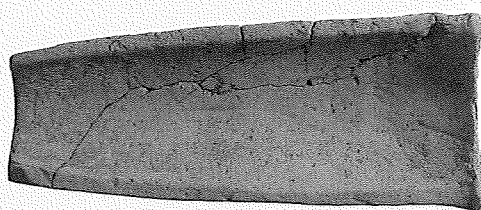
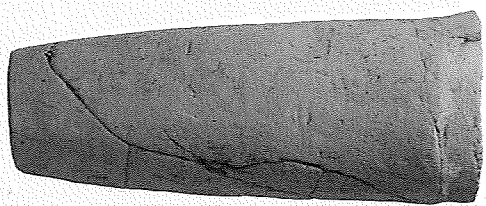


37-1

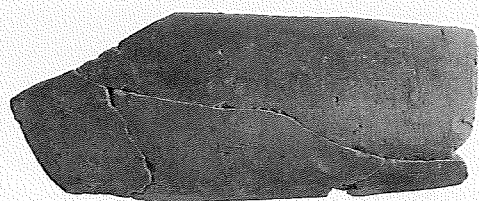


37-2

写真図版 5



19-1



43-1

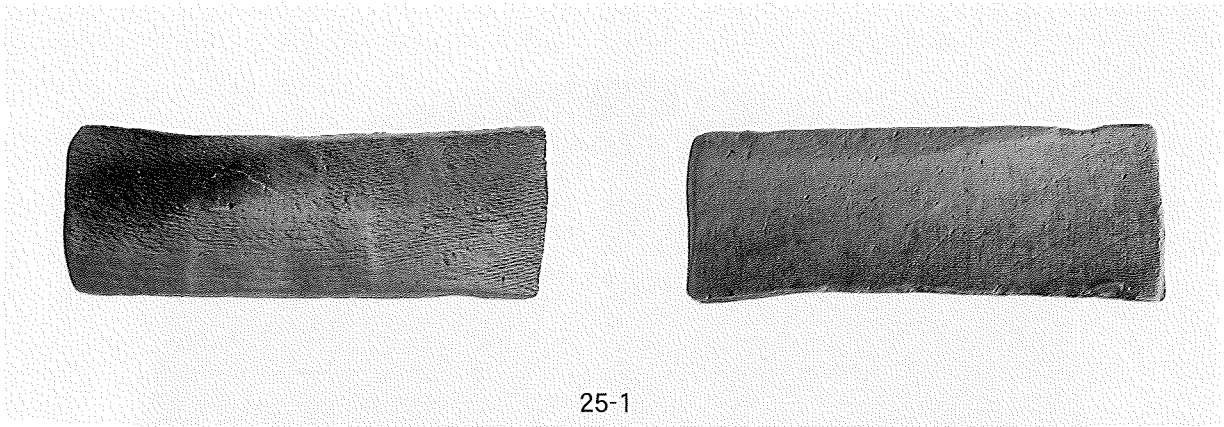


45-5

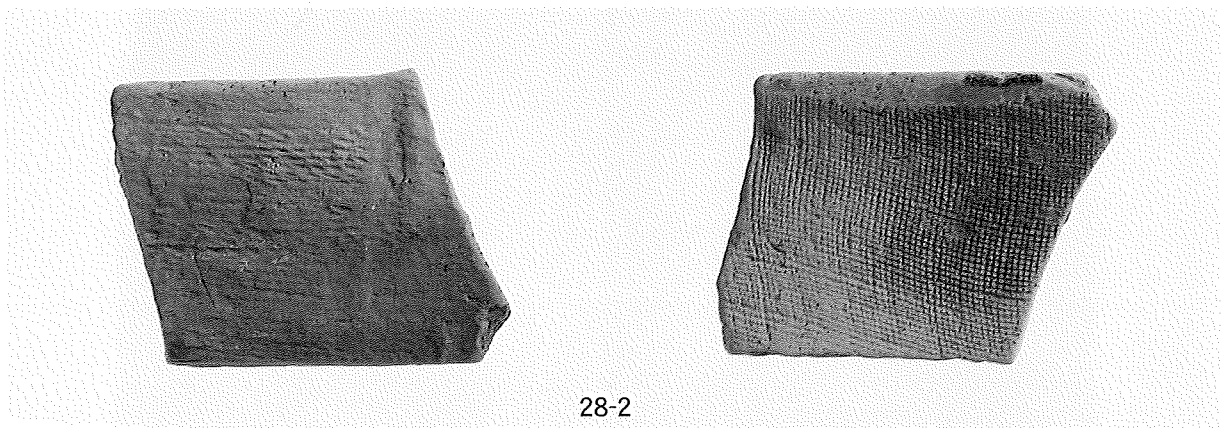


45-6

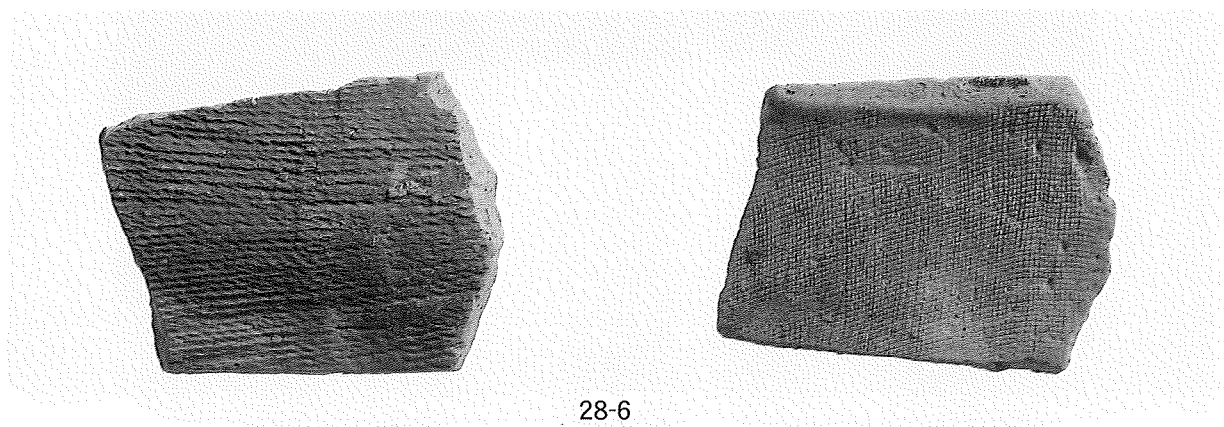
写真図版 6



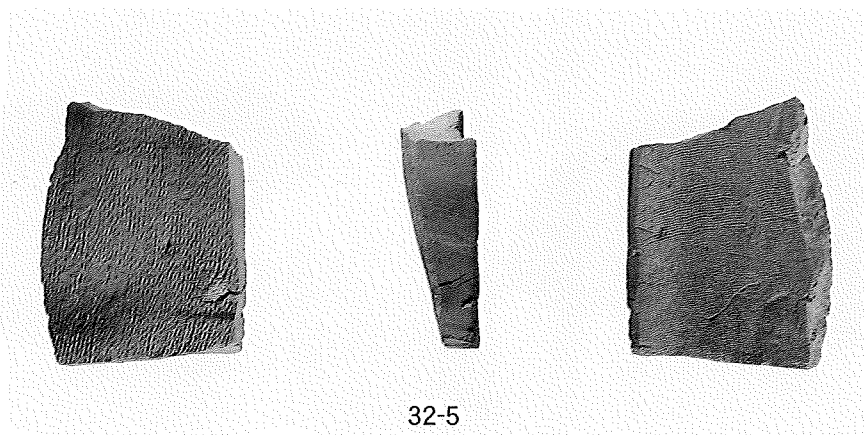
25-1



28-2



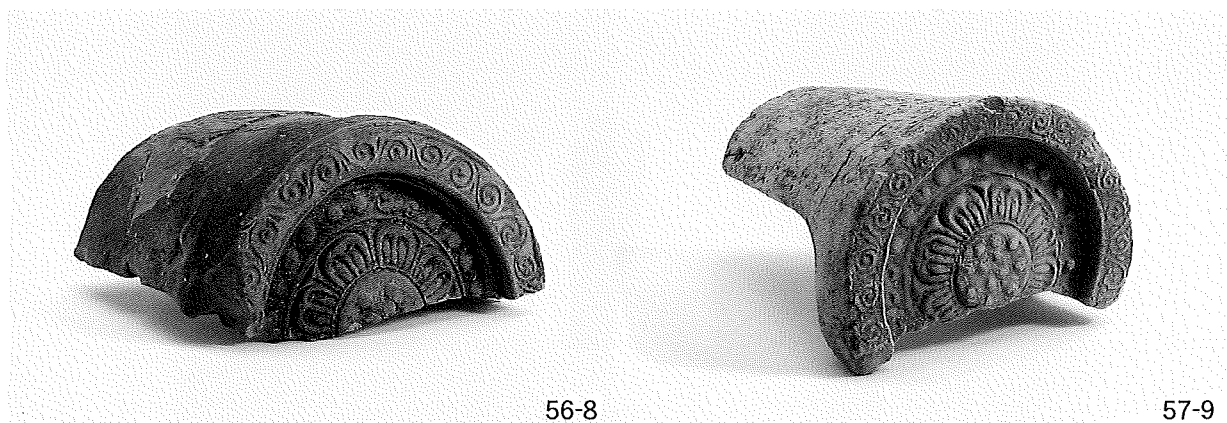
28-6



32-5



34-3



56-8

57-9

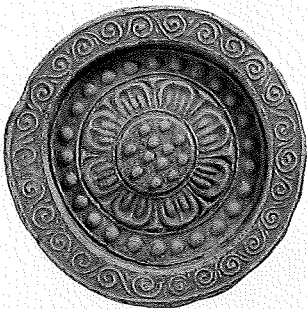
写真图版 8



30-8



34-2



56-4



56-5



報 告 書 抄 録

書 名	とう くまはい じ 塔 の 熊 麿 寺							
副 書 名	三光の遺跡							
巻 次	6							
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第39集							
編 著 者 名	平田 由美							
編 集 機 関	中津市教育委員会							
所 在 地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14-3							
発 行 年 月 日	2006年3月31日							
所収遺跡名	所 在 地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
塔ノ熊麿寺 (第2次調査)	中津市三光 西秣1204番地	44203	103034			19900405 ～ 19900615	3,500㎡	校舎建設
塔ノ熊麿寺 (第3次調査)	中津市三光 西秣1204番地	44203	103034			19910611 ～ 19910907	3,500㎡	グラウンド 造成
所収遺跡名	種 別	時 代	遺 構	遺 物		特 記 事 項		
塔ノ熊麿寺	寺院跡	8世紀後半	溝状遺構 3 土 坑 1 ピット等	平瓦 隅切瓦 丸瓦 軒先丸瓦 熨斗瓦 須恵器 土師器 瓦塔片		新羅系 軒先丸瓦が出土		

塔ノ熊廃寺

中津市文化財調査報告 第39集

2006年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 俵川原田印刷社